

育教子女
理地本日近最

版訂十
編所輯編堂省三

社會式株
堂省三

教
4
200

42880

教科書文庫

4
296
42-1931
2000 39095

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

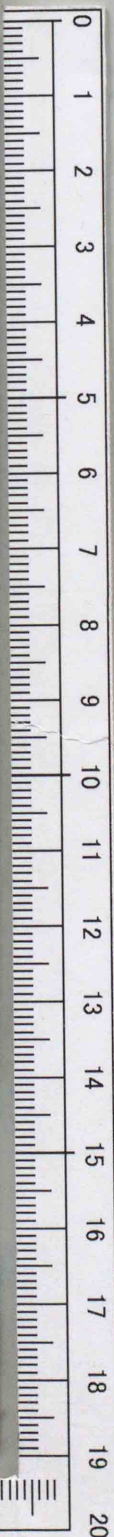


© Kodak, 2007 TM. Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM. Kodak



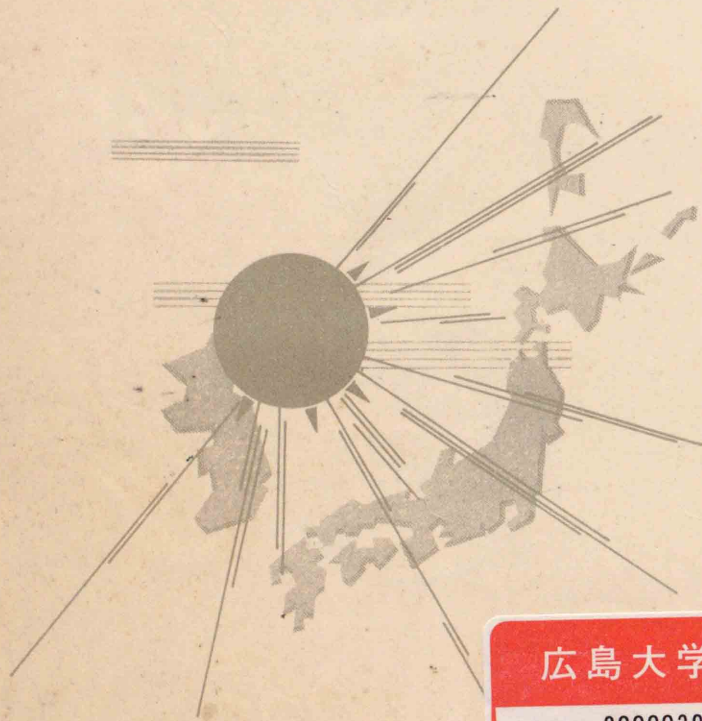
日十月二年六和昭
濟定檢省部文
用科理地校學女等高

教科書文庫
4
290
42-1931
2000039095

育教子女 理地本日近最

版訂十

編所輯編堂省三

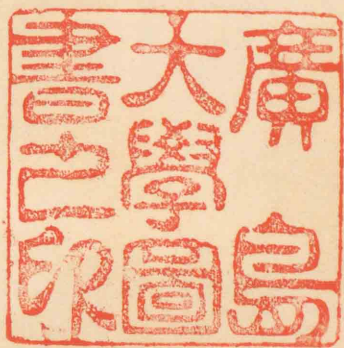


広島大学図書
2000039095

社會式株
堂省三

資料室

375.9
Salt



日光東照宮の陽明門

日光廟の華麗は内外に知られてゐるが寫眞はその最も壯麗な部分を示したものである。正面の石階上にあるのは世に日暮門と呼ばれる陽明門で、その左側にあるは鼓樓、前の小さきは釣燈籠の覆屋、鼓樓の後に見えるは藥師堂である。又階下の鳥居の左に建つは輪藏、之と列ぶのは水盤舎、近く右方に一部を現はすは上神庫である。四邊を閉す老杉の深緑と燦爛たる丹碧との對照は、自然の妙と人工の美との調和の極致である。



日 光 東 照 宮 の 陽 明 門



大 阪 の 安 治 川 口



東 京 の 一 部

東京市の一部

政治的中心で又經濟的中心たる東京、その東京の中央を横ぎつて隅田川が流れてゐる。圖は兩國附近の中空から上流を見た光景で、右手に近き塔形の建物は、震災當時の悲惨を物語る被服廠跡の記念堂である。

大阪の安治川口

物資吞吐の大門戸である安治川口の光景を中空から眺めたもので、水面には大小の船舶が來往織る如く、無數の煙突から吐く煤煙は市街を模糊の裡に包み、如何にも商工都市の霸稱を辱かしめない感がある。

辯 言

本書は、高等女學校の教科書とする爲に、最近の事實に基いて編纂したもので、女子教育「最近世界地理」女子教育「最近地理通論」と連絡し、相俟つて地理教授の本旨を達成することに努めた。

本書の編纂に當つて、特に意を用ひた要點は、大要次の通である。

- 一、小學教育との連絡に考慮して内容の程度を高め、教材を有機的に統合して總括的知識を養成することに最も力を盡した。
- 一、挿畫は嚴密に選擇して一々略解を附し、殊に多數の産業圖を加へて、總括的記述の本文と對照し、その印象を深めると共に、了解會得に便ならしめた。
- 一、人口は大正十四年國勢調査の結果に據り、人口二萬以上の都邑は、各府縣の初頭欄外に列記して、概觀し易からしめた。
- 一、市と朝鮮の府とは、總て太字を用ひ、地方廳の所在地には特殊の記號(□)を附して、他の都邑と區別した。

一、産業の統計は能ふ限り最近の數に據つたが、種類によりその變動の著しいものは、數年間の平均數量を採用した。

一、距離尺度は總てメートル法を本位としたが、航路は一般の慣用に從つて哩を用ひ、鐵道にも哩を用ひた所がある。

本書は時勢の推移につれ、第十回の訂正を加へて益々内容を改善した。是れ偏に教官各位の熱誠な注意や、援助に負ふ處である。茲に謹んで感謝の意を表する。

昭和五年十月

編 者 識

女子教育 最近日本地理 目次

大日本帝國……………一

前篇 地方誌……………三

第一章 關東地方……………四

第二章 奥羽地方……………三

第三章 中部地方……………三

第四章 近畿地方……………五

第五章 中國地方……………七

第六章 四國地方……………八

第七章 九州地方……………八

第八章 北海道……………一〇

第九章 樺太南部 附北樺太……………一六

第十章 臺灣……………三三

第十一章	朝鮮	三
第十二章	關東州・南洋諸島	四

後篇 總說

第一章	地形	四
第二章	海洋	五
第三章	氣候・生物	五
第四章	産業・産物	五
第五章	交通	六
第六章	住民	六
第七章	政治	六

女子教育 最近日本地理 目次終



女子教育 最近日本地理

大日本帝國

帝國の四極

- 極北 千島の阿頼度島北端 (北緯五〇度五五分)
- 極南 臺灣の七星岩南端 (北緯二一度四五分)
- 極東 千島の占守島東端 (東經一五六度三〇分)
- 極西 澎湖諸島の花嶼西端 (東經一九度一八分)

我が帝國は、アジャ大陸の東邊に沿つて、約四千七百浬(約一千)に互る日本列島と大陸から突出して、長さ約八百浬(約二)に及ぶ朝鮮半島とから成つてゐる。日本列島は三の弓形を作つて、東北から西南に連り、その内側はオホーツク海、日本海、東支那海を挾んで、アジャ大陸と離れ、外側は廣い太平洋を隔て、遙に兩米大陸及び大洋洲と對してゐる。朝鮮半島は大陸の東部にあつて、日本海と黄海とを分け、列島との間に朝鮮海峽を挾んで、我が本土と大陸との橋梁となつてゐる。

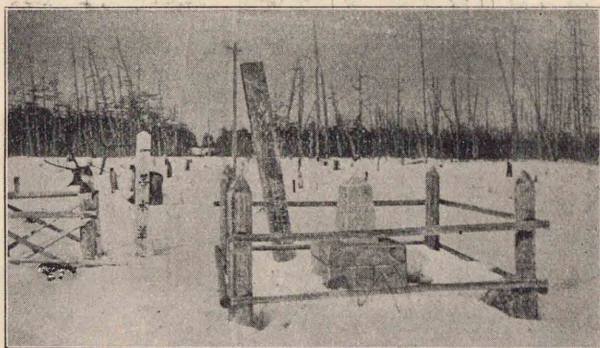
石 樺太の境界標
天測境界標四ヶ所の中
第三天測點を示す

面積の概數

本州	311,000
朝鮮	311,000
北海道本島	79,000
九州	350,000
樺太	35,000
臺灣	36,000
四國	18,000
其他	11,000
合計	約740,000
其他	(約440,000方里)

人口の概數

本州 4,470,000



本州	33.3
朝鮮	32.7
北海道	11.7
九州	5.5
臺灣	6.2
樺太	5.5
四國	2.9
其他	3.7

朝鮮及び樺太の北部は、自然又は人為の境界で、南朝鮮は海に圍まれ、千島・間宮・臺灣・バシー等の海峡は、帝國と外國とを隔てる、極めて狭い水面である。

帝國の面積は約六十七萬方里(約四萬四千方里)ある。その中最も廣いのは本州で、全體の約三分の一を占め、朝鮮は之に次いで稍、小さい。北海道本島は本州の約三分の一に當り、九州・樺太・臺灣は面積が殆ど相等しく、何れも北海道本島の約二分の一に當り、四國は更にその半分に當つてゐる。帝國の人口は約八千四百萬に達し、面積の割合に著しく密である。

前篇 地方誌

四國	37
九州	26
北海道	25
朝鮮	19
臺灣	19
樺太	3
合計	80

内地以外の土地を植民地と呼ぶ。本州・四國・九州は、帝國の主要部で、北海道と共に内地と呼び、昔は畿内・八道・八十五國に分れてゐたが、今は行政上、之を一道・三府・四十

三縣に分ける。その後、新に臺灣及び樺太の南部を加へ、關東州を租借地とし、更に朝鮮を併合したが、世界大戰の結果、南洋諸島の一部(舊獨逸領土)も、我が國へ統治を委任されることになつた。

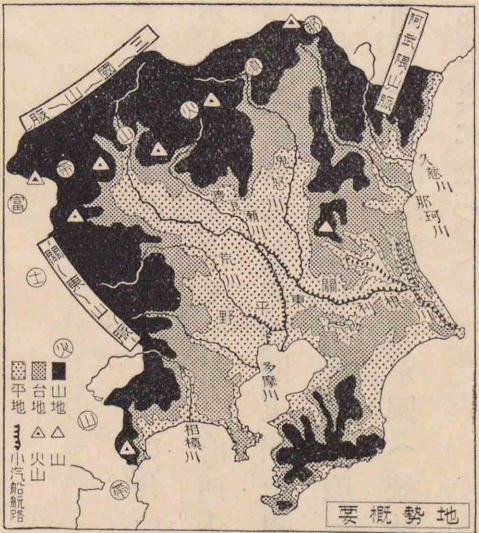
本書は、便宜上本州を分けて、關東・奥羽・中部・近畿・中國とし、之に四國・九州・北海道と、新領土の臺灣・樺太・朝鮮とを加へて、全國を十一地方とし、別に租借地の關東州と、委任統治地の南洋諸島とを一章として附記した。

畿道國別

畿内	山城	大和	河内	和泉	攝津
東海道	伊賀	志摩	尾張	三河	遠江
東山道	駿河	伊豆	相模	武藏	安房
北陸道	上野	飛騨	信濃	陸奥	下野
山陽道	近江	美濃	常陸	陸奥	羽前
山陰道	若狹	岩代	陸奥	陸奥	羽前
山陽道	播磨	美作	備前	備中	備後
山陰道	丹波	長門	備前	備中	備後
南海道	石見	隱岐	因幡	伯耆	出雲
西海道	筑前	淡路	阿波	讚岐	伊豫
南海道	日向	大隅	薩摩	豊後	肥前
北海道	日高	十勝	釧路	根室	千島

第一章 關東地方 通説

本州の東南部に當り、昔は關東八州と呼ばれた地方で、政治上、一府六縣に分ける。早くから政治上の中心となつたが、江戸時代になつて大いに發達し、明治以降の進歩は殊に著しく、今はあらゆる方面に於いて、全國の中心となり、人口密度も全國第一である。

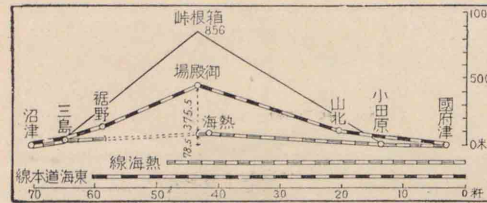


府縣名(廳所在地)	管轄國名
東京府(東京市)	武藏一部、伊豆七島、小笠原諸島
神奈川縣(横濱市)	武藏一部、相模
千葉縣(千葉市)	安房上總、下總一部
埼玉縣(浦和町)	武藏大部
群馬縣(前橋市)	上野
栃木縣(宇都宮市)	下野
茨城縣(水戸市)	下總一部、常陸

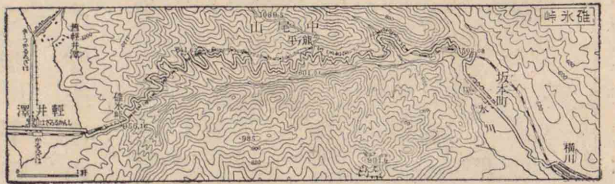
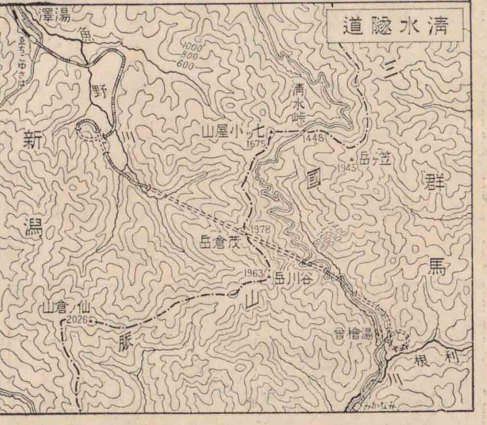
面積 (約三〇〇〇方里)
(約二〇〇九〇方里)
人口 約一二三萬
(二方里約三八四)

地形 大體の地形は、北部山地及び關東平野に分かれる。西部山地及び關東平野に分かれる。

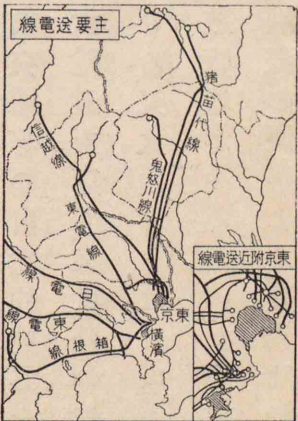
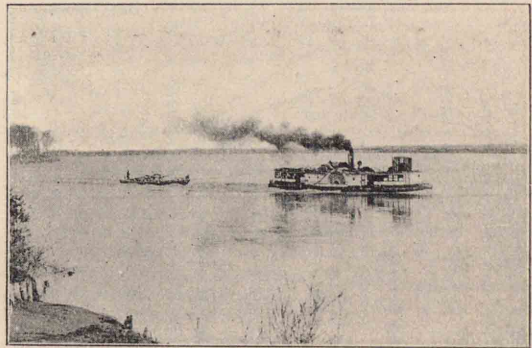
河	利根川 三三三
荒川 一七七	相模川 一四七
多摩川 一一七	久慈川 一四一
霞浦 一一八	北浦 一五〇
北沼 一七〇	中沼 一七七
中沼 一七七	蘆湖 二〇三
蘆湖 二〇三	



る。北部には、阿武隈・三國等の山脈が連り、那須火山帯が殆ど之と並んでゐる。(1)
西部は關東山脈に屬し、富士火山帯の箱根山がこの南部に聳えてゐる。此等の山地は、殆ど一続きとなつて、氣候・産業・交通等の自然的境界をなし、鐵道は多く、大隧道を穿ち、又は急勾配によつて之を横ぎる。又、火山地方には處處に溫泉が湧き、從つて保養地・遊覽地が少くない。(3)
關東平野は、我が國最大の平野で、灌漑の便がよく、産業は發達し、交通は開け、從

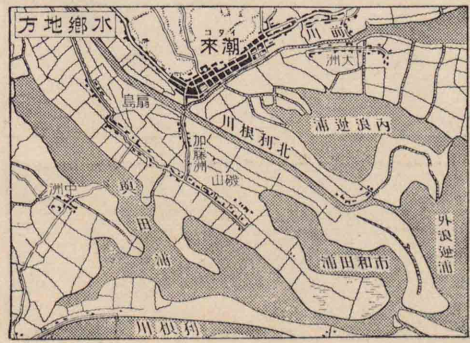


利根川の下流
水量の多いことは全国
屈指で、船の如き小汽船
は、開河まで通じてゐる



川荒川等である。中でも利根川は、鬼怒川・渡良瀬川等の大きな支流が多く、分流の江戸川及び霞浦・北浦・印旛沼等の湖水群、運河等と相俟つて、利用の広いことは国内第一といはれる。

つて都邑も多い。河は多く此等の山地から發し、東南に流れて、關東平野を貫く。その主な

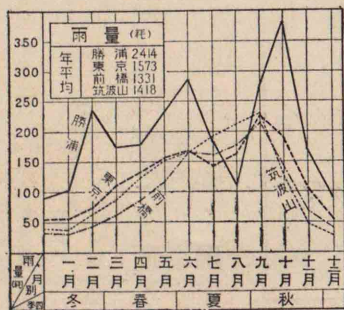
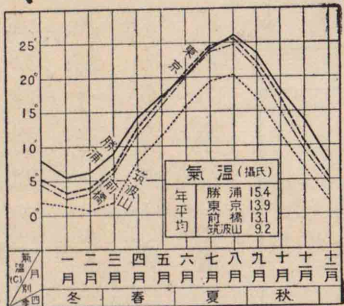


大都市水道の水源として重要な川もある

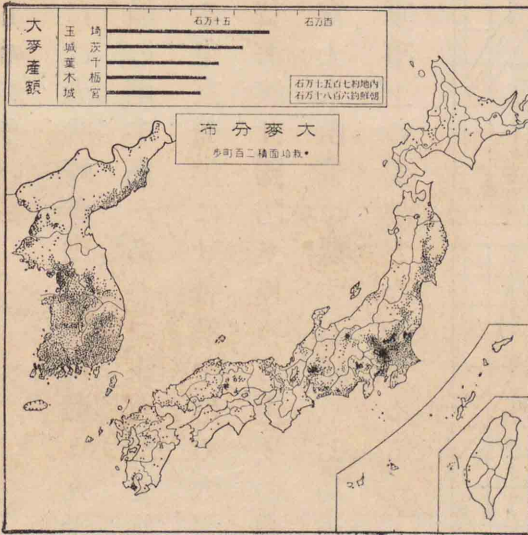
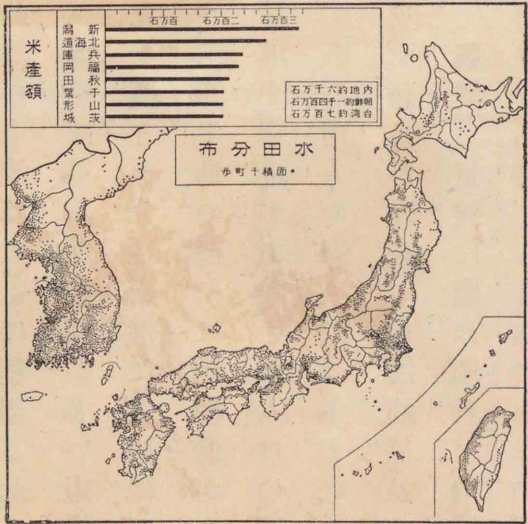
浦賀水道及びその附近は要塞地帯で、觀音崎と富津とに砲臺が設けてある

此等の上流は、發電に利用されるものが多い。海岸は單調な砂濱が多い。東岸には犬吠崎が出て、鹿島灘と九里濱とを分け、南部には房總三浦の兩半島があつて、東京灣を抱へ、三浦半島の西には相模灣がある。東京灣岸には、帝都を始め、大賀易港や、軍港があり、その入口の浦賀海峽は、國防上極めて主要の處である。南方の海上には、主として富士火山帯に屬する伊豆七島・小笠原諸島が點在し、交通・通信及び軍事上の要地となつてゐる。

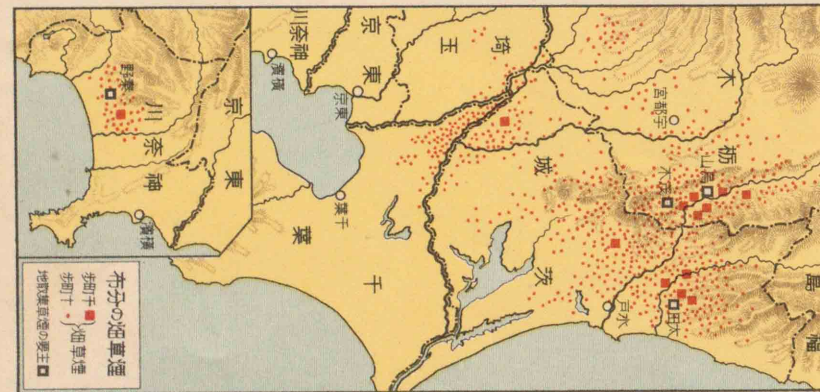
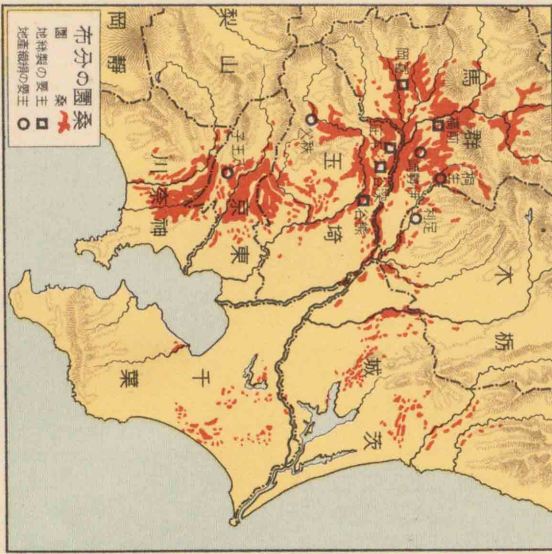
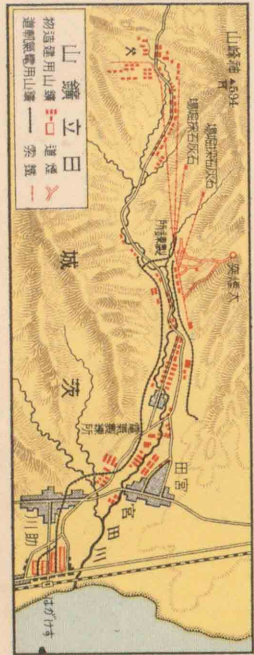
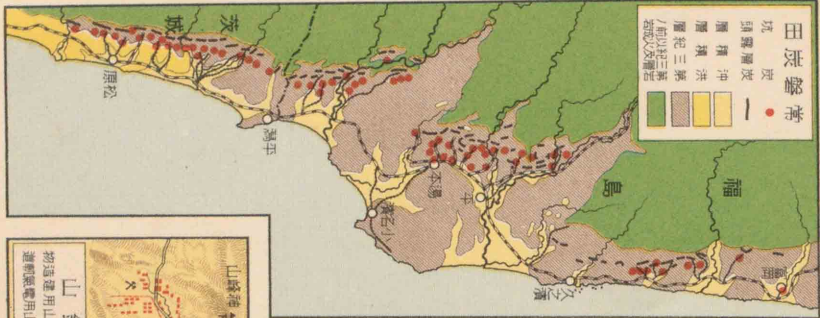
氣候 氣候は概ね溫和で、雨量も潤澤である。殊に海岸地方は、直接に海流の影響を受け、且丘陵が寒風を遮るから、冬は溫暖で夏は割合に涼しく、著名の保養地も多いが、



關東地方の大麥産額は全産の約二分の一を占めてゐる

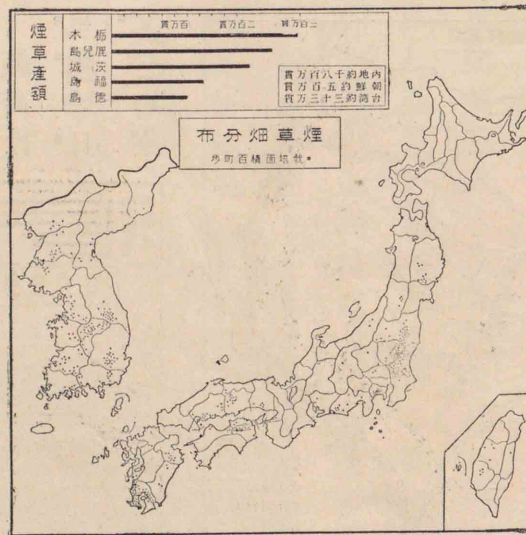
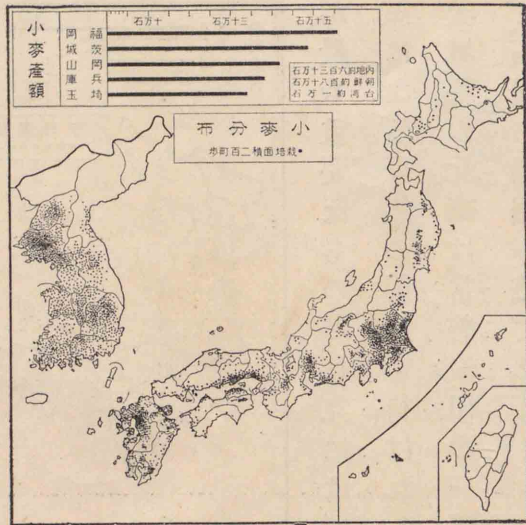


内地に入るにつれて、寒暑の差が次第に烈しくなる。雨は季節風の關係で夏に多く、冬は著しく乾燥する。
産業 氣候・地味等の關係から、農業が大いに開け、灌漑に便利な低地には水田が多く、米の産に富み、臺地は麥類・甘藷等を多く出す。



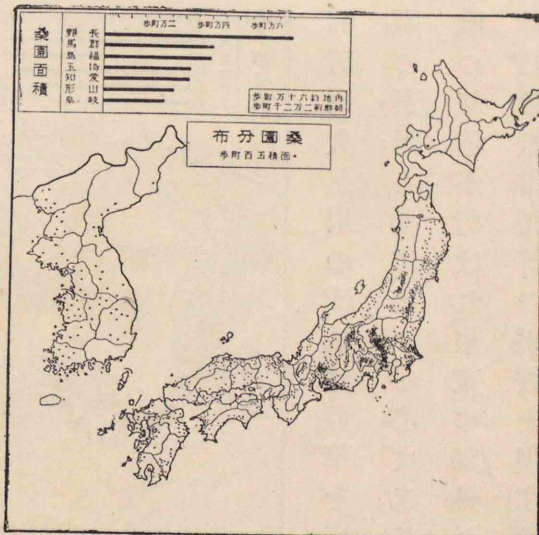
溫暖地方には蔬菜の促成栽培が行はれる
小田原附近は殊に温暖で蜜柑を多く産し筑波山の東南麓も亦蜜柑の産が少くない

那珂川・久慈川の流域は煙草を出し、茂木・烏山(以上栃木)・太田(茨城)は、神奈川縣の秦野と共に、その中心である。栃木縣には、鹿沼を中心として大麻の栽培が行はれ、東京の郊外及び近縣では、野菜を作つて市に供給し、又蜜柑・梨等の果實を出す。西部の山麓地方には、桑園が廣く、養



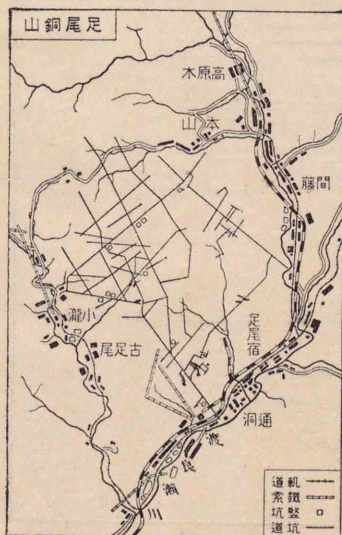
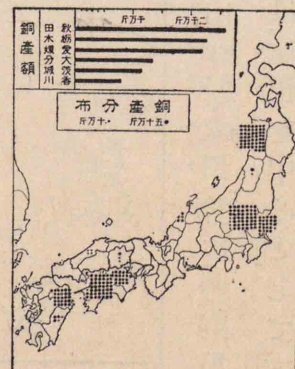
富岡は製絲釜数は多くないが有名な大製絲場である

常磐炭は主として兩毛及び長野方面の製絲地へ送られ又京濱地方へも供給する



が最も重要なもので、日立には買鑛による金・銀の製錬も行はれる。茨城縣の北部は、常磐炭田の一部で、石炭の採掘が盛である。

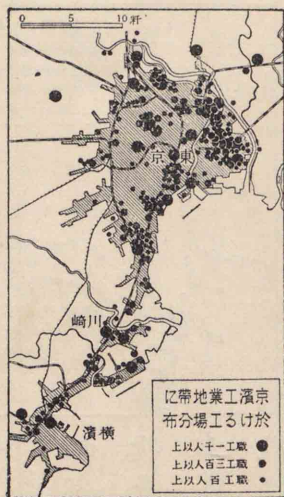
蠶が盛で、繭の産に富み、富岡・前橋(以上、群馬)その他高崎線に沿ふ地方には、製絲地が多い。鑛産は足尾・日・立(茨城)の銅



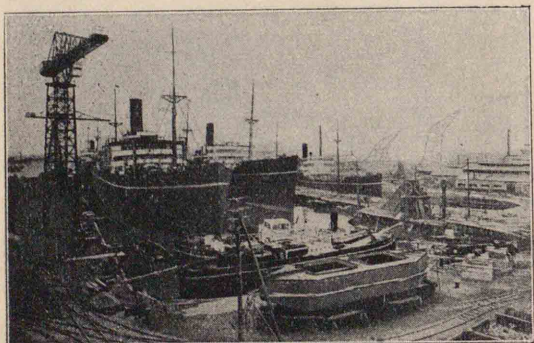
京濱の海岸
造船工業の光景

等の沖漁業も行はれ、従つて兩半島及びその附近には、大小の漁港が多く、銚子(千葉)は殊にその著名なものである。東京灣には海苔・貝類の養殖が行はれる。

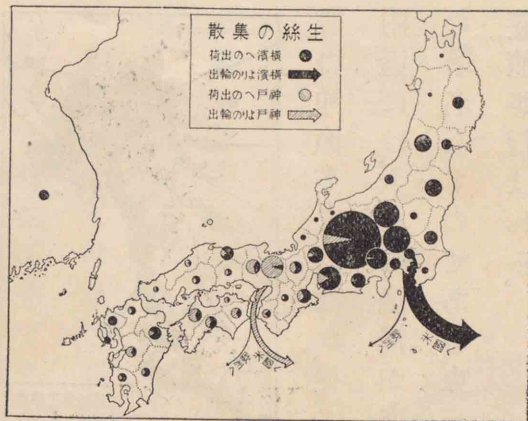
京濱地方は、人口が稠密で勞力を得易く、交通機關が整つて、原料及び製品の輸送に便利で、水力の供給も容易であるから、我が國有数の工業地帯となり、東京から川崎を経て横濱



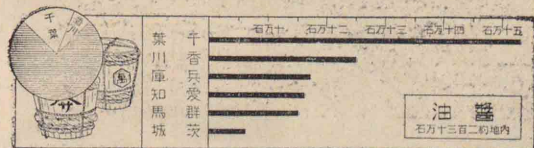
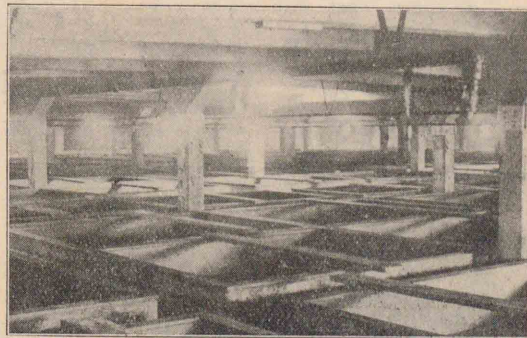
沿海地方は各種の魚族に富み、且東京横濱等の大消費地を控へてゐるから、漁業が甚だ盛である。殊に千葉・神奈川の近海は、鰯・秋刀魚等の漁利が多く、鰹・鮪(カツラギ)等



醬油製造場
銚子にある金醬油製
造場の鐵筋混泥土製仕
込みタンクである



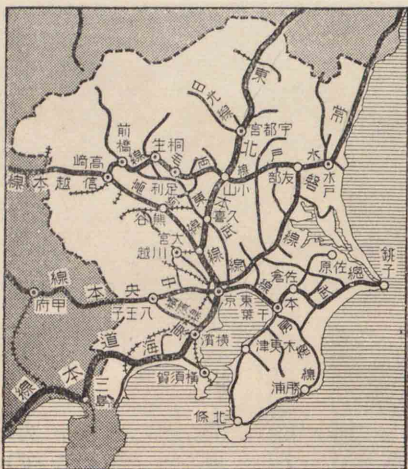
に至る一帯は、大小の工場が列んで、殆ど一連の市街地をなし、各種の工業が甚だ盛である。西北部の養蠶製絲地方では、機業が大いに進み、中



も桐生、伊勢崎(以馬)、足利(木)、父(玉)、子(京)等は、名高い絹織物の産地で、又處々から綿織物を出す。利根川の下流地方には、醸造地が多く、野田、銚子(千葉)の醤油、流山(千葉)の味淋は殊に名高い。

- 1 東京・神戸間
- 2 東京・名古屋間
- 3 大宮・高崎間
- 4 東京・青森間
- 5 東京・岩沼間
- 6 東京・銚子間

東京無線電信局の原町・福岡の二局は對米國、檢見川・岩槻の二局は専ら對南洋の通信をなし、尙富岡に分室がある



商業も甚だ盛で、東京は大阪と共に國內商業の二大中心となり、横濱は東京の門戸であると共に、我が二大貿易港の一で、廣く養蠶機業地方を背後地とし、生絲・絹織の輸出がその特色である。

交通 近年自動車の普及と共に、道路の修築が大いに進み、鐵道網の密なことも、全國第一である。主要の線路には、東海道線、中央線、高崎線、東北線、常磐線、總武線等があり、殊に東海道線は、設備も運轉回数も全國第一で、東北線又は常磐線と共に、表日本の幹線である。

航路は横濱を中心として、内外の要港と通じ、東京は近海航路の中心となつてゐる。無線電信電話も著しく發達し、東京無線電信局(送信所||原町(福島)檢見川(千葉)は規模が殊に大きく、又飛行機によ



橋 重 二

るゐてつ當に方右の圖は所御り成らかき橋石の景近と橋鐵の景遠



宮 神 治 明

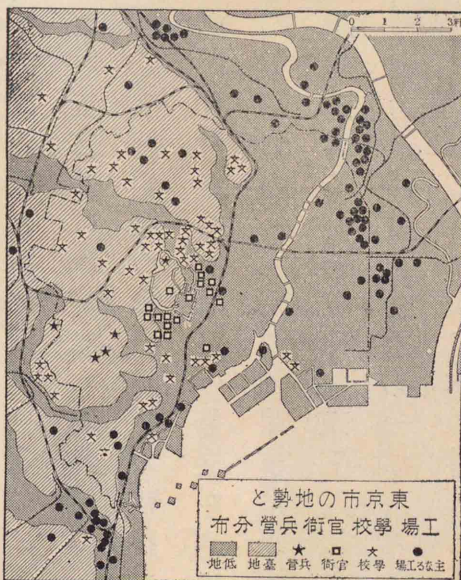
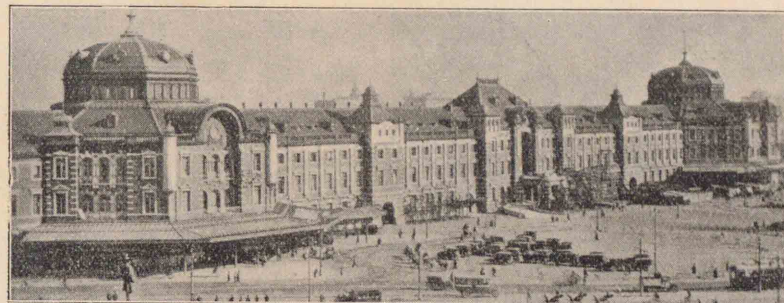
いし々神入一じ映と緑の松は殿社の木白で景光たし拜らか面正ち即門神南

東京府(東京)

東京市	都邑人口	千人
八王子市		一九九六
澁谷町		四九五
西武町		九九九
野川町		九二二
荏野町		七二二
中野町		六六〇
王子町		六〇〇
三軒島町		五九九
大井町		五七七
日暮里町		五五七
南千住町		五五五
品川町		五五三
千代田町		五五二
代々木町		五二二
この他府内		二
二十万以上の町		五
二万以上の町		二

東京は全市を十五區に分ける

東京停車場
本邦最善の停車場で長さ三百二十六米右端は乗車口左端は降車口中央は皇室用の昇降口である

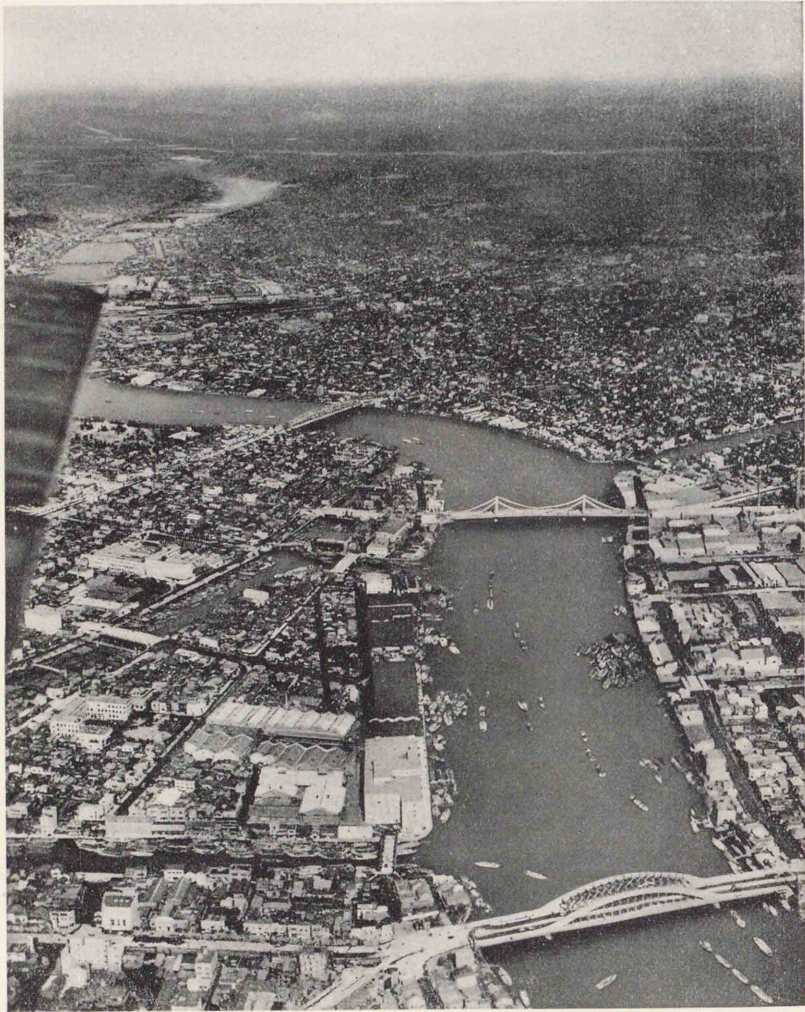


る定期の航空輸送も近年開始された。

東京府は、東京市とその接続町村、西部山地、中間臺地の三地區に分れる。

東京市は隅田川に跨り、その發展と共に、接続市街の膨脹も著しく、今は人口五百萬に近い地域が、一大都市の觀

處 誌



京東を見てしと心中を川田隅

く多が場工大はにき近附口河さ流中のそ...し流貫を中市の京東は川田隅
連を之が橋長の多数...れらめ埋に家人は岸兩...で繁類が復往の船てつ従
壯る斯てしにも忽又...く如の夢ものたつなま土焦が面一邊のこ...るゑてれ
橋...で景光ため眺を流上らか流下は圖...るあでく如の夢ものたし活復を觀
に僅に上の翼(すえ見)橋國兩・橋大新・橋洲清・橋代永...さるげ舉に次順を
るあて橋間言・橋鐵道鐵武東・橋妻吾・橋形駒・橋既が次・橋前藏がるえ見

圖解地下鐵道
現に淺草・萬世橋間に
通じてゐる

大審院・控訴院・近衛及び第一師團司令部等がある。又東京帝國大學・商科大學・文理科大學等を始め各種の學校が多い

圖解東京市の中心部
日比谷公園の上空から
九之内方面を見た光景

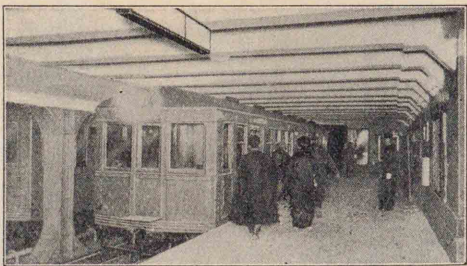
圖解郊外住宅
田園調布の一部を俯瞰
した光景



を呈してゐる。市は我が國の
首府で、宮城を始め、主要の官
衙・學校・銀行・會社等が多く、政
治・軍事・學術・商工業の大中心
である。地

勢上、山手
（臺）と下町
（地）とに分

れ、山手から郊外にかけて
は、學校・住宅等が多く、下町
は商工業地帯で、その中樞
部には、高層家屋が並んで
ゐる。市の内外には各種の



淺草の所在

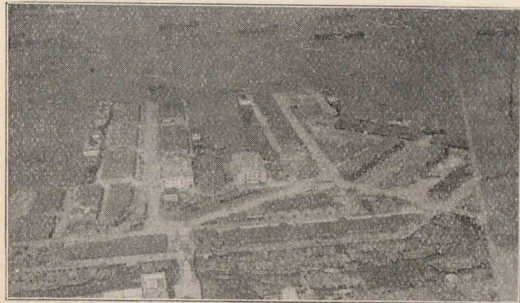
浅草寺・泉岳寺・増上寺及び日比谷・上野等の公園がある

神奈川縣(横濱)

郡邑人口	千人
横濱市	五一五
横須賀市	九六
川崎市	七五
平塚市	三五
藤原町	二五
藤澤町	二二
鎌倉町	二二
茅崎町	二二

横濱の埠頭

横須賀に第一海軍區鎮守府がある。浦賀に近い久里濱はペリーが上陸した地である



大工場が多く、盛に綿絲毛織肥料洋紙麥酒機械等を産し、又明治神宮靖國神社等を始め、名地が處々に散在して、観光の客が絶えない。⁽²⁾ 背後の臺地は、埼玉神奈川の兩縣に續いて一區をなす處で、交通の發達と共に、市の住宅區域が、この方面に擴がりつゝある。山地に接する八王子市は、養蠶機業の中心で、附近に多摩御陵がある。

神奈川縣は、東京灣岸地方、相模灣岸地方及び背後の山地に分れる。⁽¹⁾ 横濱市は、我が大貿易港の一で、港灣の施設がよく整ひ、近年工業も盛となり、海岸には倉庫や工場が多く、隣接の川崎市と共に、京濱工業地帯の一部である。横須賀市は軍港で、壯大な工廠が置かれ、浦賀にも造船所がある。⁽²⁾ 相模灣岸地方(湘南地方)は、京濱地方に對

埼玉縣(浦和)

郡邑人口	千人
川崎市	三三
熊谷市	三一
大宮町	二五
浦和町	一八

鎌倉には鶴岡八幡宮・建長寺・圓覺寺・大佛・鎌倉宮(祭神護良親王)等がある

鎌倉の大佛

高さ十米半といはれる

箱根山の一部分と蘆湖

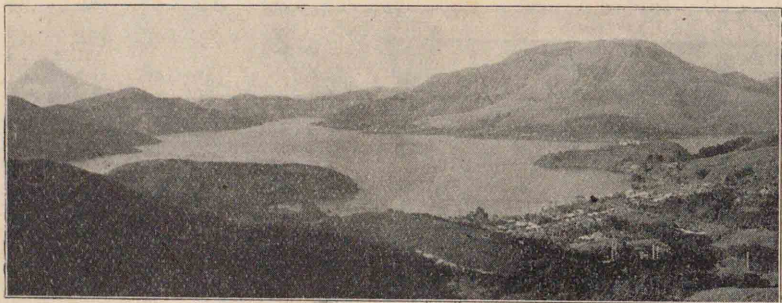
箱根町から蘆湖を隔てて離宮・關所址等を望んだ光景で左方に時つは富士山

する第一の保養地帯で、鎌倉・逗子・大磯・小田原等がある。鎌倉は源頼朝の幕府を開いた處で、史跡に富み、小田原は箱根山麓の宿場として發達した處である。⁽³⁾ 箱根山は往時街道の要地であつたが、今は遊覽地として名高い。



箱根山は名高い複式火山で、大きな外輪山の中に、數箇の火口丘が聳え、火口原湖の蘆湖を山中に湛へ、湖岸に離宮や關所の址がある。蘆湖から出る早川の溪谷には、處々に温泉が湧き、又風景もよいので、入浴遊覽の客が多い。

埼玉縣の要部は、關東平野の低地臺地で、西部山地には秩父盆地がある。⁽¹⁾ 低地に發達せる



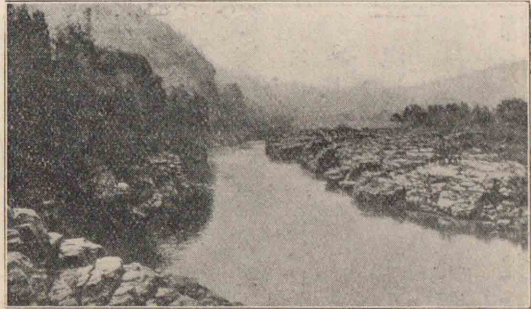
熊谷の西南に當る
吉見に百穴がある

奇岩が連り秩父の赤壁
といはれる

④ 群馬縣(前橋)

都邑人口 千人
前橋市 七四
高崎市 五五
桐生市 四三

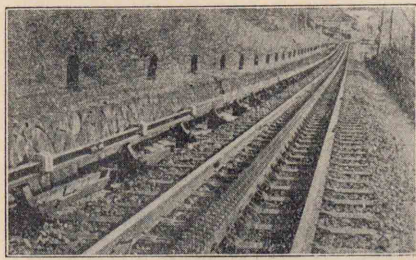
軌條
我が國第一の急勾配に
なつてゐる



浦和・大宮は、共に東京に近い爲に、その郊外都市
たる傾を帯びてゐる。⁽²⁾ 臺地・盆地は養蠶機業地
帯の一部で、それに關する都會が多い。川・越・市は
機業の中心、所澤は航空術發祥の地、熊谷は繭の
市場で又製絲業の中心地である。秩父盆地は
絹織物を出し、秩父はその中心で、附近に長瀨の
勝地がある。

④ 群馬縣は山地と平野とに
分れる。⁽¹⁾ 平野は狭いが、山麓地

方と共に養蠶機業地帯の一部で、割合に大きな都
會が多い。高崎市は鐵道の集點に當る商業地、前橋
市は、繭の取引及び製絲業の大中心、伊勢崎は銘仙
の産地、桐生市は屈指の機業地である。⁽²⁾ 山地には



削つた干瓢を乾す光景

⑤ 栃木縣(宇都宮)

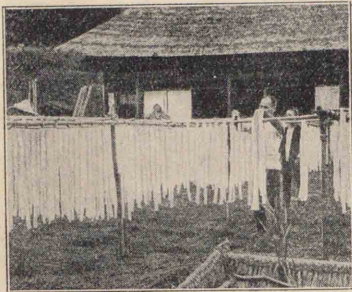
都邑人口 千人
宇都宮市 七六
足利市 三九
足木町 二七
足尾町 二七
鹿沼町 二〇

足利に足利學校の
址がある

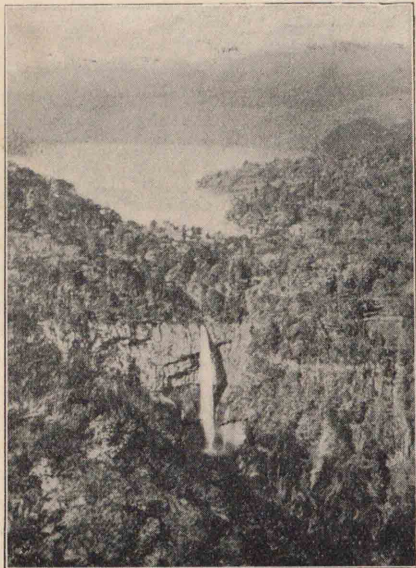
宇都宮に第十四師
團司令部がある

華嚴瀧

蓋下四十丈といはれ極
めて壯麗である。遠景に
白く見えるは中禪寺湖
で火山噴出物によつて
出來た堰止湖である



勝景を以て知られた妙義山・榛名山等が聳えて
ゐる。榛名山腹の伊香保は、西境の草津と共に、名
高い温泉場である。鐵道が山地を越える處には、
名高い碓氷峠・清水越等の難所がある。⁽¹⁾ 栃木縣は、地形が群馬縣に似て、更に臺地が
廣い。⁽²⁾ 南部は養蠶機業地帯の一部で、足利市を



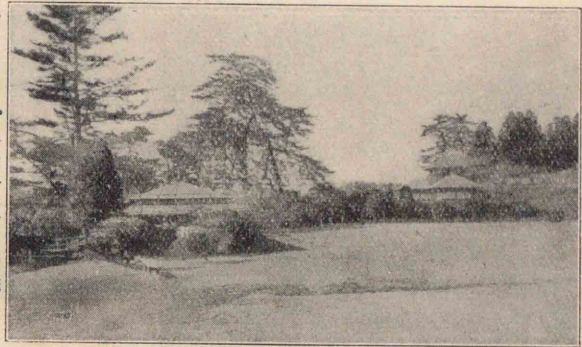
始め、佐野・栃木等の機業地があ
る。⁽²⁾ 宇都宮市は附近から干瓢
を出し、日光は壯麗な社廟と、風
景とで知られてゐる。

日光は美觀を極める東照宮がある
上に、男體山の麓には、清き中禪寺湖
を湛へ、その水は落ちて華嚴瀧とな
り、流れて大谷川となつて、到る處に

常磐公園
水戸市にある名園で右方の二階建物は好文亭

茨城縣(水戸)
都邑人口 千人
水戸市 四七
日立町 二四

海軍航空隊
練習中の光景



風景を添へ、殊に夏は涼しく、秋は紅葉が満山を彩り、天然の美と人工の妙とを併せて、その名が内外に知られ、來遊するものが常に多い。
那須野は灌漑用水の爲に、近年開墾が著しく進み、西部の山地に鹽原温泉がある。東部は茨城縣の一部と共に、全國屈指の煙草地帯である。

茨城縣は北部・中部・南部に分れる。⁽¹⁾ 北部は山丘が多く、銅・石炭等の鑛産地があり、又煙草地帯の一部で、太田はその中心である。⁽²⁾ 中部には名高い筑波山が聳え、之と續く山地によつて、東部・西部に分れる。東部の水戸市は、名高い城下町で、梅で知られた常磐公園があ



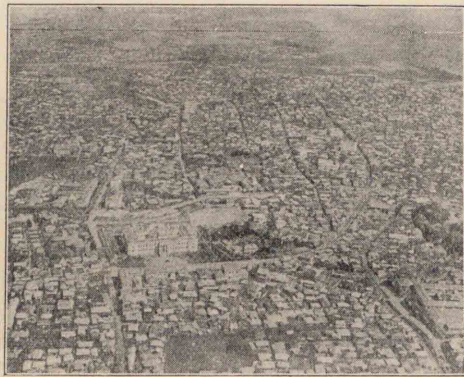
水郷地方に鹿島神宮(茨城)香取神宮(千葉)がある

土浦の附近に高層氣象臺がある

千葉市
空中から見た光景

千葉縣(千葉)
都邑人口 千人
千葉市 四二

千葉に醫科大學がある

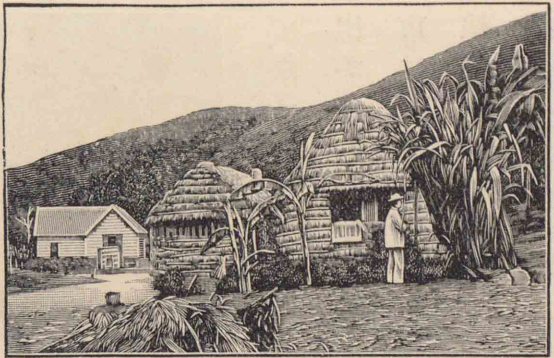


り、西部は養蠶機業地帯の延長で、結城はその中心である。⁽³⁾ 南部には大小の湖水が群をなし、利根川の本支流と共に、水運の便が極めてよく、水郷と呼ばれてゐる。土浦は主要の湖港で、繭の集散が多く、附近に海軍航空隊がある。

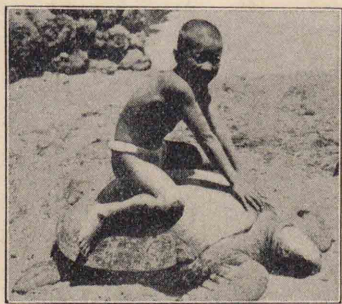
千葉縣の地形は、茨城縣を南北反對にしたやうである。⁽¹⁾ 北部は水郷地方の一部で、銚子・野田等の醸造地が點在し、銚子は又重要な漁港で、鱈節の産出が多い。⁽²⁾ 中部の臺地には、陸軍の學校・兵營・練兵場等が多い。千葉市は交通の要地に當り、成田は名高い不動堂の門前町である。⁽³⁾ 房總半島は、循環鐵道の完成と共に、京濱地方に對する第二の保養地帯となり、その沿岸には館山・勝浦等の漁港が多い。

圖解 小笠原島の歸
化人の住宅
小笠原には歸化人の子
孫がゆて多く漁業をし
てゐる

圖解 海龜
乗つてゐる小供と比較
せよ



培せられ、又海には海龜・紅珊瑚を産する等、自然の風光及び産業等が著しく異なつてゐる。父島の二見は、この附近での良港で、日米兩國の海底電線は、この地で接続する。



豆南諸島

豆南諸島は、伊豆七島と小笠原諸島とに分れ、硫黄島諸島・南鳥島等と共に、東京府で管轄してゐる。多くは富士火山帯に屬する火山島で、大島の三原山は、常に噴煙が絶えない。伊豆七島では、漁業・牧牛等を主業とし、又椿の樹が多く、椿油はこの地方の特産である。小笠原諸島は、遙に南方にあつて、氣候が暖いから、熱帯植物がよく繁り、甘蔗・鳳梨・バナナ等が栽

府縣名(廳所在地) 管轄國名

福島縣(福島市) 岩代・磐城大部

宮城縣(仙台市) 磐城一部・陸前大部

岩手縣(盛岡市) 陸前大部・陸中一部

青森縣(青森市) 陸奥大部

秋田縣(秋田市) 羽後大部・陸中一部

山形縣(山形市) 羽前・羽後一部

面積 約六〇〇千

(約四三〇〇方里)

人口 約六一六萬

(二方九二八)

山脈・火山帯
奥羽山脈
阿武隈山脈
北上山脈
出羽山脈
越後山脈
那須火山帯
岩手山脈
吾妻山脈

第二章 奥羽地方

通説

古の陸奥・出羽の地で、一に東北地方ともいふ。長く文化の中心から離れてゐた爲、面積は關東の二倍以上もあるが、人口は半にも達しない。政治上六縣に分れる。

地形 三條の高地が連つて、二條の低地帯を挟み、地形上、中部・東

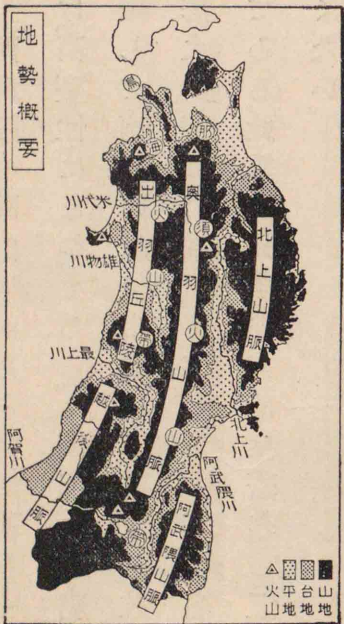
部・西部に分れる。(1) 中部に連

る奥羽山脈には、那須火山帯

が通じて、磐梯山・岩手山等を

起し、又猪苗代・田澤・十和田等、

火山に關係のある景色のよい湖がこの山地にある。(2) 東



地勢概要

山地
台地
平地
火山

磐梯山	一八一九
八甲田山	一五八五
鳥海火山帯	
鳥海山	二二三〇
月山	一九二四
岩木山	一六二五
寒風山	三五五

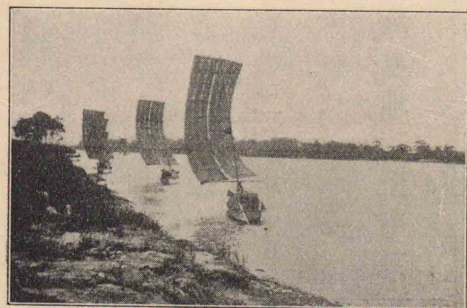
鳥海山
秋田縣の方面から見た
光景



部には北上阿武隈の兩山地がある。共に著しく蝕を受浸け、高臺性になつてゐる。(3) 西部の出羽丘陵は、斷續して南方の越後山脈に連り、之と竝走する鳥海火山帯は、岩木山鳥海山月山等の名山を起してゐる。此等の火山地方には著名の温泉場が少くない。

(1) 東部低地帯は、細長い縦谷をなし、阿武隈川北上川等が

此處を流れて、下流に仙臺平野を開く。(2) 西部低地帯は、數多の盆地に分れ、阿賀最上雄物米代岩木等の諸川が、横谷をなして丘陵を横ぎり、下流に稍、廣い津輕秋田庄内等の平野がある。三面共に海に臨む。(1) 北には津輕下北の兩半



河湖 流長 周圍 軒

北上川	二四三
阿武隈川	二一六
雄物川	一九七
米代川	一四九
馬淵川	一三七
岩木川	一〇六
八郎湯	八一
猪苗代湖	八一
十和田湖	四六
田澤湖	二〇

最上川の下流
三艘の船はこの地方特有の徑航を張つてゐる

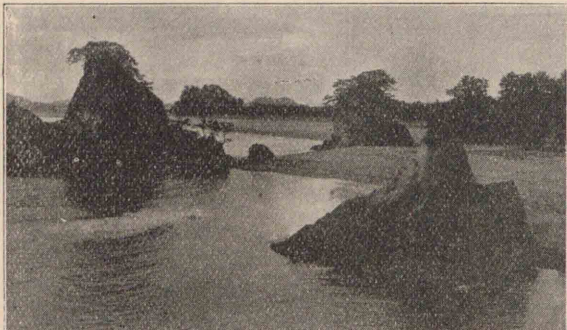
日本海
太平洋

陸奥灣の大湊附近及び大間崎附近は要塞地帯である

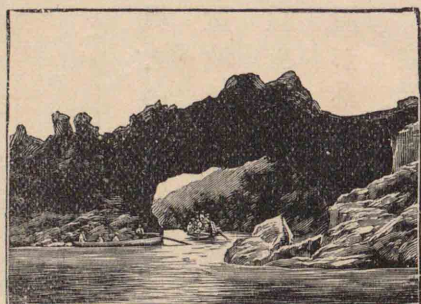
松島灣(上)
羽津を生じた臺地が沈降と海水の浸蝕によつて出来たもので昔から日本三景の一に數へられてゐる

男鹿半島(下)
西岸にある天然の大石橋

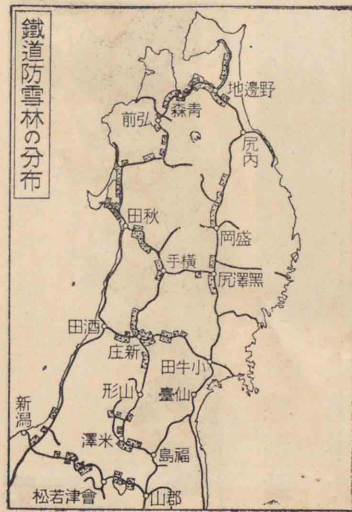
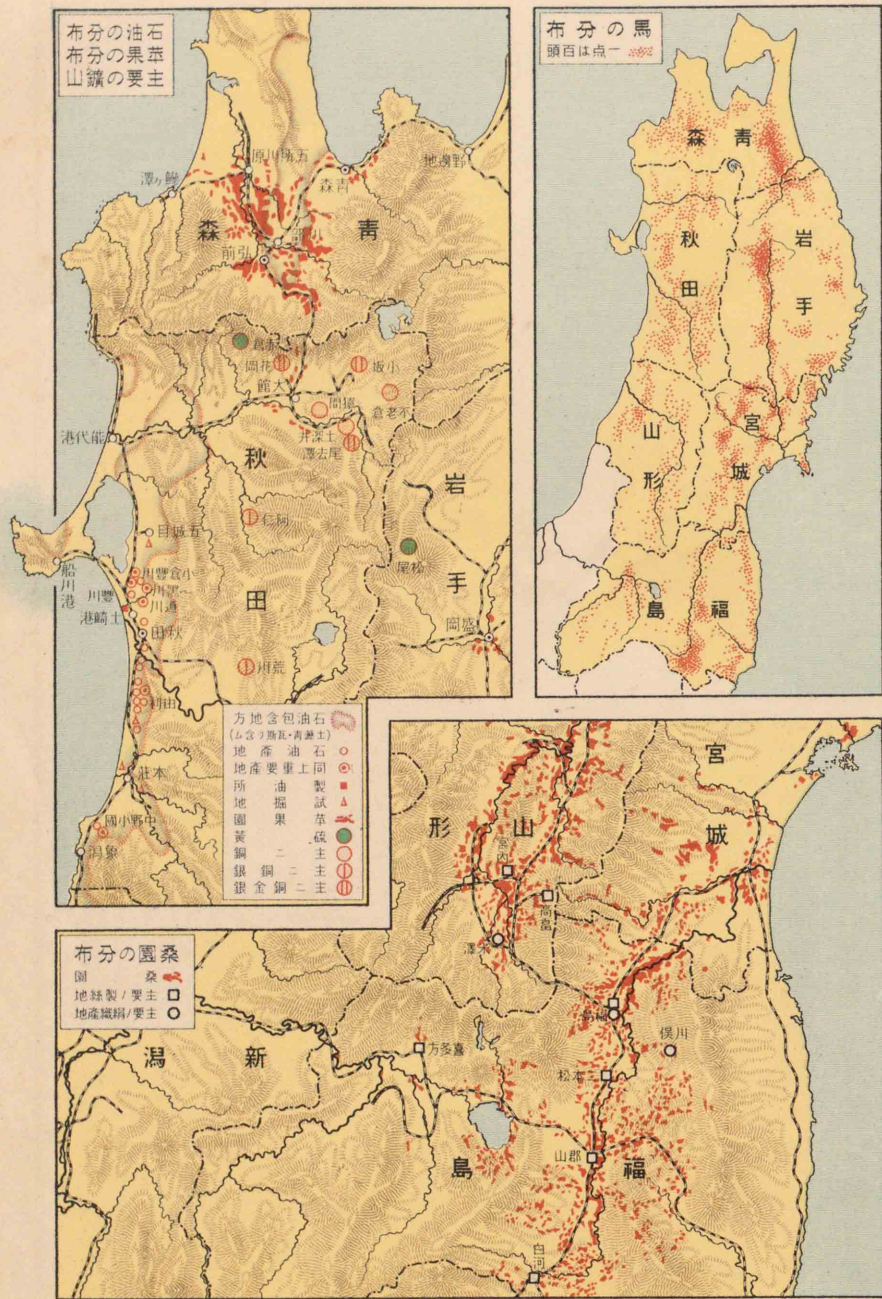
男鹿半島には寒風山があつてその沿岸は風景がよい



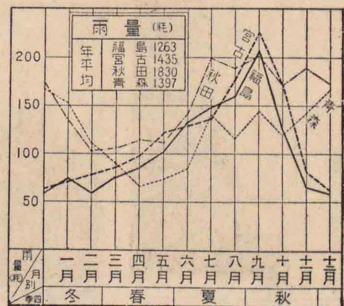
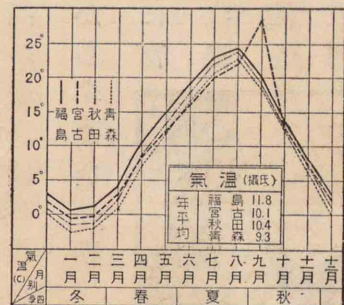
山地が近く迫つて、リアス式海岸を作り、牡鹿半島がその南部に出て、仙臺灣を圍む。灣内の松島は、勝景を以て昔から名高い。(3) 西岸は奇景に富む男鹿半島が、八郎瀉を抱く外、單調



島が出て、陸奥灣を圍み、灣内に青森の開港場と、大湊の海軍要港とがある。(2) 東岸の一部は、北上

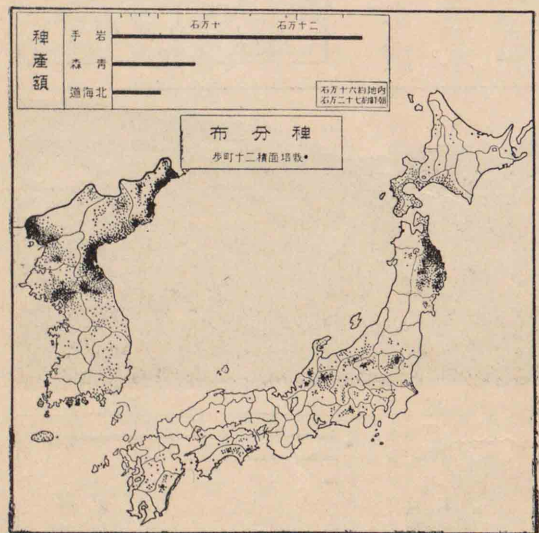
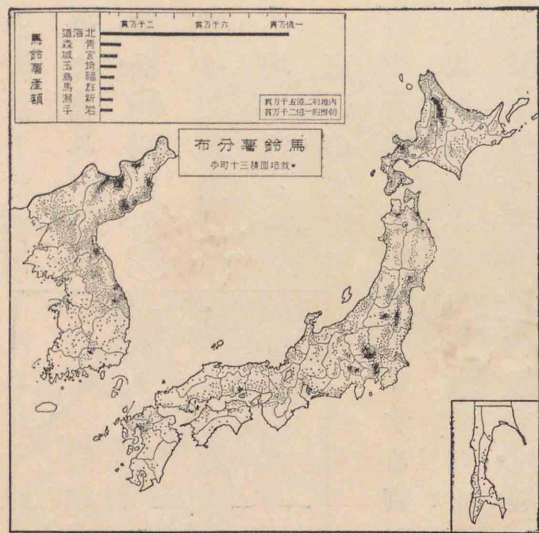


な砂濱が多く、東岸とは、著しく趣が違つてゐる。
 氣候 本州中で氣温が最も低く、殊に東北部は、千島寒流の影響により、夏は屢濃霧が起つて、海上の交通を妨げ、農作物の生育を害する。西部は對馬暖流と季節風との爲に、雨量が



多く、殊に山麓盆地は、冬季に雪が深く積つて、交通を妨げ、鐵道には種々の防雪装置がある。
 産業 氣候や位置の關係から、未墾の原野が尙廣く、牧畜・林業の發達を特色とし、農業は概して不

山形縣の櫻桃產額は全國第一である



振であるが、馬鈴薯・大豆等の耕作は廣く行はれ、一部には稗を産し、又苹果(青森)、櫻桃(山形)等の美果を出す。庄内・秋田・仙臺等の平野には、米の産額が増加し、酒田(山形)・石巻(宮城)は、重要な米の積出港であつたが、今は鐵道による輸送が盛となつた。福島・山形二縣の盆地には、養蠶業

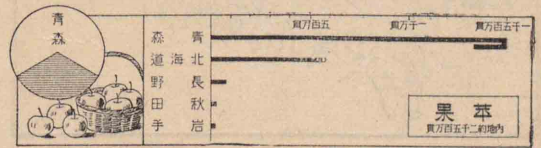
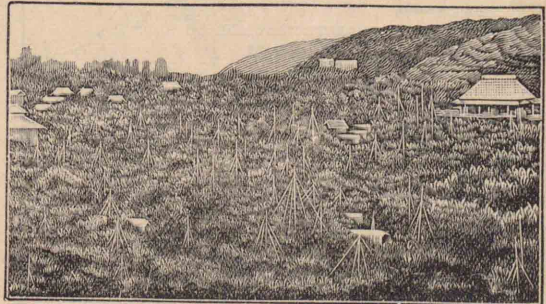
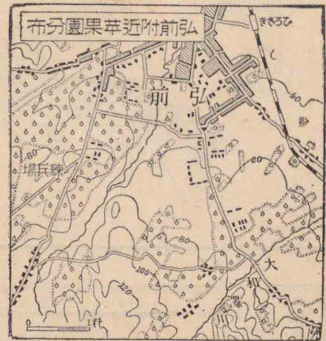
圖解 岩木山麓の萃果園
線形に繩を張つたのは實の重さで枝が折れぬ爲の支柱

が發達して、繭の産に富み、郡山、二本松、(福)宮内(形山)等は、製絲業の中心地である。

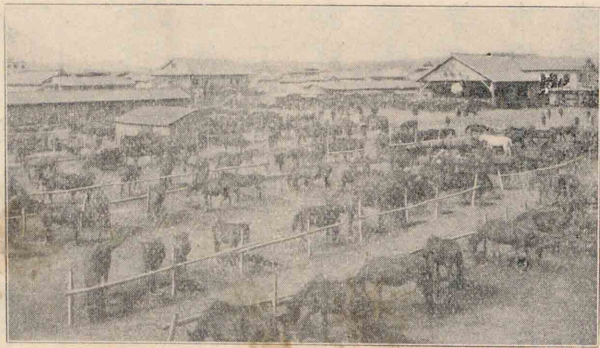
東部の火山裾野や臺地には、牧場に適する原野が廣く、馬の牧畜が盛に行はれる。七戸、三本

木原(以)岩手山麓(手)鍛冶屋澤(宮)三春附近(鳥)等は、その中心で、白河(鳥)盛岡(手)は馬市で名高い。

林業は秋田青森の二縣が殊に盛で、杉、羅漢柏等の良材を出し、能代港(田)には壯大な製材所がある。岩手縣は多く薪炭を出して、東京方面にも供給する。沿海は各種の水産に富み、太平洋岸の鮪、鰹、鮑、陸



圖解 盛岡の馬市
馬の良否を検査し價格を定めるので九月の市は最も盛である

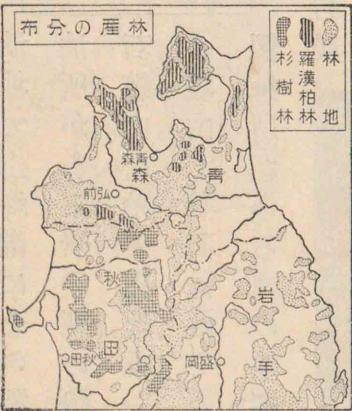
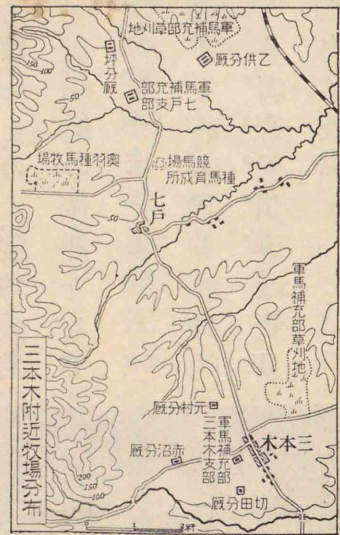


秋田縣には、小坂を始め、尾去澤、阿仁、荒川等の名高い鑛山があつて、銅、銀等の産額が多く、又新潟縣と共に我が國の二大産

有名な捕鯨地である。

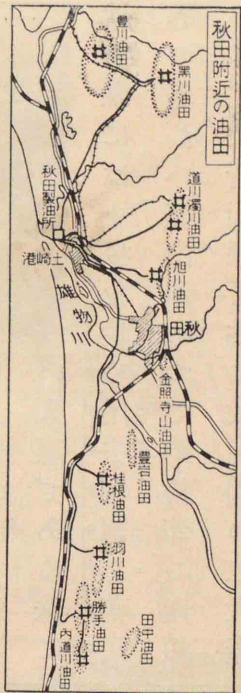
鑛産の豊かなこと

はこの地方の著しい天恵である。殊に



奥灣の貝類等は殊に著名なもので、東岸には小漁港が多く、金華山沖は

岩手縣の鐵産額は内地第一である



油地、土崎港にその製油所がある。岩手縣の釜石鑛山は殆ど内地唯一の鐵山で、釜石にはその製鍊所がある。この他細

倉(宮)の亞鉛、松尾(岩)の硫黄、常磐炭田(福)の石炭等は、何れも主要なものである。

工業の稍大規模に行はれるのは、製絲機業、製材等で、川俣(福)米澤(山)が、絹織の産地として著はれる外は、漆器(福)陶器(福)及び蔓細工(青)等の手工品を出すに過ぎない。商業も地方的市場の外に大中心はなく、青森船川港は貿易港であるが、取引は未だ多くない。

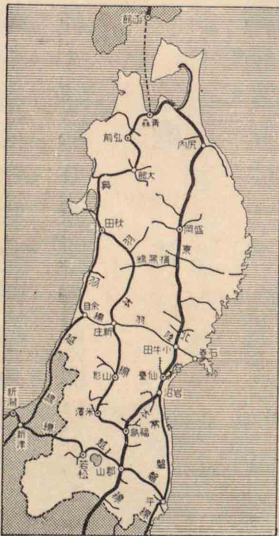
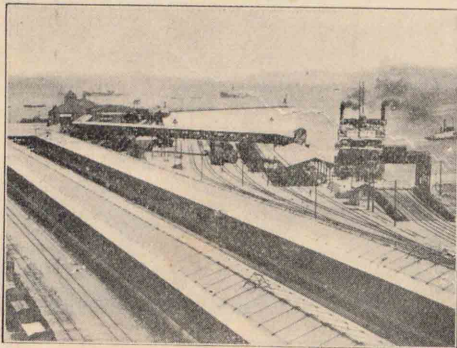


圖 蔓細工
アケビ蔓のバスケットを造つてゐる

仙臺の商業範圍は稍廣いが、取引の盛なのは、福島の生絲、羽二重である

- 1 福島・青森間
- 2 秋田・新津間
- 3 新津・平間
- 4 余目・小牛田間
- 5 横手・黒澤尻間

圖 青函連絡船
青森連絡船には列車航送の設備がある



交通 道路は奥州街道濱街道等が主要のもので、白河(以上)等には昔の關所の址が残つてゐる。鐵道は東北常磐奥羽の三線を幹線とし、何れも東京青森間に直通車を通ずる。羽越線は奥羽線と連絡して、大阪青森間に直通車を通じ、裏日本の大幹線である。青森は此等諸線の終點に位し、北海道に渡る要地で、函館との間に鐵道連絡船を通じてゐる。又磐越陸羽横黒の諸線は、東西横斷線として主要なものである。

沿岸は良港が少く、殊に日本海は、冬季風波が荒れて、航海を妨げるから、海運は盛でない。福島縣(原)には、

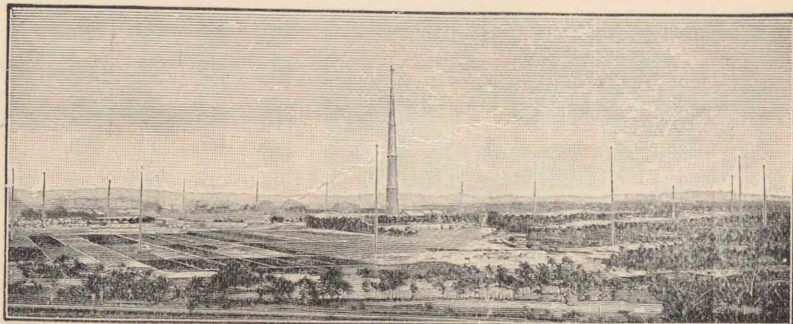
東京無線電信局原町送信所
埼玉縣福間にある受信所と共に遠距離の通信をする

福島縣(福島)

郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人

福島の生絲荷造場
處々から集つた生絲の品位を鑑別し荷造して積出す

福島の附近に飯坂温泉がある



規模の大きな東京無線電信局送信所があつて、ハワイ(布哇)及び米國との通信に當る。

處誌

福島縣は、山地の爲に濱通、中通、會津の三區に分けられる。濱通の平(1)は産炭地方の中心地で、中村は、相馬焼の名産地である。中通には養蠶製絲の盛な都邑が多く、中でも郡山市は、新進の工業市で、發展が著しい。福島市は、川俣と共に羽二重を産し、生絲

若松の市外に白虎隊の墓及び東山温泉がある

宮城縣(仙台)

郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人

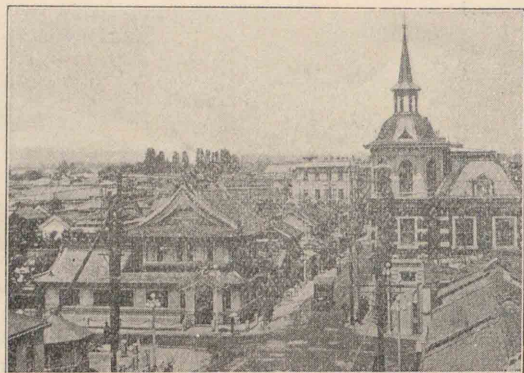
仙臺の市街
芭蕉の辻の光景で近く左後の家が昔から残る建物で今は保險會社になつてゐる

仙臺に第二師團司令部・東北帝國大學がある

中尊寺の金色堂
藤原時代の建築で本で圍に見えるのはその覆堂である

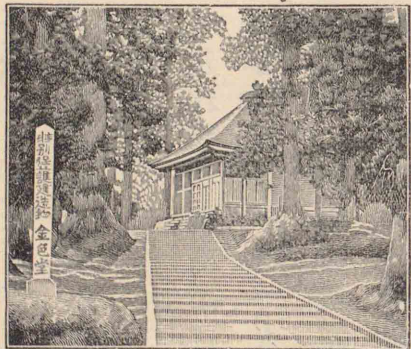
岩手縣(盛岡)

郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人
郡市人口 千人



石巻は北上川口の要地を占めるが、港の浅い缺點がある。

岩手縣の要部は、北上平野と東海岸とに分れる。(1)北上川の流域には、一關、平泉(寺中尊)、水



羽二重の取引が多く、東北第一の商業市である。(3)若松市は、會津盆地の中心都會で、及び附近から漆器、陶器等を産する。磐梯山は、猪苗代湖と共に、風景がよい。

宮城縣は仙臺平野を要部とし、その中心の仙臺市は、東北第一の都會で、埋木細工の名産を出す。釜はその外港で、松島遊覧船の發着地である。

ウモレギ

④青森縣(青森)
郡邑人口 千人
八戸市 五九
青森市 四七
弘前市 三六

弘前に第八師團司令部がある

青森港
市街及び埠頭を空中から見た光景

⑤秋田縣(秋田)
郡邑人口 千人
秋田市 四七
能代港町 二二



澤(観測所)・盛岡市等がある。盛岡は南部鐵瓶の名産を出し、又馬市を以て名高い。東海岸には、宮古・釜石等の良港がある。釜石は鐵山を控へ、その製鍊所もあるが、内陸との交通が不便である。

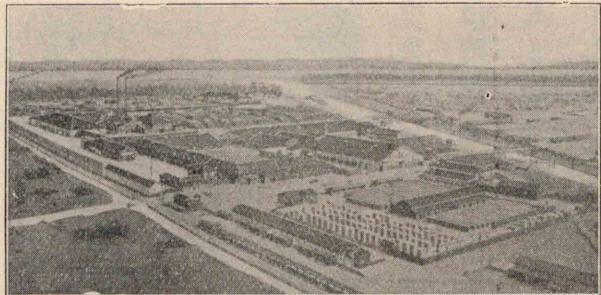
④青森縣は、中央山地の爲に東部と西部とに分れる。東部には馬の牧場が多く、八戸市は商業上の要地で、水産物の集散が盛である。西部の青森市は、交通の要地で、又製材が行はれる。弘前市は津輕平野の中心都會で、附近には苹果(トモヤシ)の産が多く、又津輕塗(ツルギマシ)・木通細工の名産がある。

⑤秋田縣の要部は、米代川流域と雄物川流域とに分けられる。米代川の流域には、鑛山が多く、又杉の良材を出し、河口の能代港は、製材の中心地である。雄物川流域の秋田市は、

⑥山形縣(山形)
郡邑人口 千人
山形市 五六
米澤市 四五
鶴岡市 三二
酒田町 二八

能代港
秋田木材會社及び營林署の貯木場を俯瞰した光景

面積
約六四〇万平方
(約四三〇〇方里)
人口
約一三〇萬
(二方千一七〇人)



絹織物・銀細工等を出し、この北方に名高い石油産地(黒川)がある。土崎港は市の門戸であるが、冬季風浪の荒い缺點があり、その副港たる船川港は、最近に貿易港となつた。

⑥山形縣は最上川上・中流の盆地と、下流の平野とに分れる。米澤・山形の兩盆地は、養蠶が盛に行はれ、米澤市は絹織の名産地で、又近年人造絹絲の製造も行はれ、山形市の附近からは、櫻桃を出す。庄内平野は米の産が多く、酒田はその集散の要地で、鶴岡市は羽二重を産する。

第三章 中部地方 通説

府縣名(所在地)	管轄國名
静岡縣(静岡市)	伊豆大郡
愛知縣(名古屋)	駿河・遠江
岐阜縣(岐阜市)	尾張・三河
長野縣(長野市)	美濃・飛騨
山梨縣(甲府市)	信濃
新潟縣(新潟市)	甲斐
富山縣(富山市)	越後佐渡
石川縣(金澤市)	越中
福井縣(福井市)	加賀能登
	若狭越前

山脈・火山帯
北彎山系
關東山脈
三國山脈
越後山脈
南彎山系
赤石山脈
白馬山脈
木曾山脈
駒ヶ岳
東那山

分れる。南彎山系の飛驒山脈は、中央部を殆ど南北に走り、白馬岳・鎗岳等の外、乗鞍火山帯に屬する御岳・乗鞍岳・立山等の火山も噴起し、高山が並び聳えて、夏

昔の東海・東山兩道の一部と、北陸道とを含み、江戸と京都との中間に位した爲、重要な地方であつたが、今は京濱・阪神の二大文化と接觸し、著しい發達を示してゐる。政治上九縣に分ける。地形 地形上、中央高地、南部低地(東海)、北部低地(北陸)の三部に分れる。(1) 中央高地は、地質的に北彎山系と南彎山系とに



飛驒山脈
鎗ヶ岳三一八〇
白馬岳二九三三
乗鞍火山帯
御ヶ岳三〇六三
乘鞍岳三〇二六
白山火山帯
白山二七〇二
富士火山帯
富士山三七七六
八ヶ岳二八九九
妙高山二四四六
天城山一四〇五
那須火山帯
淺間山二五四二



も處々に雪を残し、山姿が雄大を極め、東南に竝ぶ木曾・赤石の兩山脈と共に、日本アルプスとも呼ばれる。北彎山系に屬する關東・三國・越後等の山脈は、東境に連つてゐる。富士火山帯は、この兩山系の間を通じ、富士山を始め、天城山・八ヶ岳・妙高山等の火山を起し、又東境には淺間山が聳えて、絶えず噴煙し、飛驒高地の西には、白山が峙つてゐる。此等の山脈間には、數多の盆地を含み、又火山地方には、著名の温泉場が少くない。(2) 南部低地は、略一連の平野及び臺地であるが、

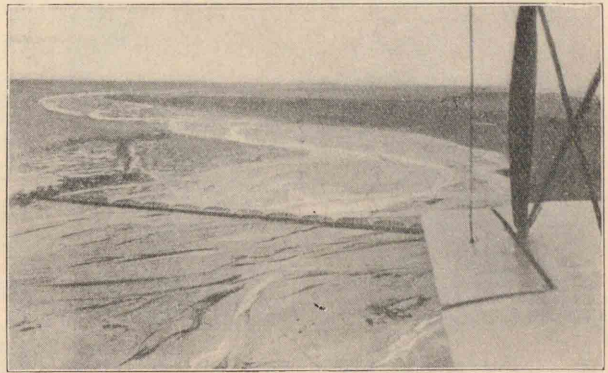
河	湖	周	長
信濃川	三	三	六
木曾川	三	三	九
天龍川	二	二	三
大井川	一	一	七
阿賀川	一	一	六
富田川	一	一	九
庄内川	一	一	七
神戶川	一	一	〇
常盤川	一	一	〇
安曇川	一	一	五
諏訪湖	一	一	八

大井川

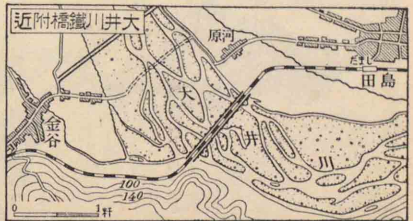
飛行機上から見た光景
で昔は蓮葉渡の爲に著
名であった

三河湾内には蒲
郡・佐久島の保
養地もある

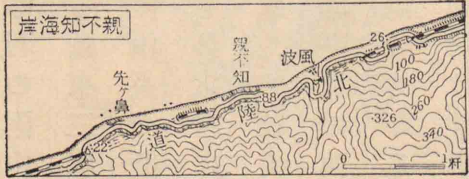
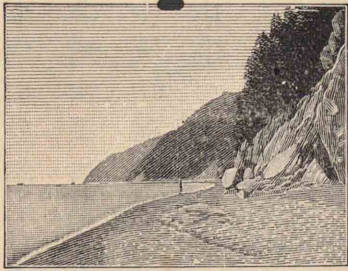
親不知の海岸
昔はこの水行を往來し
難處として聞えたが今
は新道が通じ鐵道の便
もある



兩半島があつて、渥美灣を抱き、その西
に伊勢海がある。
(3) 北部低地は、山脈の餘勢によつて、越



島が出て、駿河
灣を造り、西部
に渥美・知多の
低地である。海岸
は東部に伊豆半
僅に山丘の爲に、處々で切斷
される。富士・安倍・大井・天龍・木
曾等の諸川が、網目狀の流路
をとつて此處を貫き、木曾川
下流の濃尾平野は、最も廣い



木曾川・信濃川等
の下流には大分水
工事も出来てゐる

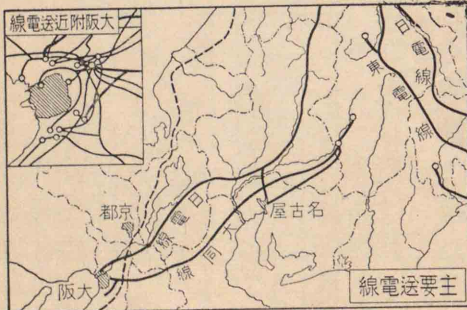
長野・岐阜・山梨・新
潟・富山の諸縣は
著名な水力發電地
である

木曾川の發電
所
岐阜縣惠那郡木曾村に
あるもの

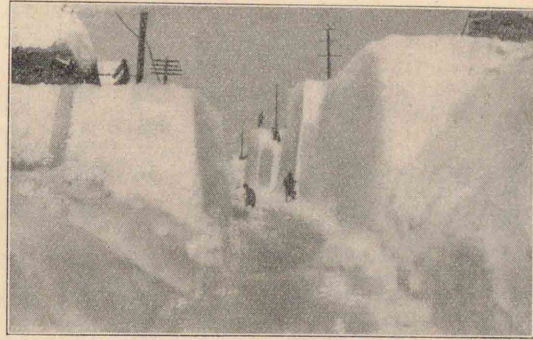
後、富山・加賀・福井等の諸平野に分れ、阿賀・信濃・黒部・神通・庄内・九頭龍等
の諸川が、此處を貫流してゐる。海岸はリアス式の若狭灣と、能登半
島に抱へられた富山灣とを除けば、概ね單調な砂濱であるが、山地
の海に迫る處には、往々親不知の如き、斷崖をなす場處もある。

河流は概して急で、信濃川・木曾川等の下流の外は、水運の便は少
く、且屢、洪水の害もあるが、廣
く灌漑に便を與へ、又上流は
發電に利用されて、その電力
は、遠く京濱及び阪神の地方
へも送られる。

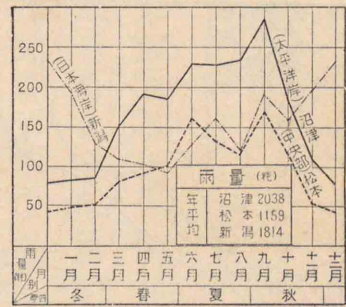
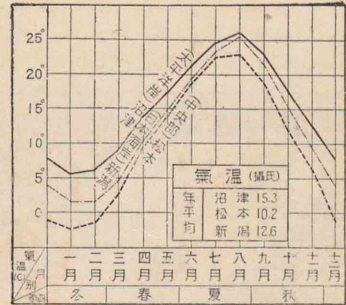
氣候 太平洋に面する地
方は、一般に溫和で雨量も多
く、殊に駿河灣の沿岸地方は、



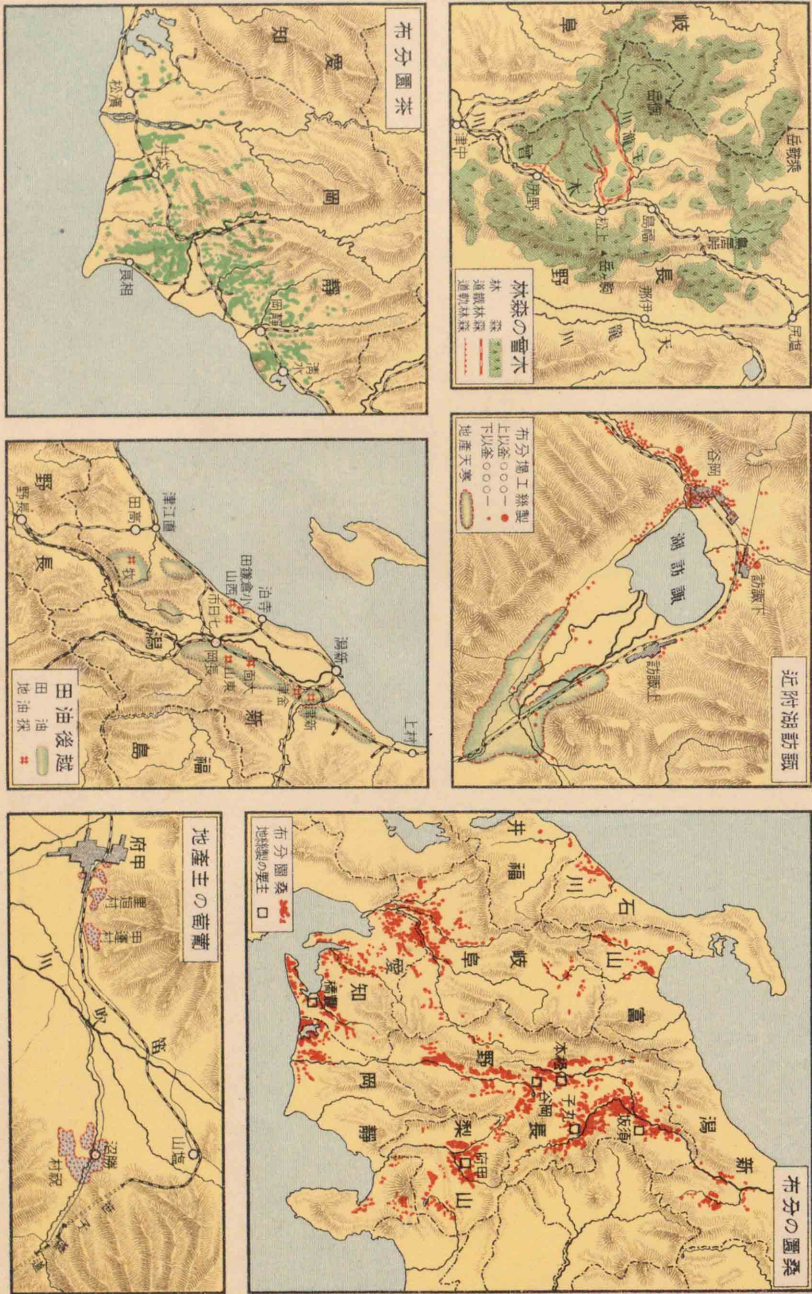
輕井澤附近にも天然製氷が盛である
 北陸地方の積雪
 長岡に於ける雪景である



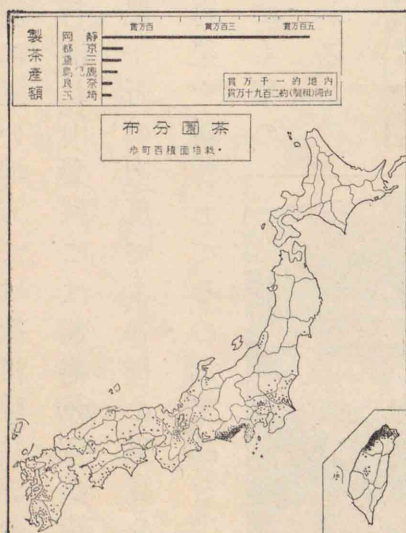
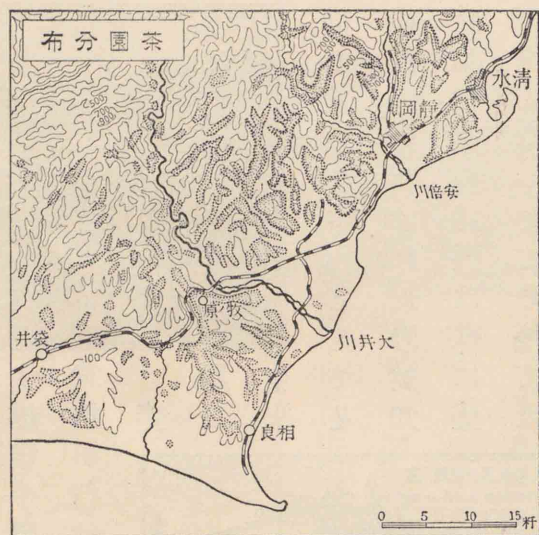
冬暖で、避寒の好適地となり、夏は海水浴で賑である。内部の地方は、海の調和を受けることが少い爲、冬の寒氣は稍、強く、諏訪湖は



厚く凍つて氷滑場となり、又採氷も行はれるが、土地の高い處は、夏も涼しく避暑に適し、中でも輕井澤・上高地(長野)等は、殊に名高い。日本海方面は、近く對馬暖流が流れて、氣温を緩和するが、大陸の影響を受ける爲、寒暑の差は太平洋方面よりも著しく、冬は雪が深く積つて、交通を妨げることが多い。

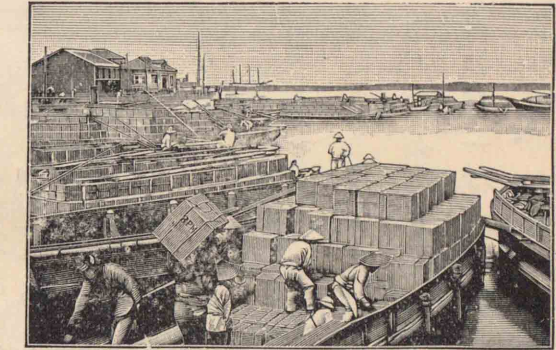


盛である。静岡縣は山腹・丘陵を利
用して茶園が多く、茶の産額は全
國の第一位を占め、静岡はその集
散地で、清水港から盛に海外へ輸



産業 風土がよく、農業が盛に
行はれ、殊に越後・富山・濃尾等の平
野は、主要な米産地で、北陸方面か
らは、他地方への移出も多く、長岡
新・新潟(越後)・高岡(山富)等はその市場で、
大垣・岐阜(濃尾)等でも、米の集散が

茶の積出
輸出の茶箱を小舟に積んで沖合の汽船に運ぶ光景である

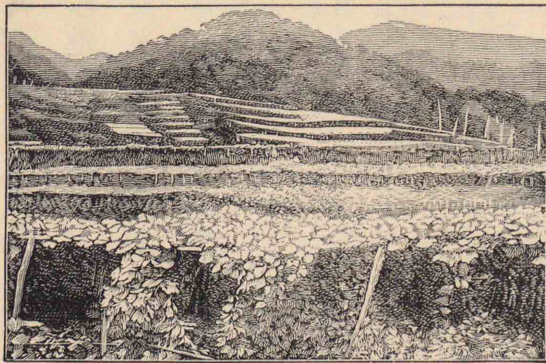
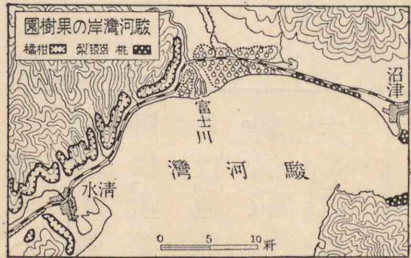


出する。駿河灣に近い地方では、蜜柑・梨・桃等の果樹栽培が行はれ、山梨縣には葡萄(附近)の特産がある。濃尾平野の南部でも、各種の果實を産し、北部は野菜を耕作して、その加工品を出す。越後平野にも梨の栽培が行はれる。

養蠶は中央

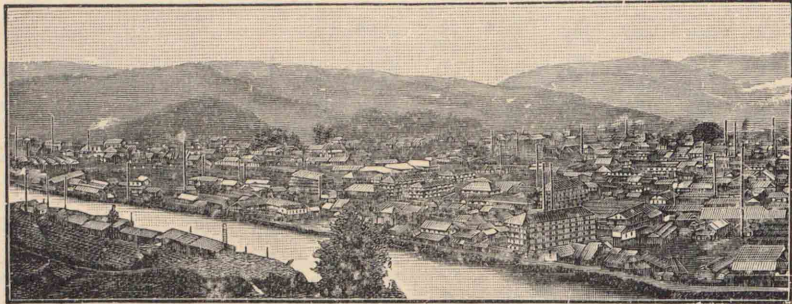
勝沼附近の葡萄園
園は棚作りの光景であるが縦横に針金を張つて蔓を支へたものもある

部の盆地を中心として、その附近に行はれ、長野・愛知・岐阜・山梨の諸縣は殊に盛である。従つてこの地方は、

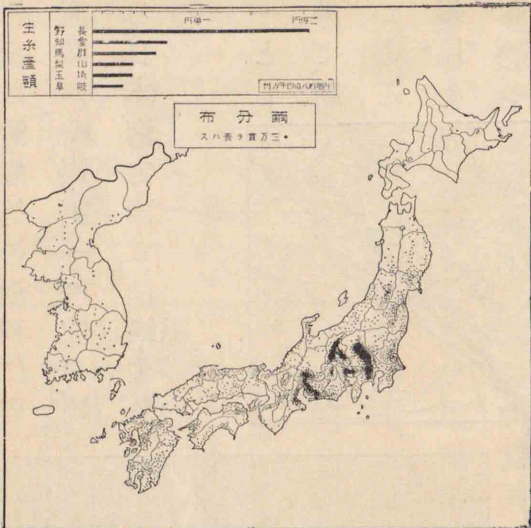


三州卵の名が、広く知られるに至つた

岡谷の製絲場
製絲業の盛衰を示したもので、度々に見える四層五層の建物は繭の貯蔵庫である



製絲業も大いに發達し、岡谷・松本・丸子(以上)・豊橋(愛等)には、その工場が多く、中でも岡谷を中心とする一帯は、我が國第一の製絲地である。濃尾平野には、近年養蠶が盛に行はれる。



林地は中央山地に多く、木曾森林は最も名高い。その材木は古來筏として流下した。が、今は數多の森林鐵道を通じて、陸路の輸送

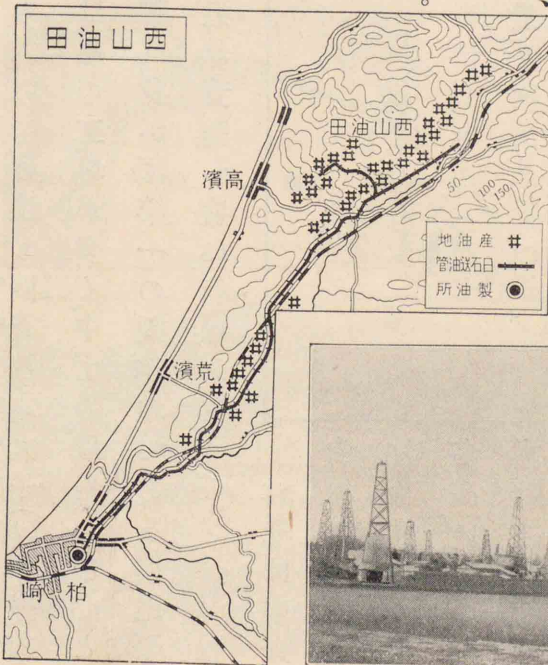
圖 新津油田の光景
新津油田の一部を示したもので林立せる石油機に盛況が察せられる

新津附近を新津油田、長岡附近を東山油田、柏崎附近を西山油田と云ふ

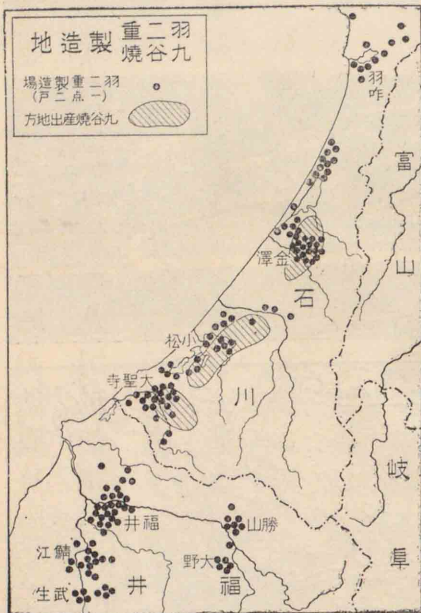
金峰山の水晶は名のみを存して産額は少く細工の原料は南米から輸入する

が盛になつた。太平洋面は、鯉、鱈等の漁利に富み、静岡縣は鯉節の産額が全國第一に位し、焼津はその中心である。日本海方面では、鰯、柔魚等の漁利が多い。

鑛産は石油を第一とし、新潟縣はその大産地である。新潟縣には製油所がある。その他、佐渡の金、銀、尾小屋、石川の銅、神岡の鉛等も主要なもので、赤坂(岐阜)は大理石を産し、金峰山(梨山)の水晶も特産として知られるが、産額は少い。



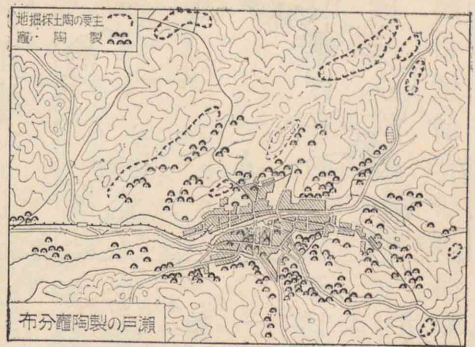
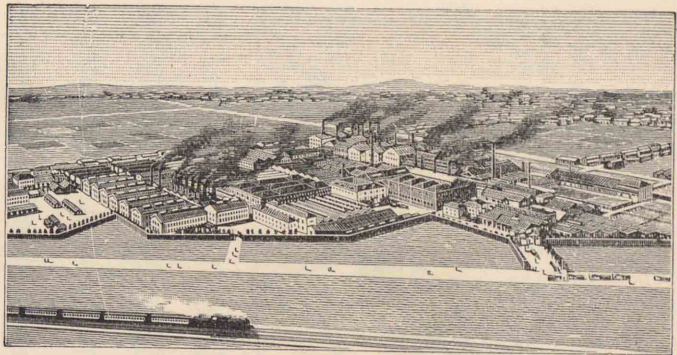
尾西地方には毛織の案内工業が盛んでセルの産額が多い



工業 中部の製絲の外、名古屋を中心として、岐阜縣南部に互る地方は、我が國四大工業地帯の一で、その延長は、伊勢海沿岸と濱松方面とに及んでゐる。名古屋には車輛、陶器、毛織等の大工場もあるが、伊勢海沿岸と共に、綿工業が最も發達し、岐阜方面には毛織物の産が多く、福井、石川兩縣は、輸出向羽二重の大産地である。新津縣の山麓地方にも、處々に絹織の産地がある。従つて東海の綿毛工業、中央の製絲業、北陸の絹織業に、三地方の特色が現はれてゐる。

綿工業は名古屋の紡績機業を第一とし、濱松(岡)の綿織、小山(岡)の紡績等が名高く、毛織は一宮(愛)・岐阜・大垣等に工場があり、羽二重は福井・大野(福井)・金澤・小松・大聖寺(石川)の一帶を主産地とし、新潟縣の小

名古屋の日本
陶器會社
専ら輸出用の磁器や内
地用の洋食器を製出す
る
瀬戸の用器具、
名古屋の輸出陶
器、常滑の土管類、
高濱の瓦類、多治
見の日用器具は何
れも有名である



富士山麓の大宮附近には、洋紙の大工場があ
る。醸造は愛知縣に最も盛で、酒醬油、酢等の産
出が多い。

産物が多い爲に、商業も甚だ盛で、名古屋はその大中心であるが、
松本(蘭)・福井(重)・新潟(米)等も、地方的中心として取引が盛である。開

千谷・十日町・五泉等からも、絹
織を出し、山梨縣には海氣織
の特産がある。

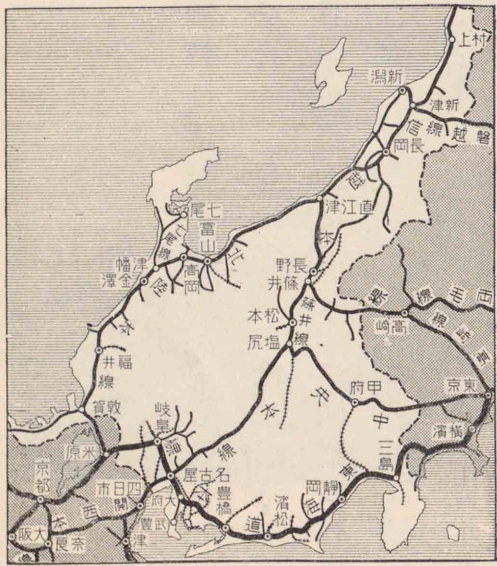
愛知(名古屋瀬)・岐阜(多治見)
石川(金澤大)の諸縣には、
陶器の産出が多く、石川
(輪島)・静岡(岡)の兩縣は、漆
器を出す。岐阜・静岡・福井
の諸縣では、和紙を製し、

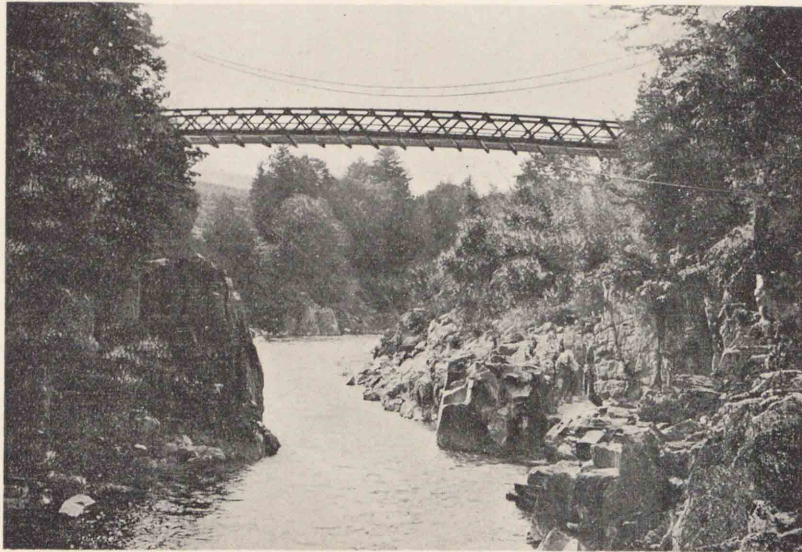
1 名古屋・大阪間
2 高崎・新潟間
3 米原・直江津間
中央線は甲信地方
を東京及び名古屋
と連ね、羽越・北陸・
信越の諸線は、奥
羽・北海道方面と
阪神地方とを連ね
る

港場には清水・武豊(知愛)・名古屋・敦賀(井福)・七尾(川石)・伏木(山富)・新潟(米)等があ
つて、名古屋は貿易額が特に多い。

交通 東海道・中仙道等の主要な街道が通じて、昔から往來が頻
繁であつたが、今は鐵道が普及し、その幹線は、概ね昔の街道に沿つ
てゐる。即ち太平洋方面には、表日本の幹線である東海道線及び關

西線が通じ、中部には中央線が
通じ、日本海方面には、羽越線・信
越線・北陸線等が、相連つて裏日
本の幹線となり、或は本州の横
斷線となつてゐる。未だ海運の
大中心はないが、名古屋は近年
著しく發展し、又名古屋無線電
信局(愛知縣依佐美市)は、規模が





天龍峽

天龍峽の秀はいとれる々潭の光景で橋は姑射橋



名古屋屋城

天守閣の高は三十七米。名物の金鱈は高さ二米八

富士山
西方からの眺望で近景
の河は富士川

静岡市	濱松市	清水市	沼津市	大田町	三島町
一、二、一	一、二、一	九、二、一	四、六、二	三、八、一	二、〇、一
千人	千人	千人	千人	千人	千人



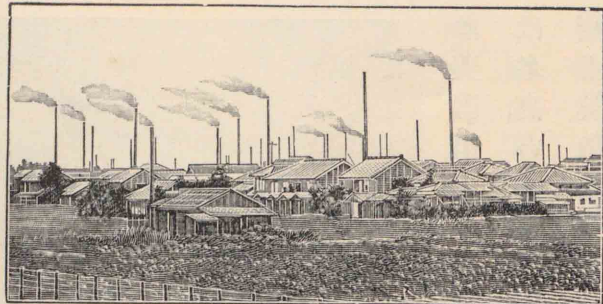
處誌

甚だ壯大で、歐洲と通信する。

静岡縣は、伊豆半島海岸地方及び北部山地に分ける。伊豆半島には、修善寺熱海等の温泉場が多く、下田は我が開國の歴史に名高い港である。駿河灣の沿岸は、氣候が溫和で、沼津市・興津市・清水市等の保養地が多い。清水は前面に、三保松原を控へ、風景が甚だ明媚である。この邊一帯に茶園が多く、静岡市は茶紙等の取引が盛に行はれ、又漆器・竹細工等を出す。濱松市は新興の工業地で、綿織物・樂器・帽子等を出し、近傍の濱名湖

愛知縣(名古屋)
 郡邑人口
 名古屋市 七六九
 豊橋市 八二
 岡崎市 五九
 一宮市 三五
 安城市 二二
 瀬戸市 二二

製絲場の製絲場
 圖は鐵道近から市街
 を望見した處である



がある。(2) 中部の岡崎市は、徳川氏の起つた處で、製絲工場がある。矢作川の水を引く明治用水の通ずる地方は、日本のデンマルクと呼ばれ、農村組織が整ひ、水田も廣く、果樹栽培、養鶏等の盛な所である。

は養魚に利用されてゐる。(3) 山地には森林が多く、又東北境には富士山が聳え、その麓には小山(續)大宮(紙製)等の工業地がある。

富士山は、形の秀麗なので世界に名高い。新しい火山で、浸蝕が進んでゐないから、完全な圓錐形をなし、只寶永噴火口が、單調を破つてゐる。北麓には所謂富士五湖(山中、河口、西、精進、本栖)を湛へて、風景がよい。夏は登山者が多く、大宮御殿場(靜岡)以上(山梨)等は、その登山口に當つてゐる。

愛知縣の主要部は、沿海の低地及び丘陵で、之を東部・中部・西部に分ける。(1) 東部の豊橋市は、

製絲業が盛に行はれ、附近に稻荷で名高い豊川

市は四區に分れ第
三師團司令部・醫
科大學(縣立)もあ
る

長良川
雞飼の光景で右方に黒
く突き出てた山は金華
山

岐阜縣(岐阜)
岐阜市 八二
大垣市 三四

市の東にある各務
原には陸軍の飛行
場がある



西部の名古屋市は、徳川氏の親藩を封じ
た處で、鐵道交通の要地に當り、綿絲綿織毛
織漆器時計陶器等の製造が盛に行はれ、又
扇子七寶燒等の名産もあつて、商工業の大
中心地となり、市内に名古屋城熱田神宮等
がある。一宮市には機業が行はれる。

岐阜縣は濃尾平野東部山地北部山地
に分ける。平野の岐阜市は、絹織毛織等を
出し、又提灯團扇等の名産がある。鶉飼に名
高い長良川は、市の北を流れ、その上流地方
は、美濃紙の産出が多い。大垣市は、揖斐川水運の要地で、その西南に
は名高い養老瀧、西方には關原の古戰場がある。東部は愛知縣に
續く製陶地帯で、多治見はその中心である。飛驒高地の高山は、製

山梨縣(甲府)
甲府市 六八

長野縣(長野)
長野市 千八
上田市 六七
諏訪市 三三
上諏訪町 二〇

諏訪湖畔には處々
に温泉が湧出する
松本の東北に姥捨
山の名地がある
善光寺
正面の大建物が本堂



絲業が行はれ、又漆器木製器具の名産がある。

山梨縣は一縣殆ど一盆地であるが、郡内地方は、別に狭い谷を
開いてゐる。郡内地方は海氣織の産が多く、谷村はその中心であ
る。甲府盆地の甲府市は、製絲業が行はれ、又
水晶細工葡萄酒の名産がある。南方の身延山
は、日蓮宗の靈場として知られてゐる。

長野縣は數個の盆地に分れてゐる。諏
訪湖畔の岡谷は、製絲業の大中心で、又附近に
寒天の製造も行はれる。飯田・福島・松本・上
田市等は、夫々盆地の中心地で、松本・上田は繭
蠶卵紙の取引が盛に行はれる。長野市は名
高い善光寺があるので、參詣人が常に多く、之
が爲に賑つてゐる。

④新潟縣(新潟)
 都邑人口 千人
 新潟市 一〇九
 長岡市 五三
 高田市 三三
 三條市 三一
 新發田町 二〇八

新潟に醫科大學がある

⑤新潟港
 沼垂方面の空中から見た光景



が、碇泊に不便な爲、貿易は振はない。佐渡には、昔から著名な金山があり、東部の夷は、舟泊の要地である。

⑦富山縣の要部は、富山平野で、その中心の富



⑥新潟縣の要部は越後平野で、下越(北)中越(南)に分れ、別に佐渡島がある。上越の高田市は、積雪が深いので名高く、附近は冬季スキーの爲に賑ひ、直江津は交通の要地である。長岡市は米の取引が盛に行はれ、小千谷十日町は、共に織物の産がある。新潟市は信濃川の口に臨み、早く開けた開港場である。

⑦富山縣(富山)
 都邑人口 千人
 富山市 六七
 高岡市 四九
 新湊町 二一

⑧石川縣(金澤)
 都邑人口 千人
 金澤市 一四七

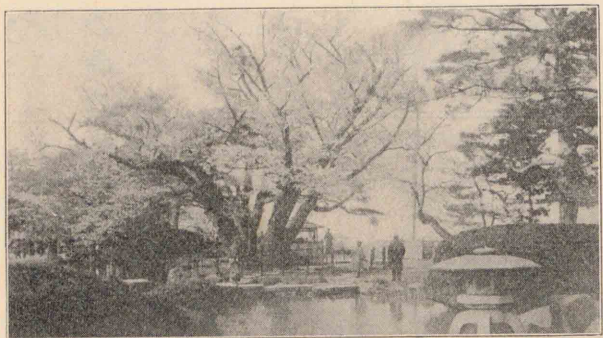
金澤に第九師團司令部・醫科大學がある

⑨兼六園の一部
 池は體ヶ池でその畔の大木は旭櫻と呼ばれる名樹である

七尾の附近に和倉温泉がある

⑩福井縣(福井)
 都邑人口 千人
 福井市 六〇
 敦賀町 二一

福井市に藤島神社(新田義貞)がある
 福井の東方に永平寺がある



山市は、賣藥の製造によつて名高く、廣く内外に行商人を出す。この東北に魚津の漁港がある。高岡市は銅器漆器等を産し、伏木はその外港で、米の積出が多く、城端は羽二重機業の中心である。

⑪石川縣の要部は、加賀平野と能登半島と

である。①金澤市は北陸第一の大都會で、陶器(九谷焼、硬)漆器等を出し、又名高い兼六園がある。羽二重九谷焼は、西南の一帯に盛で、小松大聖寺等も、その一中心をなし、山代山中は、共に名高い温泉場である。②能登半島の七尾は商港で、輪島には輪島塗の産出がある。

⑫福井縣は福井平野を要部とし、西部は別に一區をなしてゐる。③福井平野は、輸出羽二重の主産地で、福井市大野はその中心をなし、

【圖】敦賀港
近く右端に見える小山は金崎城の址で金崎宮(奈良尊良信長兩親王)がある

面積

約三〇〇万坪
(約二三八方里)

人口

約一〇〇六萬
(二方種二一人)

府縣名(廳所在地)

管轄國名

滋賀縣(天津市)

近江

京都府(京都市)

山城丹後
丹波大郡

奈良縣(奈良市)

大和

三重縣(津市)

伊賀伊勢志摩
紀伊一部

和歌山縣(和歌山市)

紀伊大部

大阪府(大阪市)

河内和泉
攝津東半部

兵庫縣(神戸市)

攝津西半部
播磨
尾道淡路
丹波一部

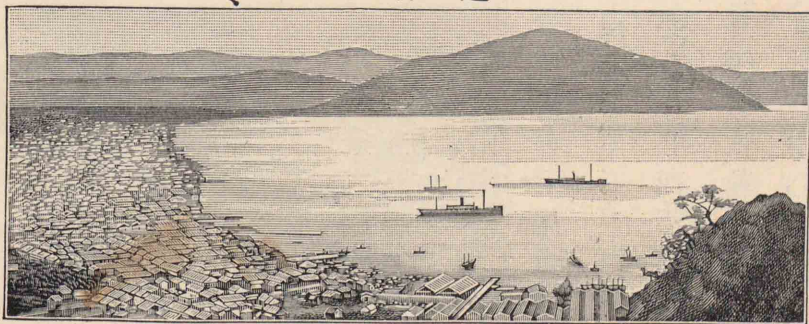
武生は、紙・蚊帳等を出す。⁽²⁾敦賀は日本海岸第一の商港で、小濱は若狭塗の名産地である。

第四章 近畿地方

通説

往時我が國の中樞であつた畿内と、その附近の地とて、政治上二府五縣に分れる。永く文化の中心となつてゐたから、到る處に史跡・名所等が甚だ多い。早く開けた上に、近代商工業の大中心も發達し、人口密度も、産業・交通等の發達も、總て關東地方と相競つてゐる。

地形 南部山地・中央盆地帯(瀬戸内陥落地帯の)



山脈

中國山脈

紀伊山脈 一八四〇 米

山上岳 一七二〇

大臺原山 一六九五

金剛山脈 一一二二

笠置山脈 二八九

鈴鹿山脈 一三七七

伊吹山 一三七七

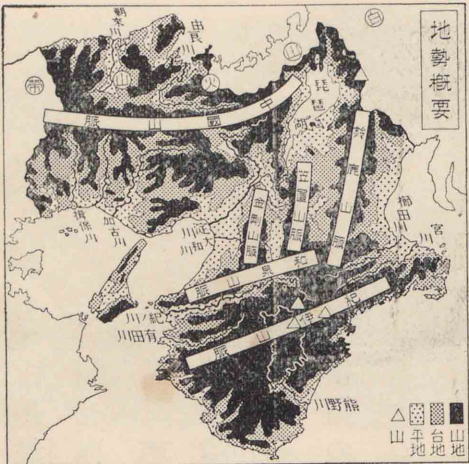
鈴鹿峠 三七八

琵琶湖から發する勢多川は宇治川となり山城盆地から來る賀茂川・桂川を合せて淀川となる

【圖】瀨八丁

流水の浸蝕により兩岸が削つたやうになつてゐる

地勢概要



てゐる。地壘は伊吹・鈴鹿・笠置・金剛等の小山脈をなして、その間に挟まれて、近江・山城・奈良・伊賀等の諸盆地がある。大阪・伊勢の兩平野も、亦盆地の一半と見得るものである。

盆地は早く開けた處で、昔の政治的中心は、多く此處



① 北部山地に分ける。南部には紀伊山脈が連つて、土地が全體に高く、紀伊・宮川・熊野川等が此處を流れ、熊野川の上流には瀨八丁の勝地がある。中央⁽²⁾盆地帯には、斷層の爲に生じた地壘と盆地(地溝)とが、規則正しく集つ

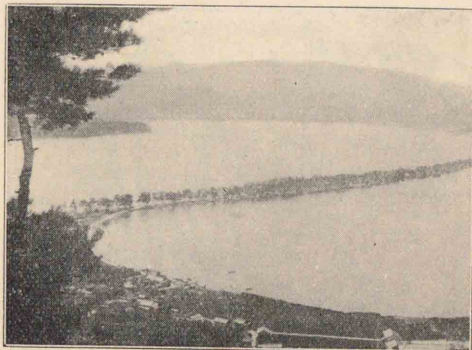
疎水のインク
ライン
一般の船がレールで運ばれ、時に水中に進み浮ばんとする處である

河湖

琵琶湖	大井川	朝来川	淀川	加古川	有馬川	宮田川	紀伊川	由良川	熊野川
二五	三六	四七	五七	六七	七九	九〇	九八	一〇二	一〇四
五	七	七	七	七	七	七	七	七	七
五	七	七	七	七	七	七	七	七	七

天の橋立
西方の霧除から見た光景

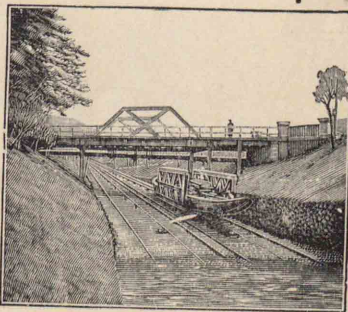
舞鶴灣及び紀淡鳴門の二海峡附近は要塞地帯である



にあつたから、その間の地壘は、交通上軍事上大切な位置を占め、關所の址(逢坂、鈴鹿、不破等)や古戰場(金剛山、笠置山、山崎等)が多い。近江盆地の琵琶湖は、勢多川となりて流出し、更に宇治川となり、淀川となつて大阪灣に入る。淀川は、疏水と共に水運の便が多く、且發電に利用される。

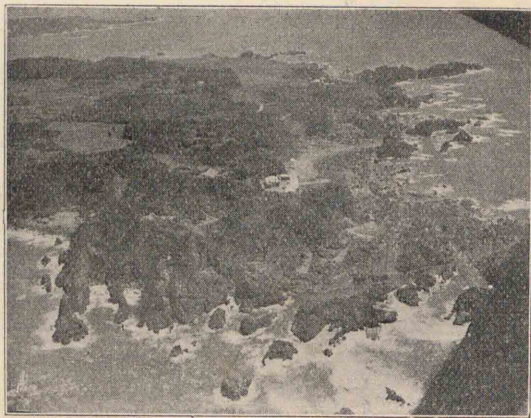
北部は臺地性の山地で、朝來川、由良川、市川、加古川等が此處を南北に反

流し、南斜面には播磨平野がある。日本海岸は出入に乏しいが、一部には舞鶴灣、宮津灣があつて、前者は海軍要港となり、後

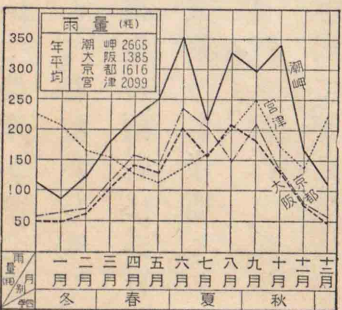
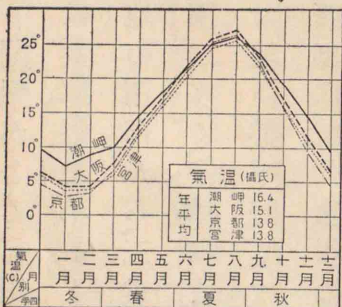
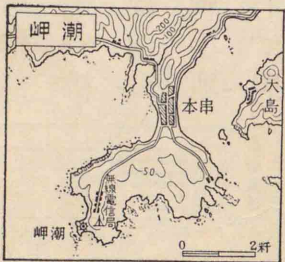


者には、天の橋立の勝地がある。太平洋面は志摩半島の沿岸を始め、一體に小出入が多く、潮岬がその南端をなしてゐる。西方の内海には淡路島が浮んで、大阪灣と播磨灘とを分け、その

潮岬
空中から眺めた光景で、燈臺が見えてゐる



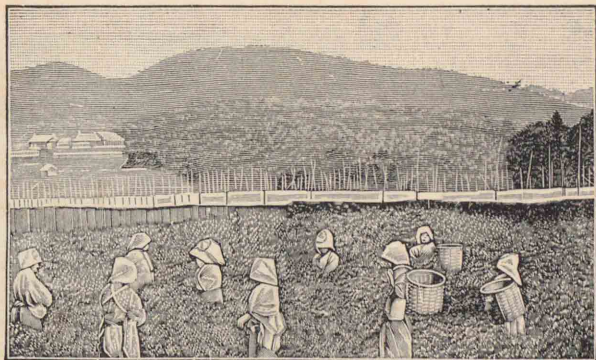
溫和で雨量が少いから、製鹽に適し、又良好な保養地である。日本海岸は冬季に雨量が多く、陰鬱な天氣が續く。



沿岸には、白砂青松の勝地が多く、又大工業地帯が開けてゐる。

氣候 紀伊山脈以南は、暖流に直面し、溫暖で夏の雨量が甚だ多い。内部の盆地は、寒暑の差が稍著しいが、瀬戸内海に面する地

宇治の茶園
白く見えるのは玉露を
作る爲に施した日覆て
ある

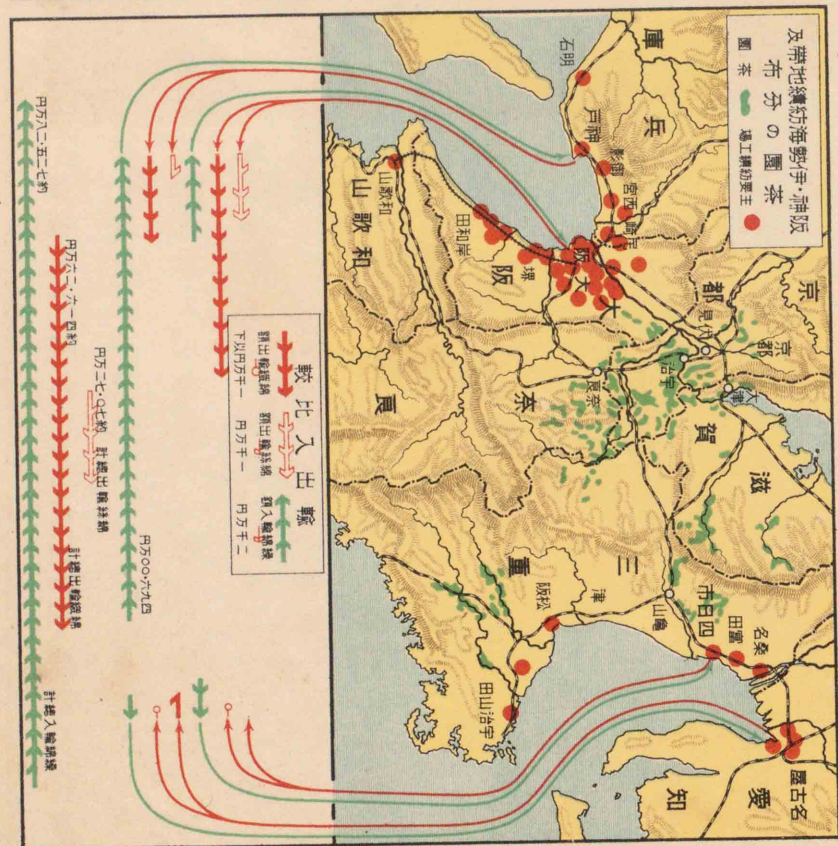
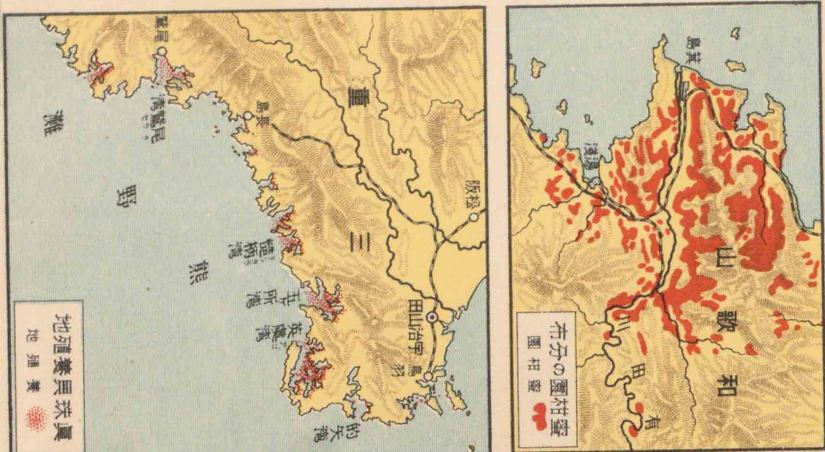
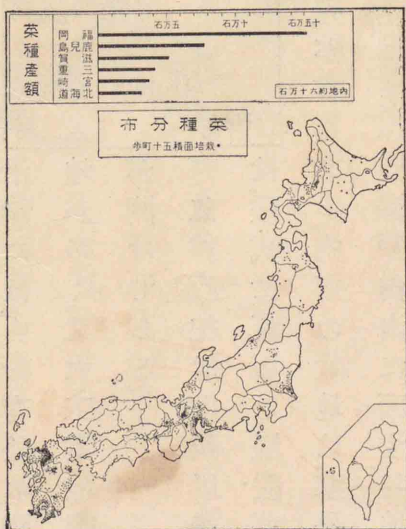


大和西瓜として知
られる

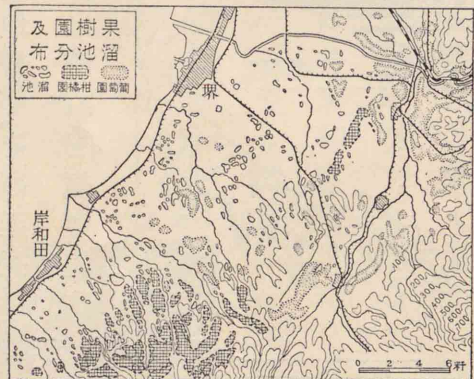
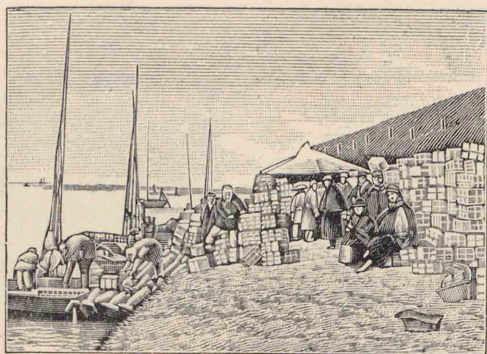
葡萄等を産し、奈良盆地には西瓜の産が多い。兵庫縣は、中國牧牛地帯の東端に當り、神戸牛として廣

は、その集散地である。大阪府の南部からも蜜柑

産業 開墾がよく行届いて、農産が割合に多い。米は兵庫縣を第一として、各地から産し、京都盆地の南部から、三重、奈良の兩縣にかけては、茶園が多く、宇治は古來茶の名産地である。近江盆地伊勢平野では、菜種を耕作し、紀伊半島の西部は、紀州蜜柑の本場で、箕島、湯淺等は、その集散地である。大阪府の南部からも蜜柑

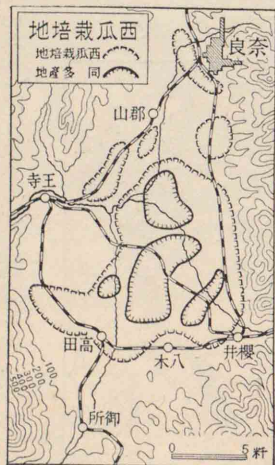


蜜柑積出
箕島に於ける光景であ
るが今は鐵道輸送が多
い



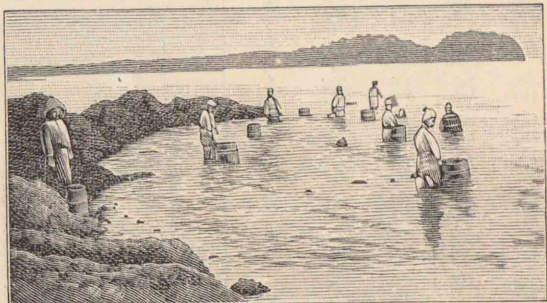
る。水産は熊野灘に多く、殊に三重縣は
鰯、鯉、鰯等の漁利に富み、志摩半島の附
近では眞珠貝の養殖が行はれて、その
眞珠は内外に名聲を博してゐる。兵庫
縣の沿海は製鹽が盛で、赤穂はその中

アカホ(アコ)



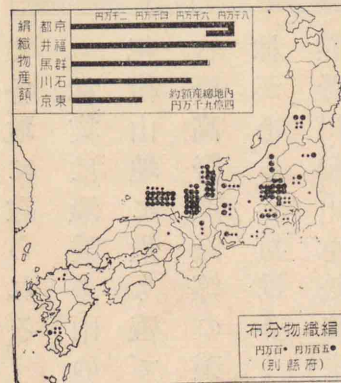
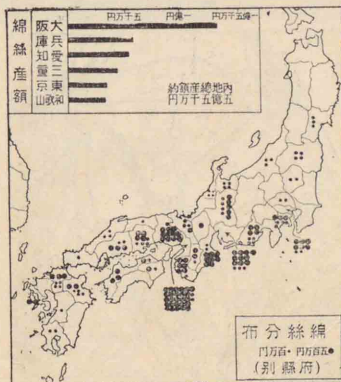
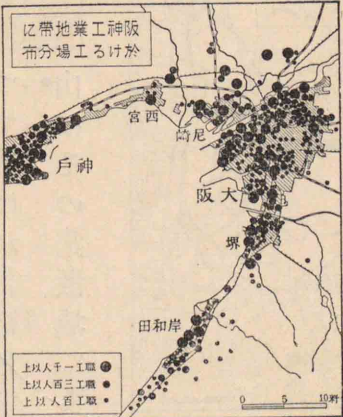
く各地に送られる。
林業は温暖多雨の
紀伊山地に最も盛で、
吉野・高野・熊野等の美
林がある。木材は多く
熊野川・紀川を筏によ
つて運ばれ、新宮・和歌
山はその集散地であ

圖志摩半島の眞珠採取
養殖場の一部を示したもので採集に従事するのは多く女子である



に、東南は堺より岸和田に及び伊勢海の沿岸にも名古屋に續く工業地帯が

心をなし、鑛産は生野(兵)の銀、銅、明延(兵)の錫等が主要なものである。工業の盛大なことは關東を凌ぎ、阪神地方は全國第一の大工業地帯で、その延長は、西は明石を経て、姫路



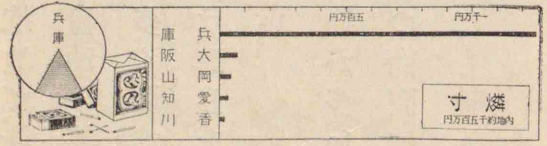
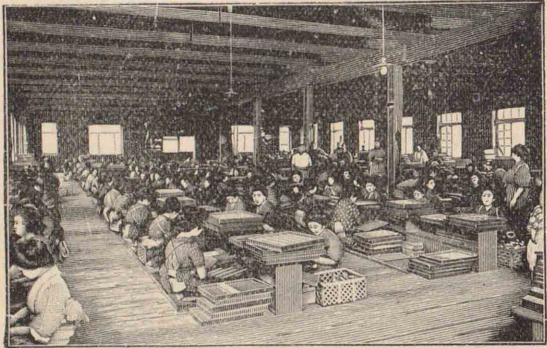
圖紀ノ川下流の木綿晒場
綿糸の原布を水で濯ぎ河原に乾す光景

圖燐寸製造場
神戸市にある燐寸製造工場の内部を示したもので多数の工女は箱詰をしてゐる

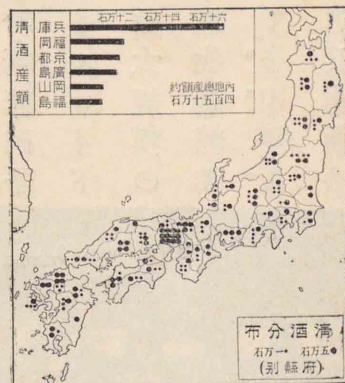
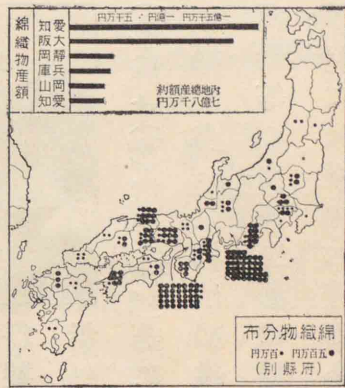


(堺)燐寸(神)造船(神)等には大規模の工場が多い。京都は絹織、染物、刺繡、陶磁器等の美術工藝に秀で、峯山(都)長濱(滋)には縮緬の産がある。兵庫縣は

ある。産額の最も多いのは綿絲、綿布で、大阪府(大)堺(岸)・兵庫縣(戸)を中心として、三重縣(津、富田)にも行はれ、又和歌山は綿フランネルの産額が全國第一である。滋賀縣(八幡)は古來麻織を出し、近年人造絹絲(附近)の工業も著しく發達した。その他肥料、製粉、精糖、硝子器(阪)セルロイド



1 神戸・下關間
2 京都・須佐間



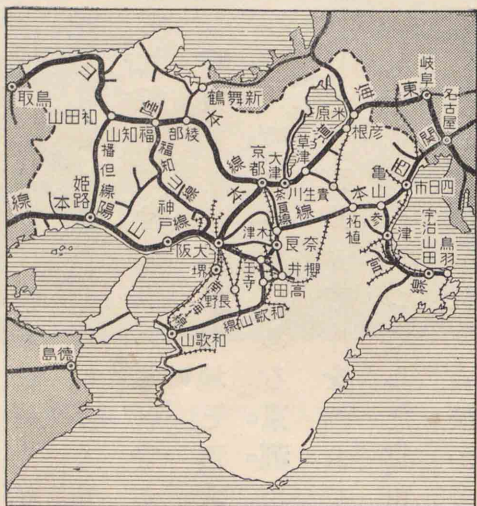
有名な醸造地で、清酒(灘地方・醤油(野龍)等の産額が多く、灘地方の清酒は、醇良を以て名高い。斯く産物が多い

から、商業も甚だ盛で、大阪は内地商業の大中心として、その商圏は東京よりも廣い。外國貿易は神戸・大阪を中心とし、四日市にも輸入が稍多く、宮津は未だ商況が振はない。

交通 東海道線は、山陽線と共にこの地方の幹線となり、關西線²山陰線等は、殆ど之と並んで東西に走り、又此等を連ねて、南北に通ずる線路も多く、鐵道網の密な上に、長距離電車がよく發達してゐる。紀伊半島は陸上交通が不便な爲、沿岸航路が發達して、その缺點

大阪の空港
大津川口の飛行場で格納庫が見えてゐる

滋賀縣(大津)
大津市 千人
彦根市 三三四



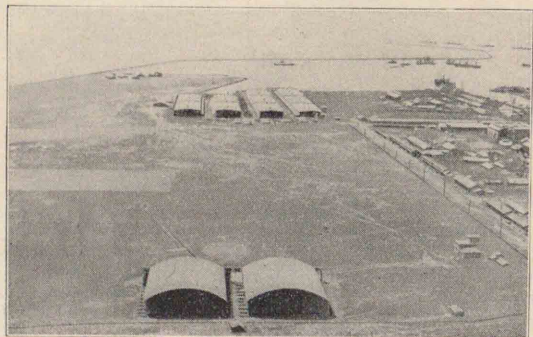
輸送も開け、又三重縣の四日市受信所(名古屋無線)は、歐洲より通信を受ける。

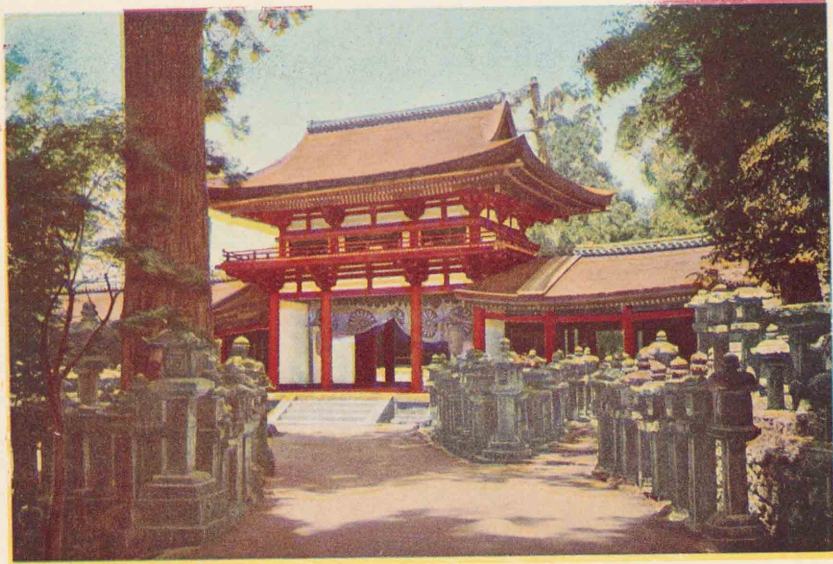
處誌

滋賀縣は、琵琶湖を中心として一盆地を

を補つてゐる。

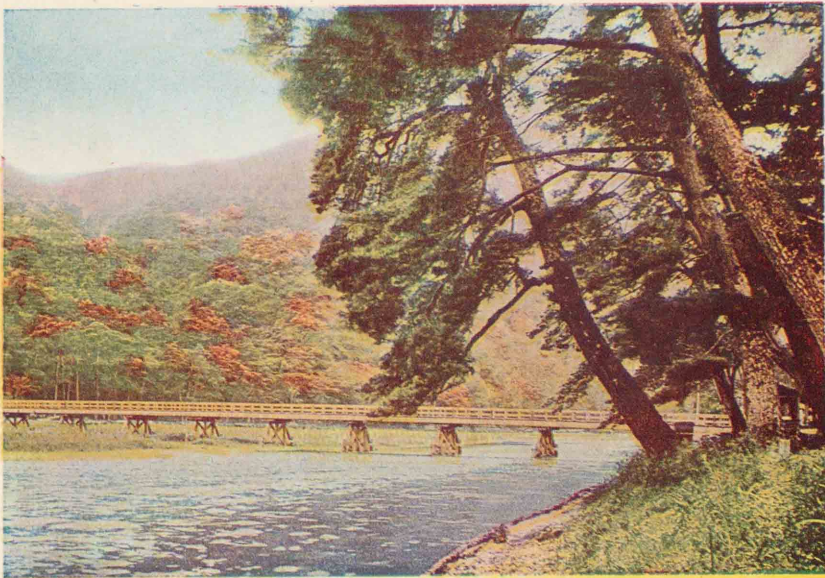
海運は大・阪・神戸を大中心として、内外の要港と航路を通じ、殊に神戸は、外國航路の要地で、横濱と共に東西の二大門戸である。近時大阪を中心として、定期の航空





社神日春

だうやる見に實現を夢の華榮の前年千、宇廟の青丹に森の緑



山嵐

るゐてし映に流清の津保を容山いし麗、葉紅の秋櫻の春

琵琶湖の風景
近江八景の一たる壁田の浮御堂である所謂近江八景は
三井磯鐘 石山秋月
瀬田夕照 粟津晴嵐
矢橋歸帆 唐崎夜雨
堅田落雁 比良暮雪

延暦寺は天台宗の本山

京都府(京郡) 千人
都邑人口 六八〇
京都市 三三一
伏見市 二二一
深草町 二〇
福知山町

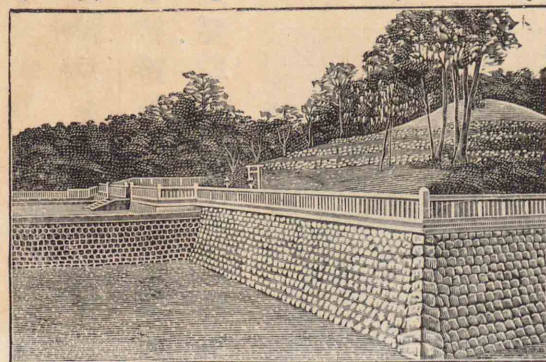
桃山御陵
伏見城址舊本丸址にある



し、比叡山には名高い延暦寺がある。

京都府は山城盆地と西北山地とに分れる。盆地の中心にある京都市は、三方に山を繞らし、賀茂川が市中を流れて、閑雅な趣がある。永く帝都となつてゐた爲、市の内外には、御所を始め、名高い社寺古蹟が多く、今は關西學

なす。湖東の米原は、交通の要地で、長濱は縮緬の名産地である。彦根は名高い城下町で、商業が榮え、八幡は蚊帳の産地として名高い。湖南の大津市は、湖上航通の中心で、附近に製麻人造絹絲等の工場がある。三井寺、石山寺を始め、所謂近江八景は、多く市の内外に散在



京都は全市を五區に分け第十六師團司令部・京都帝國大學及び醫科大學(府立)がある

京都市の内外に泉涌寺・清水寺・三十三間堂・知恩院・平安神宮・金閣寺・銀閣寺・東本願寺・西本願寺・東寺・延暦寺・嵐山等がある
宇治に平等院の古刹がある

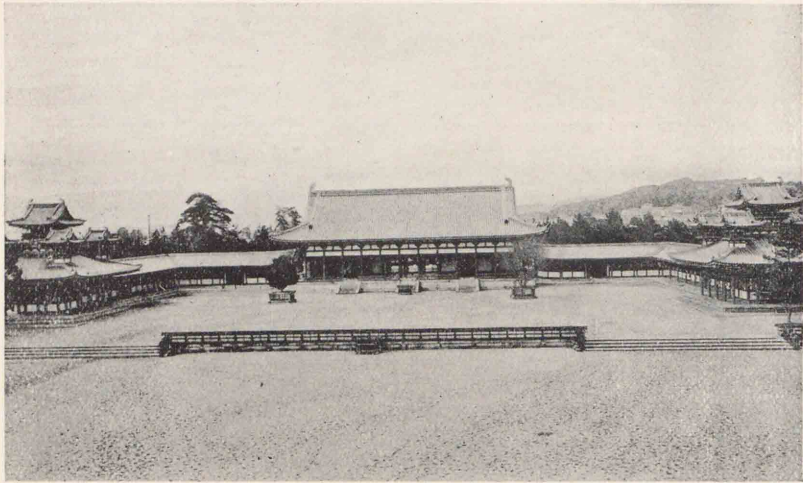
奈良縣(奈良)
奈良市 千人
郡邑人口 四九

三笠山の一部
檜草山の終草の生ひ茂る斜面に遊歩鹿の群は全く奈良式の光景である



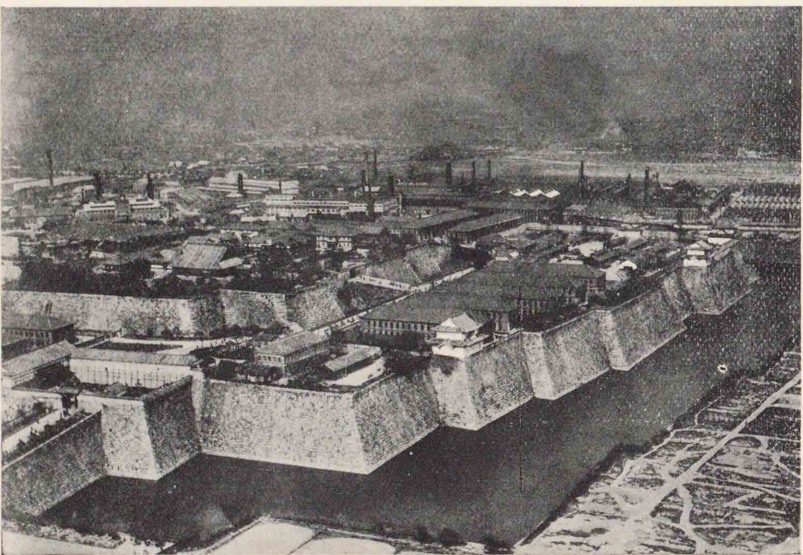
術の中心である。美術工藝を特色とし、西陣織・友禪染・刺繡・陶磁器(水田燒栗)漆器等を出す。宇治川に沿ふ伏見市はもと京都の關門に當つた處で、郊外の桃山に桃山御陵がある。宇治は古來屢戰場となつた處である。西北山地には多くの小盆地があつて、福知山その他の都邑が散在し、海岸には舞鶴・宮津等の港がある。奥丹後地方は縮緬を産し、峯山はその中心である。

奈良縣は奈良盆地と南部山地とに分れる。奈良盆地の奈良市は古の平城京の一部で、東に三笠山を負ひ、正倉院・春日神社・東大寺・興福寺等の名高い建物が多く、遊覽地として古雅の趣に富む處である。郡山は盆地の名邑で、法隆寺には同名の古刹がある。南部には畝傍山・多武峯等を始め、名所が多く、所謂大和巡



平 安 神 宮

中央は大極殿の造り拜殿は右蒼龍は左は白虎の高樓であら



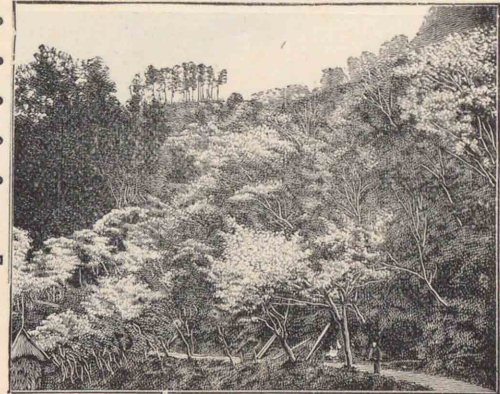
大 坂 城

中空の城壁を見光景の模範偉大が窺はる

●三重縣(津)
郡邑人口 千人
津市 四五
宇治山田市 四五
四日市 四七
松阪市 二五
桑名町 二三

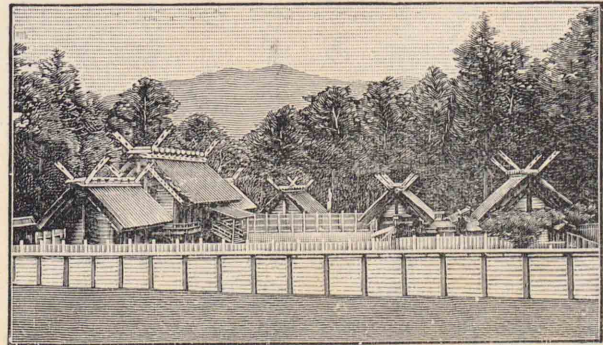
●吉野山の櫻花
一目千本の眺望
吉野に名高い如意
輪堂がある。

●伊勢の内宮
正殿を側面から輝した
光景でその森嚴は見え
ず櫻を正さしめる



●桑名、●四日市、●津市等は、何れも古い港であるが、今は南方の松阪と共に、綿工業が著しく發達し、四日市はその門戸で、綿を多く輸入し、附近から萬古焼を出す。●宇治山田市は伊勢神宮鎮座の聖地で、参拜者の絶える時なく、近傍に

の中心となつてゐる。吉野は、南部山地の入口に當る要地で、吉野朝廷の史蹟と、吉野山の櫻花とて名高い。
●三重縣は伊賀盆地、伊勢平野及び南部海岸に分れる。伊賀盆地には、上野の名邑がある。伊勢平野の



●吉野は、南部山地の入口に當る要地で、吉野朝廷の史蹟と、吉野山の櫻花とて名高い。

和歌山縣(和歌山)
郡邑人口 千人
和歌山市 一〇八
新宮町 二四
田邊町 二二

新宮の貯木場
熊野川を筏として流下
した材木が集つてゐる
處である
和歌山は徳川氏親
藩の城下町である

大阪府(大阪)
郡邑人口 千人
大阪市 二一五
岸和田市 三〇九
三二



二見浦朝熊山等の勝地がある。志摩半島の鳥羽は天然の良港をなし、半島の南面(英虞)は、眞珠貝養殖の中心である。

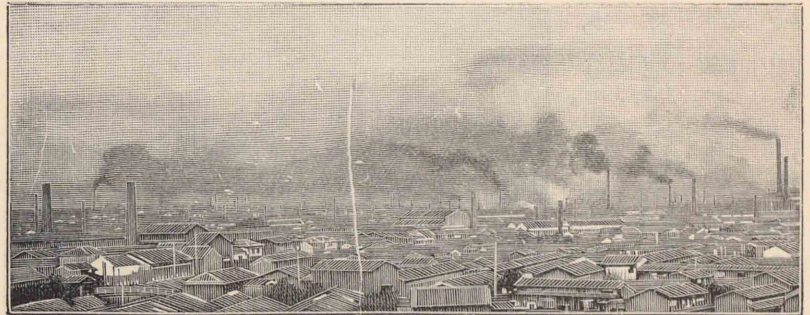
和歌山縣は、海岸地帯紀川流域及び内部山地に分れる。熊野川に臨む新宮は、木材の集散が多く、近傍に那智瀧がある。海岸には串本その他の漁港が多い。紀川の口に臨む和歌山市は、木材の集散が多く、又綿ネルの製造が甚だ盛である。この近傍に和歌浦の勝地がある。内部は木國の名を與へられた木材の産地である。高野山には金剛峯寺があつて、參詣人が常に多い。

大阪府は大阪平野を主部とし、周圍に山地がある。大阪市は淀川の三角洲に位し、その人口は東京を凌いでゐる。南日本に於け

大阪は全市を十三區に分け第四師團司令部・醫科(府立)商科(市立)等の大學がある

大阪市の街の一部

工場地方の光景で林の如き煙突はその盛大を示し煙の都と呼ばれるも道理である



る商工業・經濟・交通の大中心で、河岸沿海の地方には、公私の大工場が多く、綿絲・綿織・毛織・タオル・莫大小硝子器肥料雜貨等の製造が甚だ盛で、煙突林立の壯觀を呈し、又その港は築港も完成して、内外の船舶が絶えず出入し、安治川口には空港も備はつてゐる。市内には大阪城・四天王寺等の名蹟があり、郊外の濱寺・箕面及び寶塚(應)等も市民の遊樂地で、郊外電車がよく發達してゐる。近郊の吹田には、麥酒の工場があり、堺市は岸和田市と共に綿工業が發達し、又セルロイド製品・足袋・又物・清酒等を産する。東境の山地には金剛山・四條畷等の古戰場があり、又生駒山・信貴山等には名刹があつて、參詣者が多い。

兵庫縣(神戸)

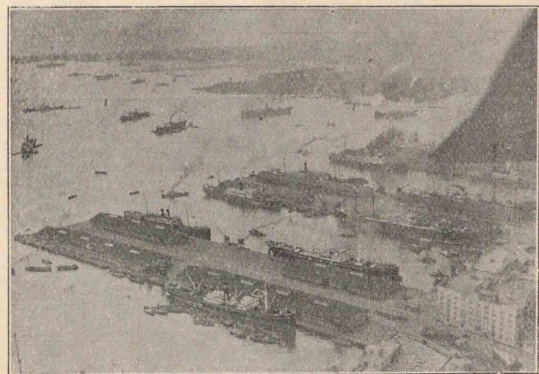
神戸市	六九八
姫路市	五六八
明石市	三四四
西宮市	三七七
洲本市	二五

有馬の附近に炭酸泉の湧く處がある

神戸港の展望
市の後方諏訪山から港内を望んだ光景である

神戸に商業大學がある

神戸の埠頭
空中から眺めたもので第二第三第四の埠頭が見えてゐる



兵庫縣は西攝平野・播磨平野及び北部山地に分れ、淡路島が海中に離れてゐる。⁽¹⁾ 尼崎市は綿絲・硝子等の工業が行はれ、西宮市・御影等は所謂灘地方の中心地である。この背後に有馬・寶塚等の温泉場がある。神戸市は、横濱と共に我が二大開港場で、線綿・鐵類等の輸入は殊に多い。壯大な造船所を始め、綿絲・燐寸等の大工場が多く、又名高い湊川神社がある。西部の須磨から、舞子に至る海岸は、白砂青松の

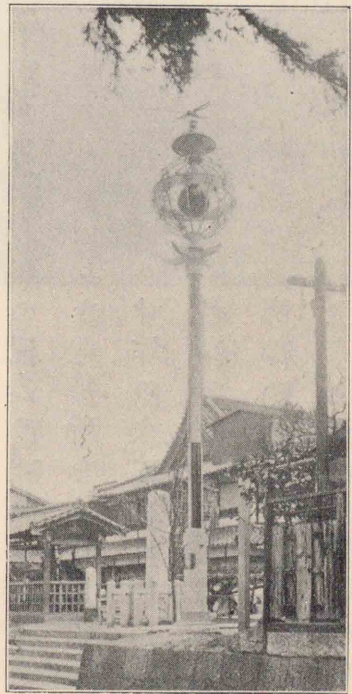
中央標準時子午線通過地識標
明石市にあつて今上陸下の御大典記念として改築されたものである

城崎に近く玄武洞の奇景がある
山陰線の鐵道は城崎の西方で名高い餘部の鐵橋を渡る
姫路に第十師團司令部がある

府縣名(廳所在地) 管轄國名

- 岡山縣(岡山市) 備前備中美作
- 廣島縣(廣島市) 備後安藝
- 山口縣(山口市) 周防長門
- 島根縣(松江市) 出雲石見隱岐
- 鳥取縣(鳥取市) 因幡伯耆

勝地で、氣候がよく、保養地として名高い。播磨平野の海岸も名所に富み、明石市には工業が行はれ、中央標準時の子午線は、此處を通過する。姫路市は米の取引が盛で、又革細工を出し、赤穂は義士の名と鹽田とに著はれ、龍野は醬油を産する。北方の豊岡は、柳行李を出し、城崎は溫泉場である。淡路島は耕地がよく開け、又淡路焼をを出す。洲本は島の主邑である。



第五章 中國地方 通説

面積 約三六〇万平方
約二〇五〇方里
(約二〇五〇方里)
人口 約五一五萬
(二方料一五七〇)

山脈・火山帯

中國山脈
白山火山帯
大山 一七二三
氷山 一五一〇
三嶺山 一一二六

河 湖 流長 周囲 方里

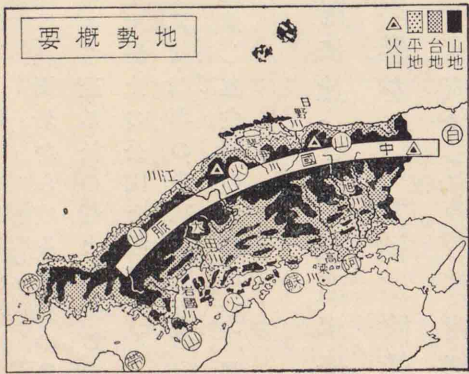
江川	二〇〇
旭川	一四五
井川	一三七
國川	一三六
田川	一〇八
梁川	八六
伊川	七五
野川	七五
日川	六六
中川	五九
宍道湖	五一

圖 中國第一の高山
大山は中國第一の高山で、伯耆富士とも呼ばれる。又海中に浮ぶ二艘の船はソリヨといひこの邊の特有船である



古の山陽山陰兩道の大部を占める半島狀の地域で、政治上五縣に分ける。山陰の一部は已に太古に開けた處であるが、山陽は地形・氣候等に於て勝れ、今は山陰よりも人口が密で、産業も發達してゐる。

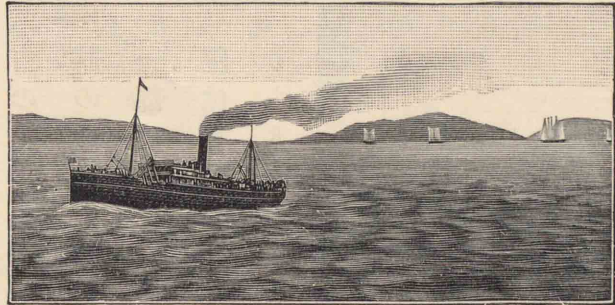
地形 中國山脈が東西に延びて、山陽山陰の兩斜面に分れる。中國山脈は高原性で、中に數多の小盆地を抱き、白山火山帯が之と並んで、大山三瓶山等を起してゐる。山陽面は幅が稍廣く、吉井川旭川高梁川等が流れて、下流に廣い岡山平野を開いてゐる。山陰の江川は、中國第一の大河であるが、その沿



沿

下關海峽・廣島灣等の附近は要塞地帯である

瀬戸内海の風景
無数の小島が船の行く先を遮りその間に狭い瀬戸を作つてゐる



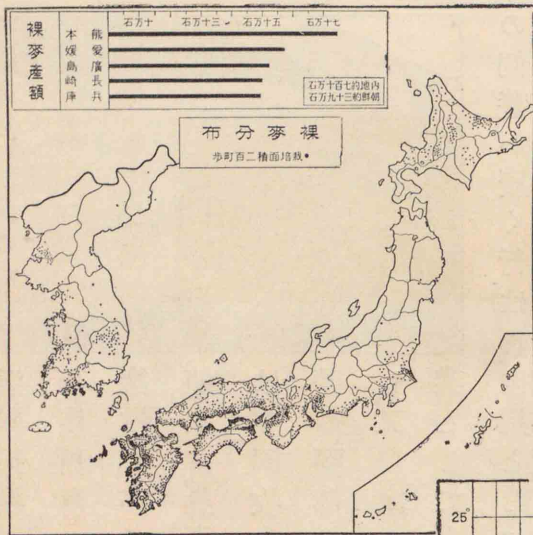
岸には著しい平野がない。

日本海岸は、島根半島附近の外、一體に單調であるが、瀬戸内海の沿岸は、港灣・島嶼が錯雜して、良港が多く、風光も勝れ、又國防上にも重量な處で、吳には軍港が設けられてゐる。

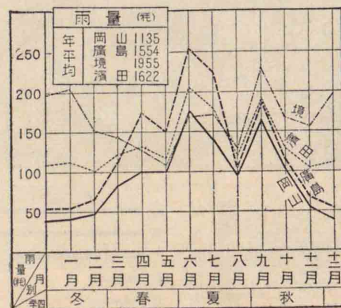
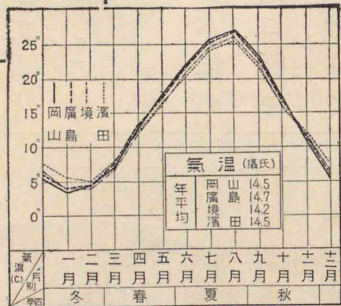
瀬戸内海 本州・四國・九州の間にある大内海で、紀淡・鳴門・下關・豊豫等の海峽によつて、外海と通じてゐる。沿岸には屈曲が多く、波靜なる海上には、花崗岩から成る無数の島が浮び、その分解した白砂は、生ひ茂る松の緑と相映じ、その美しさは一幅の畫のやうで、海上の公園と呼ばれる。この海面は船舶の往來が繁く、又鯛・鮭等の漁利に富み、沿岸には處々に商港や漁港が發達し、且食鹽の大産地で、所謂十州鹽田はこの周圍にある。

氣候 山陰地方は、山陽に比べると氣温が低く、且冬は西北季節風の影響を受け、天候が陰鬱で雨雪が多く、所謂日本海式氣候であるが、西部

三田尻は防府町の一部である



は氣温も稍高く、雨量も少い。山陽地方は、向背に山脈が連つて、濕風を遮るから、年内を通じて晴天が多く、本邦中で



雨量の極めて少い地方である。従つて製鹽業が大いに發達し、三田尻・山・松・永・島・廣・味・野・山・岡等の附近には、鹽田が甚だ多い。

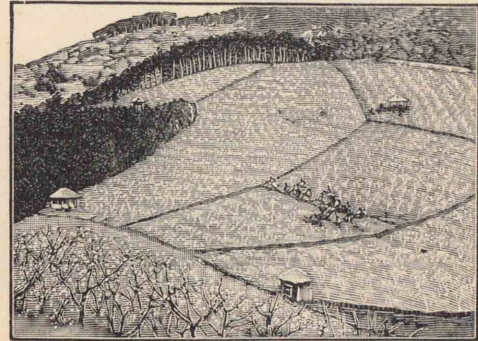
産業 開墾がよく行はれ、殊に山陽方面は、丘陵・山谷までも農耕に利用されて、米・麥等の産が多い。

花筵は岡山縣が本邦第一の産地である

岡山縣御津郡牧石村の桃畑を示す

岡山縣の光景
盛に生育しつゝある蘭草へ水車で水を供給してある

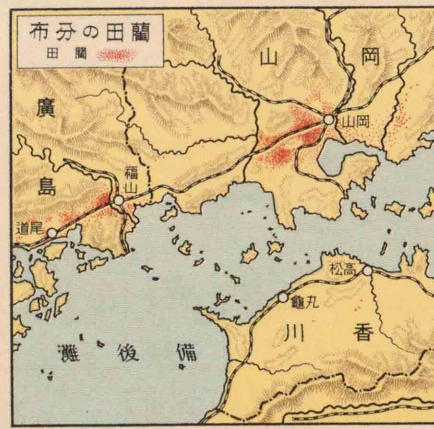
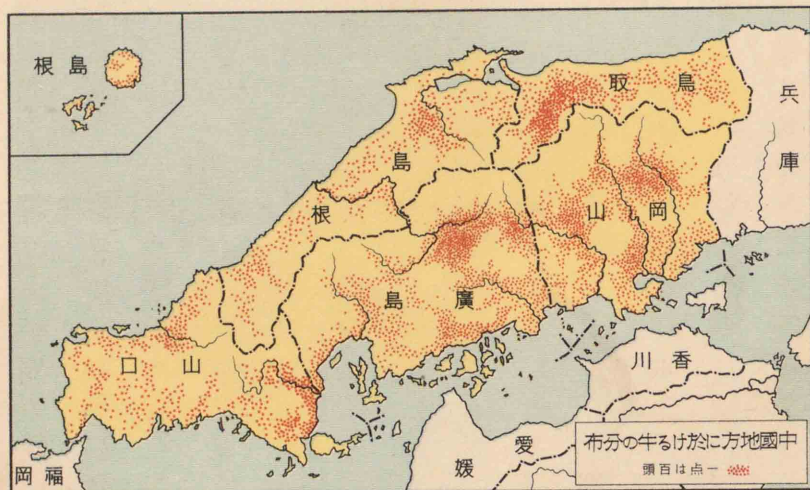
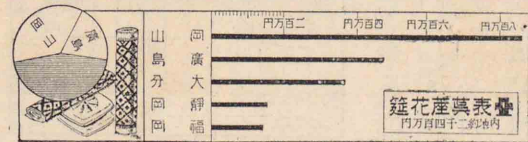
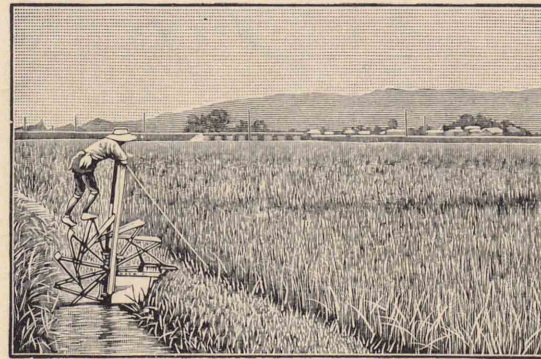
廣島市の罐詰肉原料は他よりも多く移入する



の飼養が廣く行はれ、肉用として各地に送られる。

漁業は瀬戸内海の鯛・鱈、日本海の柔魚等が代表的のもので、山口縣の漁獲高は殊に多く、その漁場は遠く

近年果樹の栽培が盛となり、岡山縣の桃・梨・葡萄、廣島縣の柑橘等は、殊に著はれ、山口縣の夏蜜柑も亦名高い。岡山・廣島の兩縣では、蘭草を植ゑて、疊表花筵等の原料とする。山中の盆地は、中國牧牛地帶の要部をなし、又農家の副業としても、牛

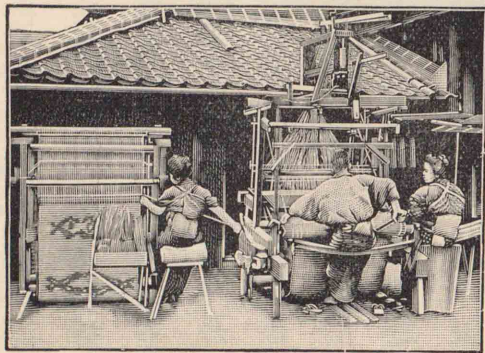
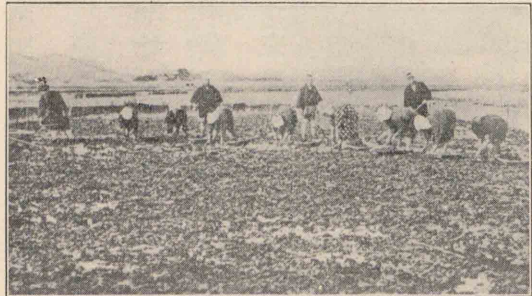


北部からは砂鐵が
出る

【圖】牡蠣の養殖場
養殖場内の光景で成長
した牡蠣を採取してゐ
る

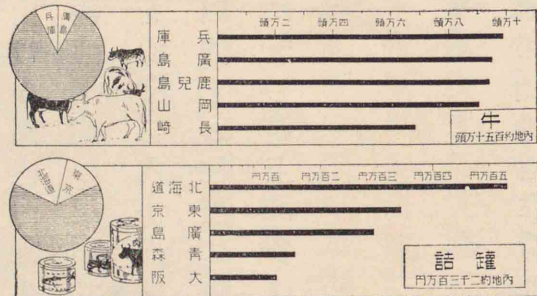
【圖】花筵製織
左方のは普通の花筵で
筵の關係で模様が自
然に織り出され右方
は綾筵と呼び畫をかい
た圖を織つて模様を出
すのである

廣島・岩國には人
造絹絲の工場があ
る



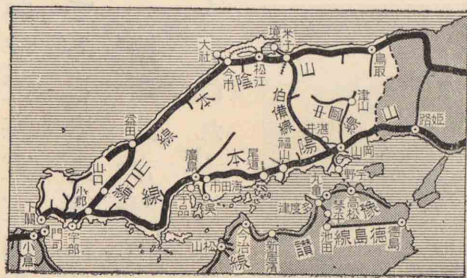
朝鮮近海東支那海に及び下關はその集散が盛
である。廣島灣には牡蠣の養殖が行はれる。
鑛産は吉岡(岡)の銅、大嶺(嶺)の石炭が最
も著はれ、大嶺炭は徳山にある海軍燃料廠の原
料に供せられる。

工業は近年大規模の紡績事業が勃興し、綿織物も處
處から産する。岡山縣は疊表花筵製帽眞田等の産が
多い。又吳を中心とする造



1 米子・倉敷間
2 小郡・益田間
下關から門司へは
約十五分釜山へは
約十時間を要する
下津井・角島等に
無線電信局がある

●岡山縣(岡山)
郡邑人口 千人
岡山市 二二五
津山市 一三三
倉敷市 二二八
玉島町 二〇八



兵工業は、規模が特に大きく、西條(廣島)は清酒の醸造で名高い。商業は山陽方面に盛で、廣島、岡山はその中心である。下關は米、水産物の大集散地で、又主要の開港場である。宇野(岡山)、尾道、絲崎(廣島)、徳山、萩(山口)、濱田(根島)、境(鳥取)等の開港は、商況が未だ振はない。交通 鐵道は山陽線、山陰線を幹線とし、伯備山口の兩線が之を

連ねてゐる。下關は關門、關釜兩連絡船の起點で、宇野(岡山)は四國と鐵道連絡船を通ずる。内海面は航行が便利で、殊に阪神及び四國との往復は頻繁であるが、日本海岸は良港に乏しい上に、冬は風浪が荒く、航通を妨げる。

處誌

■岡山縣は岡山平野と、北部の山地とに分れ

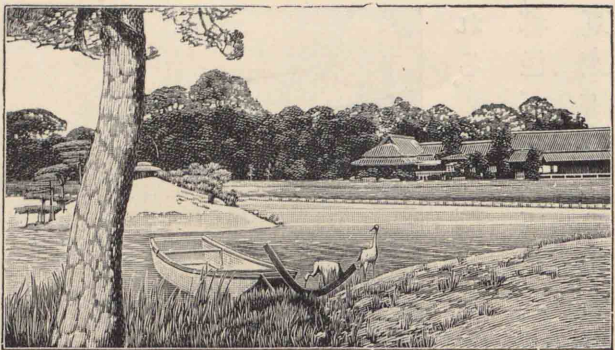
岡山に醫科大學がある

●廣島縣(廣島)
郡邑人口 千人
廣島市 二二九
吳市 一六九
尾道市 一三四
道市 二八

●廣島縣(廣島)
郡邑人口 千人
廣島市 二二九
吳市 一六九
尾道市 一三四
道市 二八

●廣島縣(廣島)
郡邑人口 千人
廣島市 二二九
吳市 一六九
尾道市 一三四
道市 二八

●廣島縣(廣島)
郡邑人口 千人
廣島市 二二九
吳市 一六九
尾道市 一三四
道市 二八



臨んで風景がよく、福山市と共に、疊表の集散が行はれる。内海の一勝地で、新市は綿織の集散地である。大田川に跨る廣島市は、中國第一

る。岡山市は名高い後樂園の所在地で、又疊表の集散が行はれ、西南の倉敷市、玉島、笠岡等と共に、中國紡績地帯をなす。高梁川の流域では、製帽眞田の産が多く、高梁はその中心である。北方の津山市は、盆地の中心地で、板紙を産し、院庄の名地がある。

■廣島縣の自然状態は岡山縣と似てゐるが、平野は大體二つに分れる。東部の尾道市は、狭い水道に



廣島に第五師團司令部がある

嚴島神社
嚴島神社には市杵島姫命を祀る。圖は神社から北面して大鳥居を望んだ光景で干潮の時は鳥居は陸面に建つてゐる

山口縣(山口)

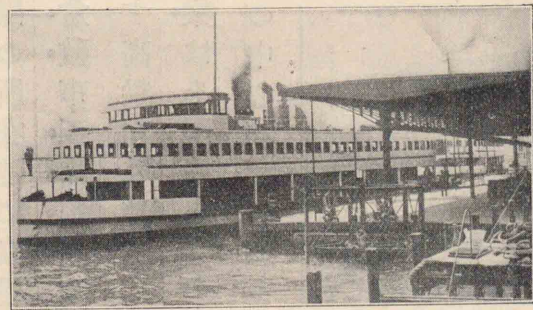
郡邑人口 千人
下關市 九二
宇部市 四九
山口市 三一
防府市 二二
徳山町 二二

關門の連絡
下關から門司へは約十五分釜山へは約十時間を要する



の大都會で、宇品港を控へ、二大戦役以來、陸軍輸送の要地となつて、著しく發展し、罐詰、縫針等を出す。吳市は軍港町で、萬年筆の製造も行はれる。嚴島は自然の風景がよい上に、華麗な嚴島神社がある。北部山地の三次は、牧牛地帯の中心地で、又麻の集散が行はれる。

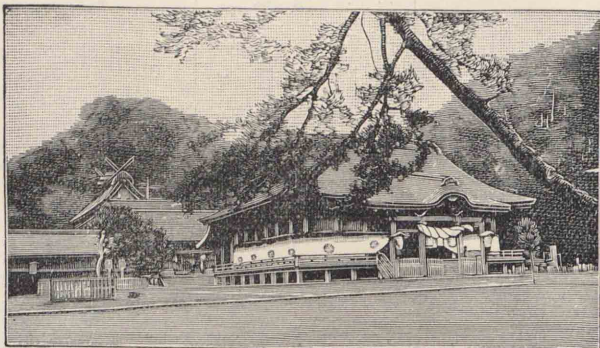
れる。内海側には、岩國、徳山、宇部市、小野田等の郡邑があつて、新式工業が行はれるが、北岸には、夏蜜柑の産に名高い萩の外には、著しい處がない。



出雲大社
出雲大社は大國主命を祀る。圖は西南から拜殿と本殿とを望んだ光景

島根縣(松江)
郡邑人口 千人
松江市 四一

鳥取縣(鳥取)
郡邑人口 千人
米子市 三五
鳥取市 二七



附近から出雲焼を出す。隱岐は鰯の産が多く、西郷は良好な漁港である。

鳥取縣は海岸平野を要部とし、大體三つに分れる。西部の米

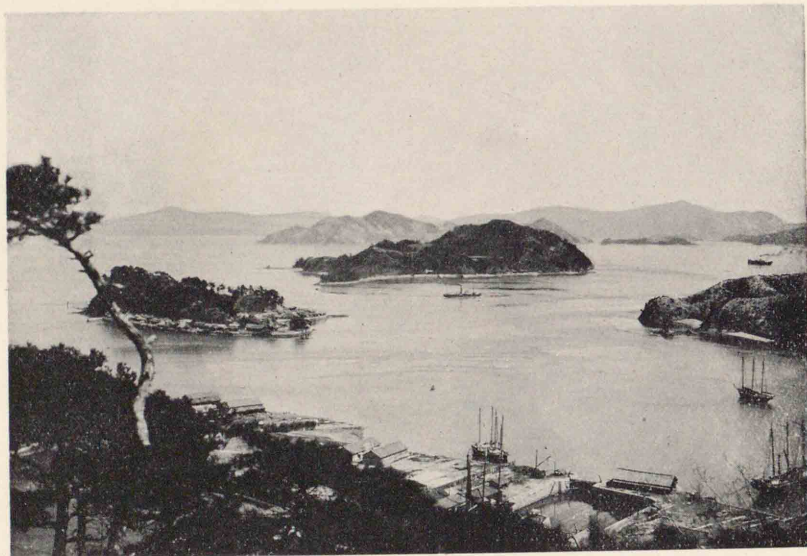
い。兩海岸の結合點にある下關市は、九州、朝鮮との連絡の衝に當り、附近の壇浦は、源平の古戰場として名高い。山口盆地の中心たる山口市は、小京都と呼ばれ、清楚な市街である。

島根縣は出雲平野を要部とし、西南に狭い海岸低地が續く。西南部は和紙、赤瓦等を出し、濱田はその中心である。出雲平野の大社には、社殿の古雅と、宏壯とて名高い出雲大社がある。松江市は山陰第一の大都會で、宍道湖と中海との間に位し、景色が頗るよい。この



市島廣

るゐてし流貫を中市れ分に派數が川田大で景光た見らか中空



峽海島來

るあで等島來び及島小島大はのぶ浮に上海で町濱止波は街市の景近

面積
約一八〇万
方尺
(約一二〇万
方里)
人口
約三一七萬
(一平方尺一六九人)

府縣名(廳所在地) 管轄國名
德島縣(德島市) 阿波
香川縣(高松市) 讃岐
愛媛縣(松山市) 伊豫
高知縣(高知市) 土佐

子市は、水陸交通の要地で、此處から突出する夜見濱には、景色の美しい處が多く、その北端に境港がある。倉吉は綿織・生絲等の産地で、附近に三朝温泉がある。鳥取市は千代川下流の要市である。

第六章 四國地方

通説

四國とその附近の島嶼とて、政治上四縣に分ける。北部は、山陽その他との交通が早く開けて、産業も進み、都會の數も多いが、南部は一般に人口が疎である。

地形 中央の山地と、南北の兩斜面とに分れる。四國山脈は、紀伊山脈から續いて、殆ど東西に走り、劔山・右槌山等の高山が聳えてゐる。北部には丘陵性の讃岐山脈や、高繩半島があり、瀬戸内海岸には阿蘇火山帯が通じて、飯野山(讃岐)興居島(伊豫)等を起

山脈・火山帯

四國山脈 米
 鷲山 一九五五
 石鏡山 一九二一
 讃岐山脈
 阿蘇火山帯
 飯野山 四二二

河川

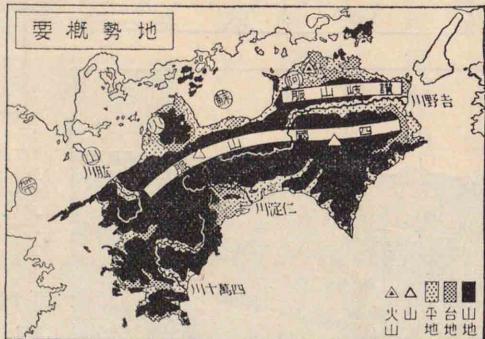
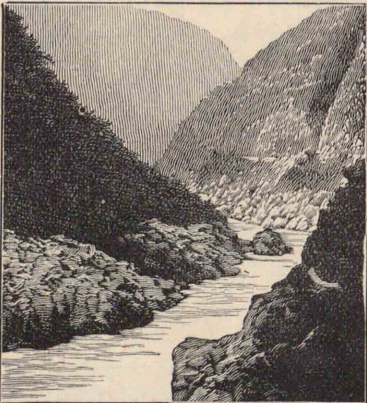
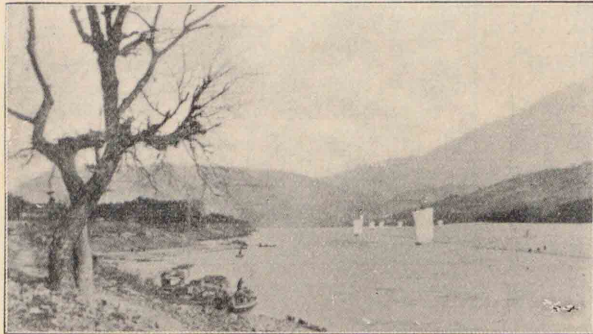
吉野川 二二六
 四萬川 一三七
 仁淀川 一三〇
 肱川 八六

鳴門海峡・豊後海
 峽の附近は要塞地
 帯である

吉野川
 臨野附近に於ける光景
 である

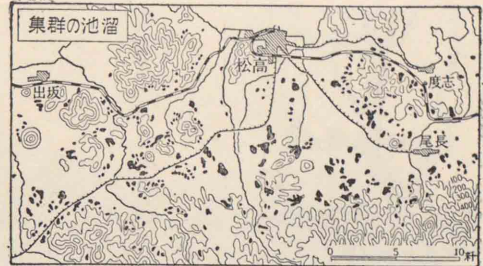
大歩危
 吉野川の上流にある峽
 谷の難道で風景がよい

し、屋島の熔岩臺地も亦之に屬する。太平洋
 面には、陥落の爲に出來た土佐灣がある。景色
 の雄大な室戸岬と足摺岬とが、東西の兩翼
 をなしてゐる。東方の紀
 伊水道と、西方の豊後水
 道とは、リアス式海岸を
 なし、小屈曲が多い。

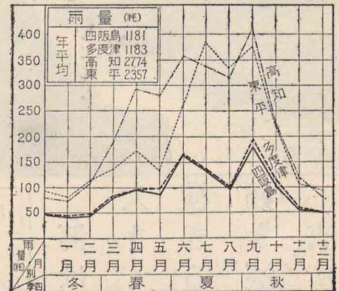
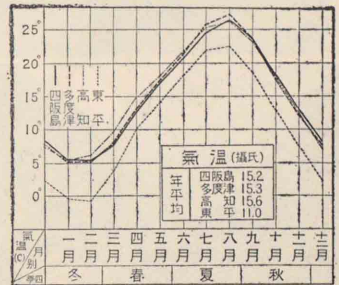


河は、吉野川が最も
 大きく、上流の山脈を
 横ぎる處は、大歩危の
 如き峽谷を流れるが、
 下流には廣い徳島平

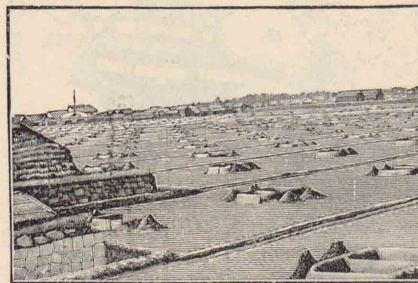
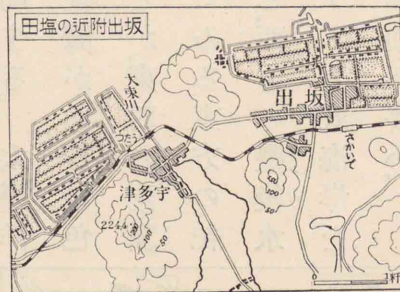
鹽田の光景
坂出鹽田の光景



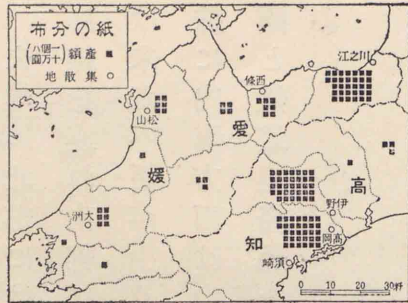
いから灌漑用の溜池が多く、沿海は製鹽に適する。太平洋面は更に暖て、夏に降雨が多く、内地では最も雨量に富む地方である。



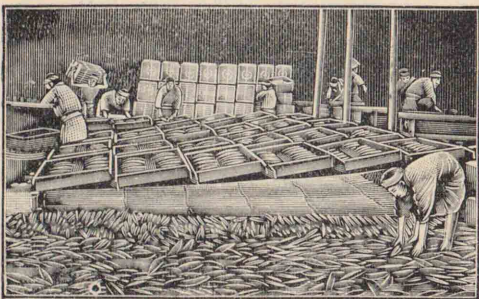
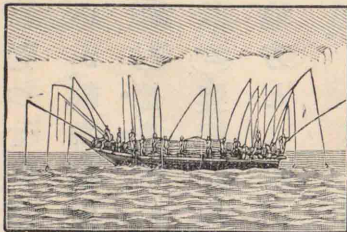
野を伴つてゐる。この他仁淀川・四万十川・川等がある。氣候 北部は對岸の山陽



鰹釣舟と鰹節の製造
上圖は群集せる鰹を釣る有様で、下圖は鰹節製造場(備多郡清松村)の光景である



は、果樹の栽培も行はれる。水産は一帶に豊富であるが、太平洋面の鰹・鰯と、内海の鯛・鱒とは、漁利が殊に多い。高知縣は古來鰹節の産地として名高い。銅の主要なのは、別子(媛愛)の銅



産業 瀬戸内海の斜面には、米・麥等の農産が割合に多く、吉野川の流域には、藍・煙草の特産がある。香川縣では甘蔗を植ゑて粗糖を造り、愛媛縣では櫛から木蠟を採る。愛媛・高知の兩縣では、三椏・楮を栽培して和紙の原料とし、伊野(高川)・江(媛愛)等は抄紙の中心地である。愛媛(梨・橘)・香川(果萃)の諸縣に

香川縣の直島にも製鍊所がある

- 1 高松・郡中間
- 2 高松・引田間
- 3 多度津・池田間
- 4 徳島・池田間
- 5 須崎・角茂谷間

で、その鑛石は新居濱から四阪島に送つて精鍊される。工業は未だ著しく發達しないが、綿絲・綿織物は主要な製品で、今治・松山・宇和島(愛媛)・徳島等にはその産額が多く、又香川縣には花筵(丸)製帽眞田(坂)・出坂・隣寸(高)等の産がある。商業は阪神地方との取引を主とし、今治は唯一の開港場である。



交通 北部には豫讃線¹・高德線²が通じ、土讃線³が之から分れて徳島線を連ね、南部には高知線⁵が一部に開通してゐるが、陸上の交通は未だ不便が少くない。然し近海航路が發達してその缺點を補ひ、殊に内海方面は、山陽地方に對して、航行が頻繁に行はれ、高松は中國と鐵道連絡船を通ずる。

處誌

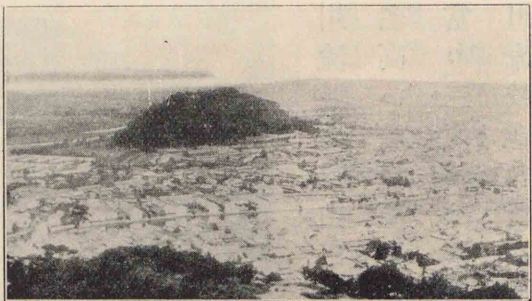
徳島縣(徳島)
 郡邑人口 千人
 徳島市 八四

圖説 徳島市
 圖中に目立つ翠岳は城山である

鳴門の潮流は一時
 間二十軒に及ぶ

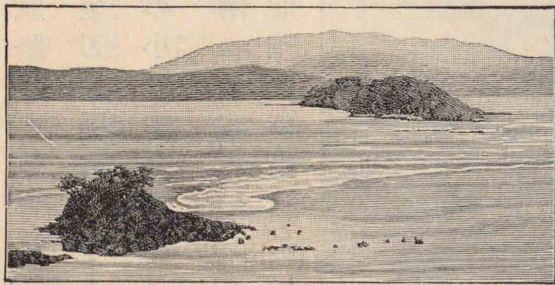
圖説 鳴門海峡
 鳴門公園から見た光景で島は徳島と飛島

香川縣(高松)
 郡邑人口 千人
 高松市 七二
 丸龜市 二八



徳島縣は徳島平野を要部とし、西南の大部は山地である。徳島市は四國第一の都會で、小松島を外港として、貨物の集散が多く、脇町(藍)・池田(草煙)は、共に農業地方の一中心である。鳴門海峡は潮流が速く、大小の渦を巻いて舟行を妨げる。之に近い撫養は、製鹽の一中心地である。南部は山が高峻で、中に祖谷の別天地がある。

香川縣の要部は讃岐平野で、近海には島が多い。高松市は四國の大門戸に當り、名高い栗林公園がある。近傍には屋島・五ノ山等の名地が多い。坂出は製鹽業の中心地で、丸龜市は商業の



善通寺に第十一師團司令部がある

金刀比羅宮
人家が階段をなして南側に並び門前町をなしてゐる

愛媛縣(松山)
郡邑人口 千人
松山市 七五
宇和島市 三五
今治市 三九

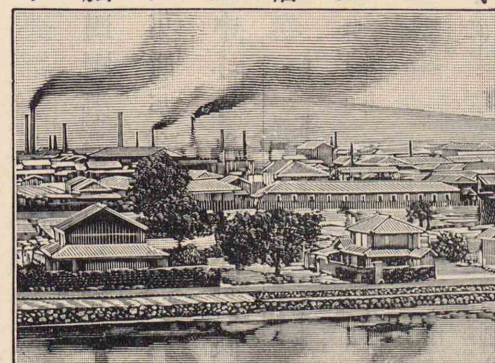
今治市の展望
近年綿織工業が著しく勃興した都市で林立する煙突はその盛況を示すものである



要地を占め、多度津は内海航路の要地、善通寺は兵營町である。琴平には金刀比羅宮がある。海(2)上の小豆島は醤油を出し、又奇景に名高い寒霞溪(3)がある。

愛媛縣の要部は、東豫(1)北豫及び南豫に分れる。東豫の今治市は、新進の工業地。綿ネルの産が多く、附近(濱波止)に廣い鹽田がある。重信

川流域の松山市は、綿絲綿織等を出し、附近に名高い道後温泉がある。高濱は松山の門戸に當り、三津濱は水産物の集散が盛である。川流域の大洲は、紙の集散が行はれ、宇和島市



高知縣(高知)
郡邑人口 千人
高知市 七一
浦戸の附近にはセメントの工業が行はれる

府縣名(廳所在地) 管轄國名
福岡縣(福岡市) 筑前筑後
佐賀縣(佐賀市) 肥前東半部
長崎縣(長崎市) 肥前西半部 壹岐對馬
熊本縣(熊本市) 肥後
大分縣(大分市) 豊前東半部 豊後
宮崎縣(宮崎市) 日向
鹿児島縣(鹿児島市) 大隅薩摩
沖縄縣(那覇市) 琉球

は南豫に於ける商工業の要市である。

四 高知縣の大部は山地で、海岸平野以外の都邑は少い。高知市は風景のよい吸江灣に臨み、浦戸はその門戸である。伊野は紙の集散地、須崎は天然の良港を控へ、室戸には捕鯨の根據地がある。

第七章 九州地方

通説

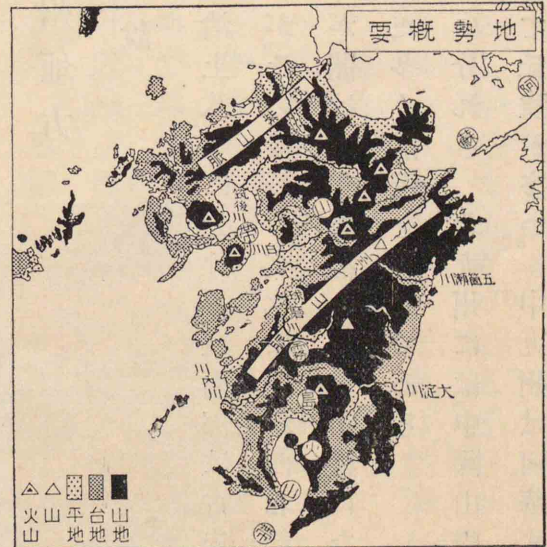
昔の西海道の地で、政治上八縣に分ける。東南部は古史に名高い地方であるが、その後長く文化に後れ、西北部は早く外國との交通が開け、近年各種の産業が盛になつて、重要な都邑が甚だ多く、活況を呈してゐる。

地形 九州島は北部中部南部に分れる。北九州には、中國山脈から續く筑紫山脈が、低く斷續して丘陵が多い。中九州は阿蘇火

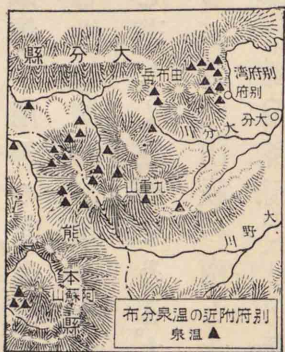
面積	約四〇〇万軒 約二八七〇万畝 約九〇八萬 (二方軒二〇六〇)
人口	
山脈・火山帯	九州山脈 一七五八 祖母山 一七二二 市房山 一七二二 阿蘇火山帯 一七六四 霧島火山帯 一七〇〇 櫻島 一一一八 開聞岳 九二四
河川(長流)	筑後川 一四一 内川 一四一 内海 一四一 大淀川 一〇六 五箇瀬川 一〇六 線野川 一〇六 綠野川 一〇六 白菊池 九八 遠賀川 六三 川 六三

山帯の通ずる處で、阿蘇山を中心として雲仙岳(温泉)由布岳九重山等を起し、大部分は火山岩に被はれてゐる。従つて温泉の湧出も甚だ多い。南九州には、四國山脈から續く九州山脈が一大連嶺をなして、祖母山市房山等の高山が多く、又霧島火山帯が、霧島山から西南に延びて、櫻島岳開聞岳等を起し、更に南方に多くの火山島を作つてゐる。

河は諸方面に分流する。西面には筑後川・球磨川・内川等の大河が流れ、その他は日向灘に注ぐ大淀川・五箇瀬川・瀬戸内海に入る大野川、日本海に注ぐ遠賀川等が主要なものである。筑後川は九州第



阿蘇山の噴煙
中岳の噴煙を示したもので、噴出せる灰砂(ヨナ)は農牧に影響することが多い



占めてゐる。玄界灘に臨む方面には、博多・唐津等の灣入があり、西北の肥前半島は、更に數多の小半島に分れて、大村灣・有明海を圍む。何れも背後地との交通が便利な爲、海岸に多くの

して名高い。海灣や島が極めて多く、海岸線の發達は五大島中の第一位を



一の長流で、その下流に豊沃な筑紫平野が開け、舟楫の便も多く、球磨川は古來急流と

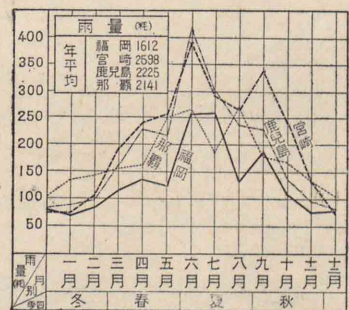
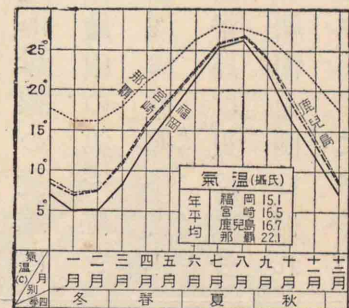
球磨川
我が國三急流の一に數へられ沿岸の風景がよ

佐世保灣・長崎灣・平戸島附近・壹岐・下關海峡等の附近對馬の大部及び大島は要塞地帯である

青島 官崎市の南方十六軒の海岸にある小島で島内には圖の如く蒲葎が繁茂してゐる



商港が發達し、又近く大陸と對する關係から、軍港が設けられてゐる。東面は國東半島が別府灣を抱へてゐる外、概ね平直であるが、南部には薩摩大隅の兩半島が出て、鹿兒島灣を擁し、その南方に薩南諸島・琉球諸島がある。

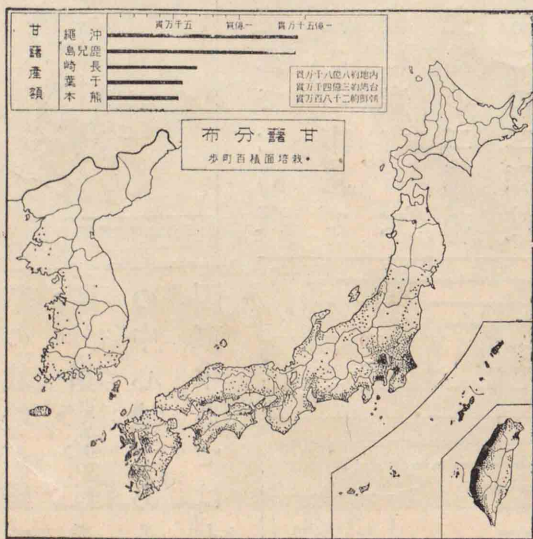
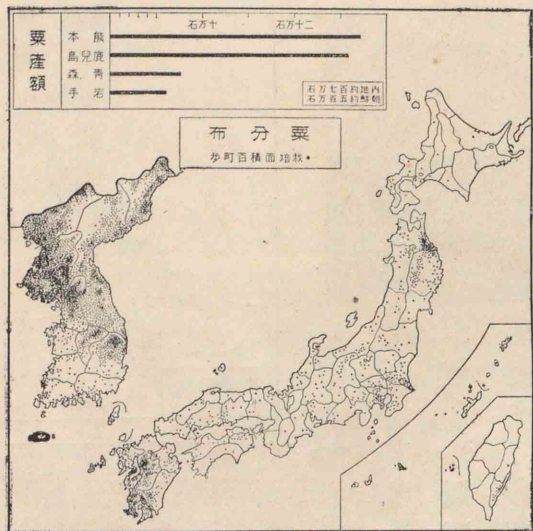


氣候 南部の諸島は、甚だ溫暖で雨量が多く、熱帶性の植物が茂り、その景觀は、内地の他の地方と著しく違つてゐる。九州島も一般に溫和であるが、九州山脈の南と北とでは大いに異なり、南部は溫暖多雨で、日向灘の沿岸には、熱帶植物

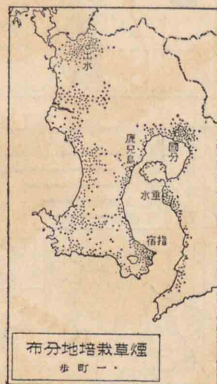
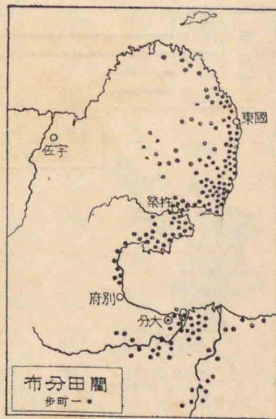
熊本縣は粟の産が内地第一である

の繁る處もあるが、中部・北部は、南部に比して寒暑の差が稍強く、雨量も多くない。

産業 筑紫熊本の兩平野は、米・麥・菜種等の産が多く、殊に福岡縣は本邦、屈指の米産地である。粟も廣く耕作せられ、鹿兒島縣では煙

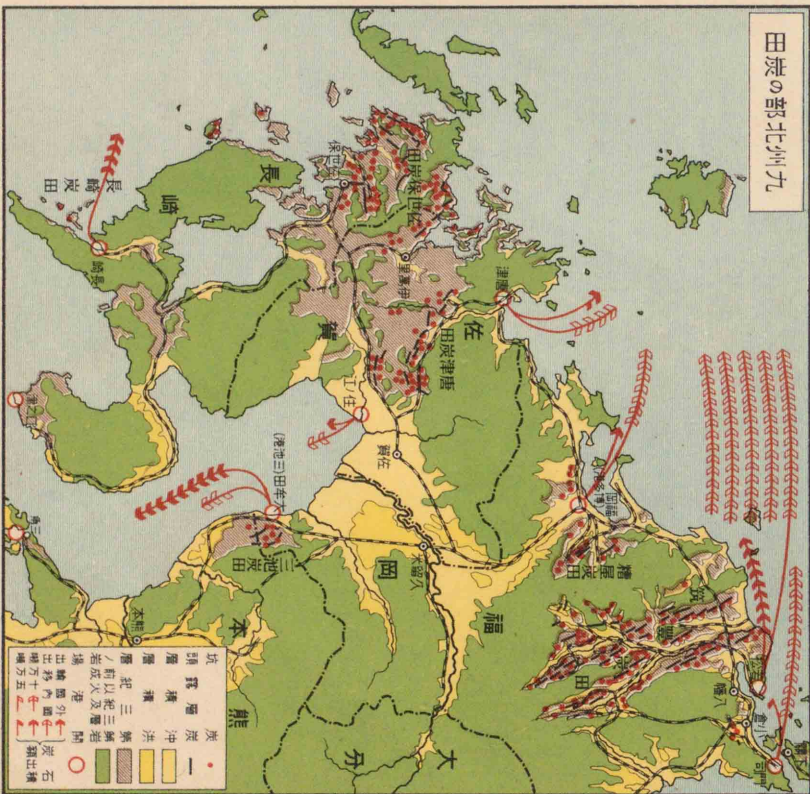
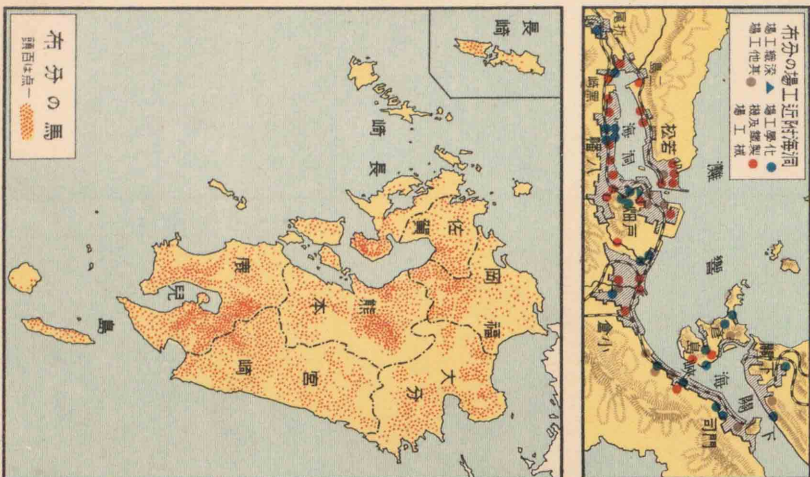
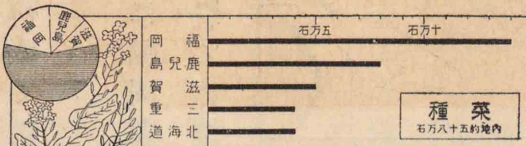
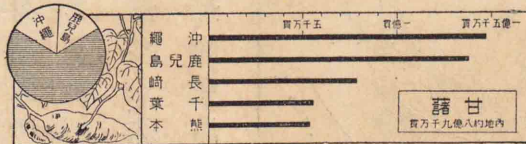


阿蘇火阿口原に於ける
放牧の光景



島蘭を植ゑて七島表
を作り、**杵築**・**分**はその市場で
ある。甘藷は一般に産するが、
中でも沖繩・鹿兒島の二縣が
殊に多く、砂糖もこの二縣は、
内地に於ける大産地である。
牧畜は、火山裾野を牧場に利
用して、中國に續く牧牛地帯
をなし、又古來馬の産に名高

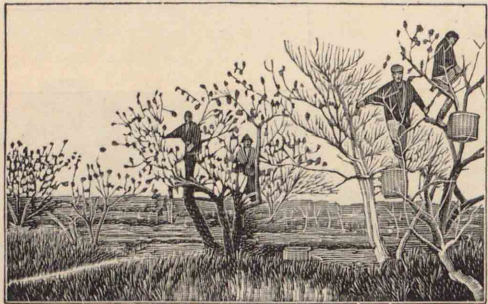
草の栽培が盛で、
國分・指宿等はそ
の中心地である。
國東半島では、七



沖繩縣は豚の頭数が内地第一である

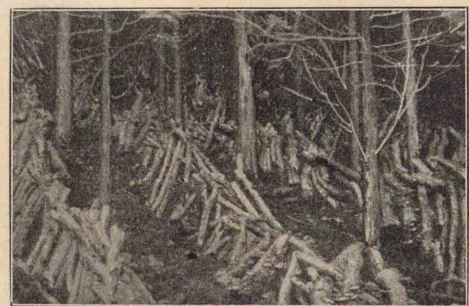
樵草を生ぜしめる爲木材を列べた光景

樵草の採集
樹に攀ちて熟した實を採つてゆる光景この實を採つて蠟を採るのである



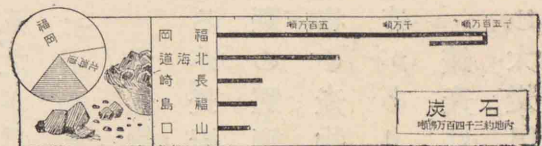
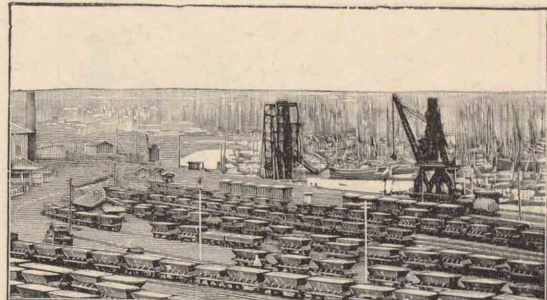
く、鹿兒島・熊本の二縣はその主産地で、沖繩縣では多く豚を飼つてゐる。

森林は東南部に多く、木材・薪炭等の外に、樟腦シヤウノウ・椎茸等の副産物を出し、福岡縣では木蠟採取の料として、樅樹を植ゑ、之が爲に、晩秋には燃ゆるが如き美觀を呈する。



水産物は一般に豊富であるが、長崎縣の柔魚・鯖、鹿兒島縣の鰹・鮪等は、漁獲が殊に多く、鰹と鰹節とは屈指の産物である。又西部の海上には紅珊瑚の特産があり、有明海には貝類の養殖が行はれる。鑛産は石炭が第一で、福岡縣には筑豊・三池等の大炭田があり、唐津（佐賀）及び長崎炭田の採炭も

圖 若松港の石炭積出



方の沿海に大工業地帯を發達せしめた。その他、**串木野**、**芹野**（以上鹿嶋）、**鯛生**、**馬上**（以上大分）等の**金・槇峯**（宮崎）の銅等も亦名高く、**谷山**（鹿兒島）には古より名高い錫山があるが、産額は少い。

亦多く、此等の産炭量は、全國の七割を占める。従つて鑛業市、工業市及び積出港として發達した處が多く、十三市（全八市）**九開港場**（開港場に十）が西北の三分の一區に集つて、其等は直接間接に石炭の影響を受け、てゐる。筑豊炭田は區域が最も廣く、この地

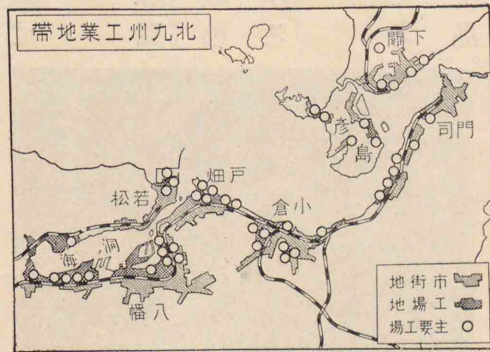
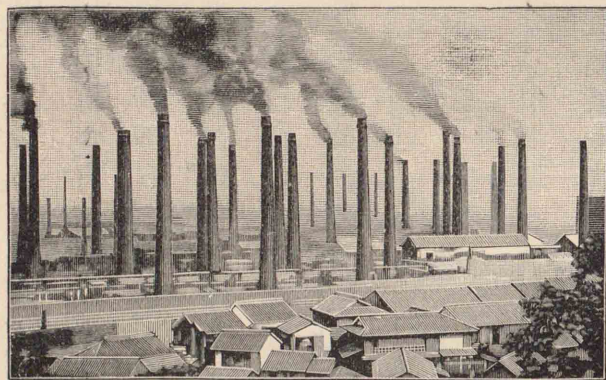
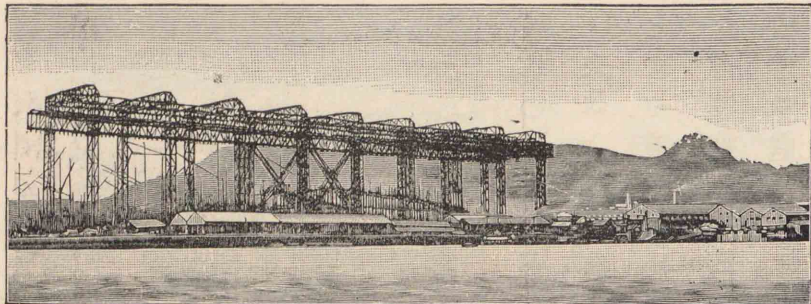
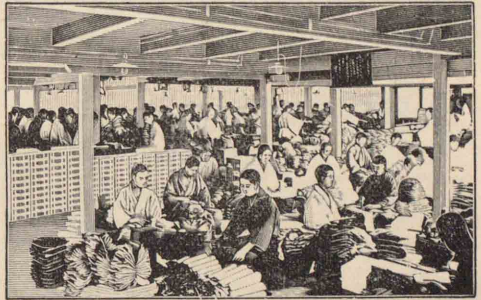


圖 三菱造船所
設備がよく整ひ東洋屈指の工場。圖はそのガントリークレーンを示したものである。



北部は石炭の産が多く、且交通も便利な爲、製鐵、造船、製糖、製紙等の工業が盛に起り、**門司**、**小倉**、**戸畑**、**若松**、**八幡**の諸市を連ねる一帯には、**八幡**の製鐵所を始め、多數の大工場が並び、市街が殆ど連続して、所謂**北九州工業地帯**をなし、**長崎**、**佐世保**等には造船業が行はれる。織物には**久留米**、**緋田**、**博多**、**薩摩**、**緋田**、**大島**、**琉球**、**上布**等の、夙に名を知られたものが多く、近年**久留米**、**小倉**の諸市

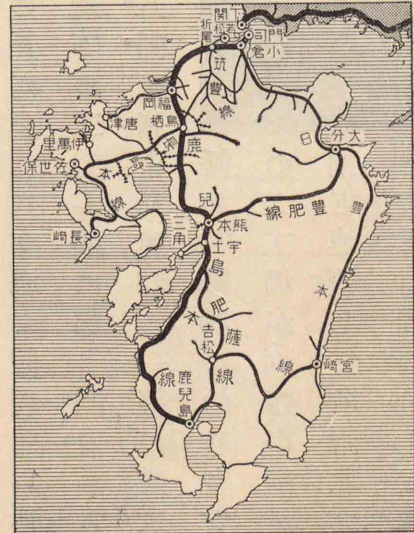
圖 足袋製造
久留米市に於ける足袋工場の一部を示す



には、足袋の製造が盛になつた。陶磁器も處々から出るが、有田(賀佐)は産額が殊に多く、醸造は福岡縣の清酒が名高い。商業は福岡及び熊本・鹿兒島等を中心として盛に行はれる。貿易は門司・長崎を二大中心とし、その他若松・博多・三池(福岡)・唐津・住江(佐賀)・口之津(長崎)・三角(熊本)・鹿兒島(鹿兒島)・那覇(沖縄)等がある。

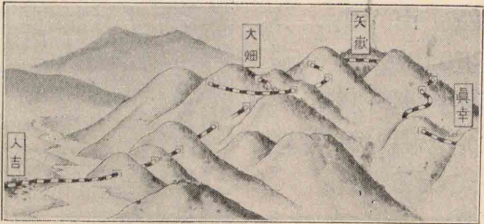
- 1 門司・鹿兒島間
- 2 若松・上山田間
- 3 鳥栖・長崎間
- 4 八代・鹿兒島間
- 5 小倉・吉松間
- 6 熊本・大分間

交通 鐵道は鹿兒島線を幹線として、筑豊線・長崎線・肥薩線等が之と連絡し、肥薩線の九州山脈を横ぎる處は、ループ線になつてゐる。



北部に於ける鐵道網の發達は關東・畿内の兩平野に次いでゐる

圖 矢岳のループ線

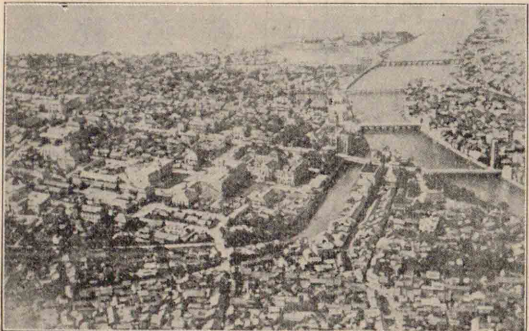


る。日豊線は東部の海岸を走つて、本島一周線の一部をなし、豊肥線は中部を横斷してゐる。海運は長崎・門司を中心として、内外の要港と通じ、長崎からは支那シベリヤ等へ海底電線を通ずる。大陸への航空輸送も近年開始された。

處 誌

福岡縣の要部は、洞海四近(トウカイシウジン)

筑豊炭田地方・福岡平野・筑紫平野(東南)に分れる。門司市は九州の北門に當り、八幡市・戸畑市・若松市等と共に、新興の都市である。この邊の一帶は、近年各種の工業が著しく發達して、大工場が多く、城下町として開けた小倉市も、



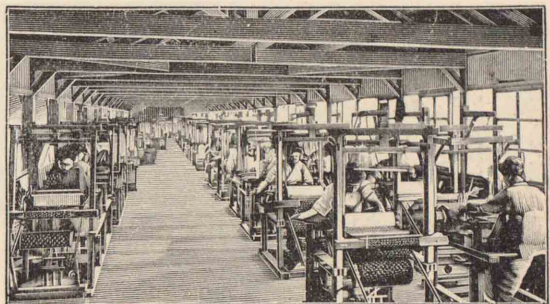
福岡縣(福岡)

福岡市	一、九一
門司市	一、二八
八幡市	一、二八
大牟田市	八、八五
小倉市	七、二二
若松市	五、〇〇
戸畑市	四、三〇
直方市	四、三五
飯塚市	三、三三
宮田町	三、三三
後藤町	二、二九
伊藤町	二、二六

福岡市 中央を流れるは那珂川

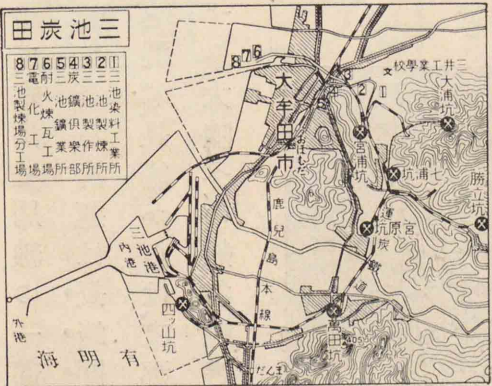
久留米に第十二師團司令部がある

福岡に九州帝國大學がある



名産がある。この近傍に宮崎、香椎、宮等があり、稍離れて太宰府の址がある。久留米市は木綿、絹、足袋等を出し、大牟田市は各種の工業が次第に盛となり、三池港は三池産

之が爲に一層の繁華を加へた。筑豊炭田地方には、遠賀川を挟んで大小無数の炭坑が群集し、その石炭は樹枝状の鐵道と、遠賀川の水運とによつて、門司、若松等から盛に積出される。直方、飯塚等は、炭田地方に發達した要市である。福岡市は西部學藝の中心地、海、中道に圍まれた博多灣に臨む市の一部である。博多には、博多織の名産がある。



佐賀縣(佐賀) 郡邑人口 千人 佐賀市 四二

有田焼の工場 有田町にある香蘭社工場の一部を示したもの

唐津の西北に名護屋の史蹟がある

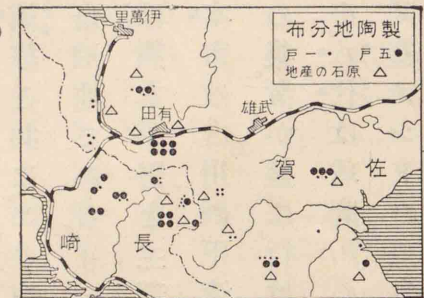
石炭の積込み 長崎港に於ける光景で石炭を入れた籠を次から次に手渡してゐる

長崎縣(長崎) 郡邑人口 千人 長崎市 一八九 佐世保市 一一一

長崎に醫科大學がある

炭の積出地である。

佐賀縣は、筑紫平野(西)と唐津炭田地方とを要部とする。佐賀市は平野の中心に位し、米の集散が多く、西方に



武雄の温泉場がある。唐津は唐津炭田の門戸で、附近に虹松原の勝地がある。有田は陶器の産が多く、伊萬里へ鐵道を通ずる。長崎縣は半島と島嶼とに分れる。長崎市は古い開港場で、鎖國時代にも支那、オランダとの通商が行はれてゐたから、今も異國情

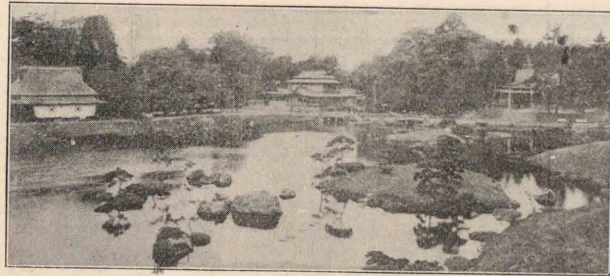
佐世保に第三海軍
區鎮守府もある

雲仙公園
近景の建物はホテルそ
の他で中景の白い處は
硫黄華等の積つてある
地獄帯である

水前寺の一部
藩祖を祀つた出水神社
の神苑で風景の美は九
州第一といはれる

熊本縣(熊本)
都邑人口 千人
熊本市 一四八
水俣町 二四

熊本に第六師團司
令部・醫科大學が
ある



調が濃である。石炭の積出が多く又商工業が盛
に行はれる。佐世保市は近く大陸と對し、重要な
軍港で、島原半島の雲仙岳は、温泉保養地として
名高い。(2) 五島列島の福江は、漁
業の一中心で、平戸島の平戸は、
古の通商地である。對馬の嚴原
は、壹岐の郷浦等と共に、この地
方の主要な舟泊地である。

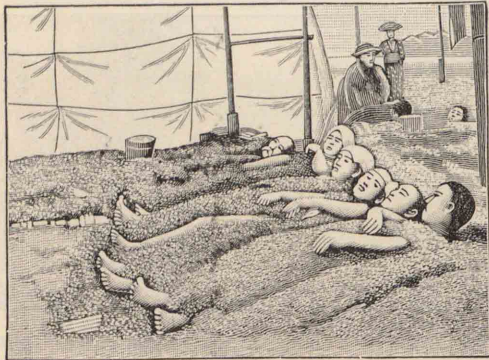


熊本市は白川の下流に跨り、中部九州の
が多い。(1) 熊本市は白川の下流に跨り、中部九州の
大都會で、米穀の集散が盛に行はれ、又風致に名高い
水前寺がある。八代は球磨川の河口に位し、木材の
集散が多く、又セメントの工場がある。天草諸島か

大分縣(大分)
都邑人口 千人
別府市 五三
中津市 三三八
津市 二七

別府の砂湯
干潮の際海岸の白砂を
掘つて身をその中に埋
めると温水が湧出して
快氣を覚える

宮崎縣(宮崎)
都邑人口 千人
宮崎市 四三
小城市 三〇
林町 二五



らは無煙炭や陶土を出す。(2) 阿蘇山の火口原はよく開けて、農業牧
場に利用せられ、聚落も少くない。

大分縣の平野は、國東半島によつて二つに分れ、豊後水道は標
式的のリアス式海岸をなしてゐる。(1) 山國川の口に臨む中津市は、
紡績業が發達し、この上流の耶馬溪は、勝地として名高く、宇佐には

宇佐神宮がある。別府市は名高い温泉都市で、
附近に温泉の湧き出る處が多く、大分市は近
年商工業が著しく盛となつた。(2) 豊後水道の
沿岸には、佐賀關、白杵、佐伯等の錨地があり、佐
賀關には壯大な製鍊所がある。

宮崎縣は日向平野を要部とし、他は山勝
ちである。(1) 平野には延岡、高鍋等の小城下町、
舟泊地の細島、政治上の中心として發達した



耶馬溪

高きつ奇岩、玉躍すら流奔、眞自然の妙極め、圖は犬走り奇勝



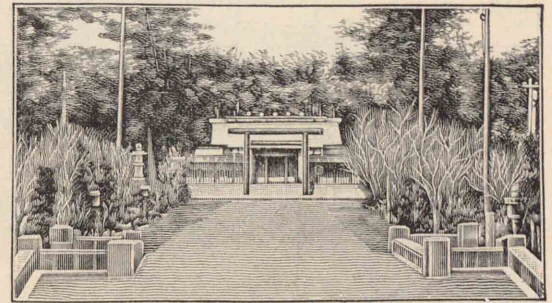
鹿兒島の海岸

附近の特産、鹿島大根が海岸に積みあてられる

宮崎神宮
高千穂宮址に於て神武天皇を奉祀してある

鹿兒島縣(鹿兒島) 郡邑人口 千人
鹿兒島市 一三五
川内町 一三〇
枕崎町 二二七
阿久根町 二二一

鹿兒島港
市の西方城山の高地から見た處で前方の山は櫻島である



宮崎市がある。この邊は古く神代に開けた處で、高鍋の附近(西都)には、無数の古墳があり、宮崎には宮崎神宮がある。(2) 都城市は盆地の中地心で、附近から茶を産し、小林には製材が行はれる。

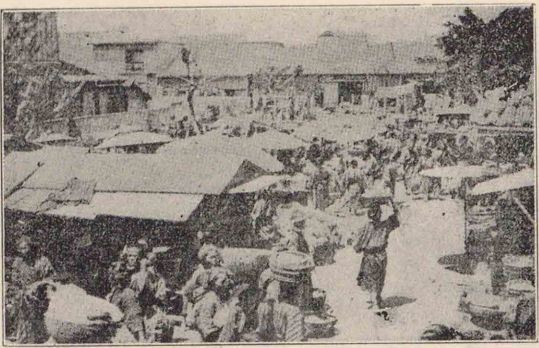
鹿兒島縣は鹿兒島灣によりて、薩摩大隅の兩半島に分れ、海上に薩南諸島がある。(1) 鹿兒島市は前面に櫻島を望み、風景の好い港市で、薩摩焼、錫器等の産がある。櫻島は近年噴火したので、名高く、大根の名産を出す。(2) 薩南諸島の近海は漁利が多い。種子島は



屋久島

▲沖繩縣(那覇)
 那覇市 千五百
 首里市 二二
 平良町 三三

先島は臺灣と共に
 西部標準時を用ひ
 る
 那覇の市場
 今でも日用品は多く市
 場て需給される



鐵砲傳來の爲に名高く、屋久島は杉の良材を出す。大島は大島紬の名産地で、又鯉節粗糖の産出が多く、名瀬はその主邑である。

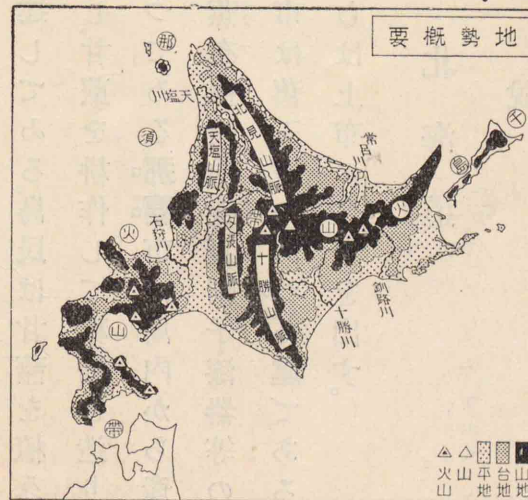
▲沖繩縣は沖繩諸島と先島諸島とから成り、先島諸島は宮古・八重山の二諸島に分れる。氣候が温暖で熱帯性の植物が茂り、海岸には珊瑚礁が發達してゐる。島民は甘藷を植ゑて之を常食とし、甘蔗を耕作して粗糖を造り、又盛に豚を飼つてゐる。那覇市は島内から産する琉球緋芭蕉布粗糖泡盛夏帽子漆器等の集散地で、首里市は舊王城のあつた處である。八重山諸島からは上布の名産を出す。

第八章 北海道
 通説
 島ニニエタル所ヲオボル

面積	約六三〇万方 約五七二四万方 約二五〇萬 (二方村二六八)
人口	約二五〇萬 (二方村二六八)
山脈・火山帯	北見山脈 日高山脈 天鹽山脈 夕張山脈 石狩連山脈 千島火山帯 大雪山(旭岳)米 十勝岳 二二九〇 雄阿寒岳 二〇七七 雌阿寒岳 一五〇三 那須火山帯 マツカリ岳 駒岳 一八九三 檜前岳 一四四〇 有珠岳 七二五 恵山 六〇二
石狩平野は平坦であるが、十勝平野には多少の高地がある。	

北海道本島と千島諸島とを含み、その東北端は、千島海峡を隔て、シベリヤのカムチャッカ半島と對してゐる。近年開拓が大いに進んで、産物が著しく増加した。

地形 略、菱形の胴部と、半島部とから成る。(1) 胴部には北見・天鹽・日高・夕張等の山脈が、殆ど南北に並走して、蝦夷山系を作り、その間に名寄・上川・富良野等を連ねる一條の盆地帯がある。千島火山帯は、本島最高の大雪山(旭岳)を始め、十勝・雌阿寒・雄阿寒等の諸山を起して之と交るから、中央部は土地が高く、その四斜面に、石狩・十勝・釧路・北見・天鹽等の廣い平野がある。(2) 半島部には那須火山帯に屬するマツカリ



湖	石狩川 三六五 天鹽川 三〇六 釧路川 一九六 十勝川 一三六 風連湖 一三六 洞爺湖 一〇七 網走湖 四一〇 支笏湖 四〇一
河川	石狩川 三六五 天鹽川 三〇六 釧路川 一九六 十勝川 一三六 風連湖 一三六 洞爺湖 一〇七 網走湖 四一〇 支笏湖 四〇一
流	石狩川が上川盆地から石狩平野に出る處で兩岸が迫つて奇岩が多く藍碧の淵をなしてゐる
神居古潭の溪	

岳有珠岳駒岳等の火山が處々に聳え、洞爺支笏等の湖水も多く、又温泉も湧いて、景色の勝れた處が少くない。

平野には大河が多く、殊に石狩川は屈指の長流で、上川盆地を出る處に、神居古潭の峽流を作り、多くの半月湖を殘して、石狩平野を流れ、舟楫灌漑の便が多い。



他天鹽川・十勝川・釧路川等は、何れも主要なものである。

内浦灣は沿岸に火山が多いから一に噴火灣ともいはれる

函館灣附近は要塞地帯である

根室灣の流水 毎年三四月になると氷塊が分離して流れる人が乗つてゐる白塊はそれである

上川地方は嘗て氷點下四十一度に達したことがあり内地に於ける温度の最低記録である

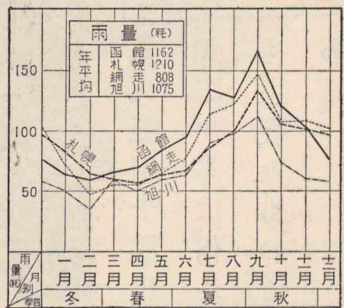
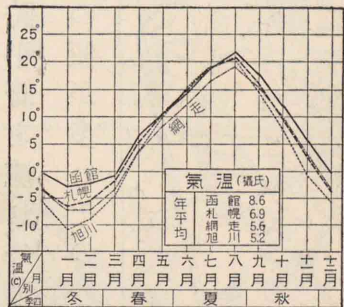
海岸線は概ね單調であるが、主軸山脈の南北兩端は襟裳岬・宗谷岬となり、東方には知床・花咲の兩半島があり、西部に



南部に渡島

半島が出て、内浦灣を抱き、又オホーツク海の沿岸には猿澗湖・網走湖等の潟が多い。

氣候 一般に氣温が低く、雨量も少い。殊に太平洋面は、海流の影響で、日本海面よりも一層寒く、夏季に濃霧が多い。日本海岸は冬季に雪が深く積つて、交通を妨げ、オホーツク海岸は、海面が凍結して、舟行の杜絶する處がある。



農業の光景 トラクターを用ひて耕耘してゐる

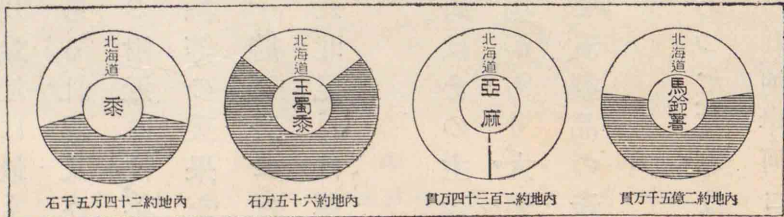
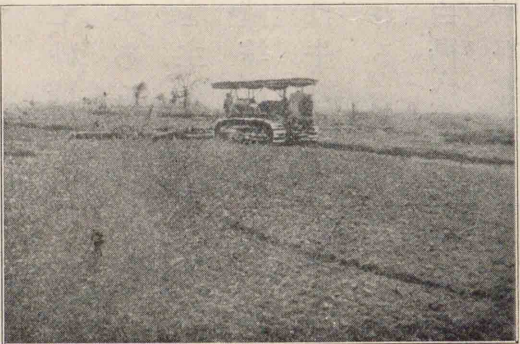
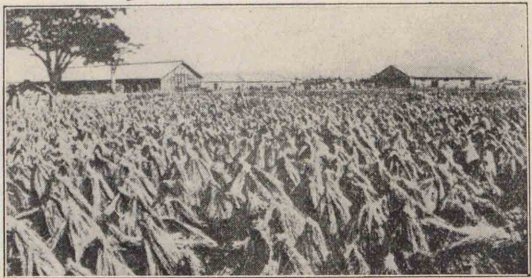
亞麻の乾燥 採取した亞麻を束に立て、乾燥する

内部は冬の寒氣が最も烈しいが、夏の温度は割合に高いから、植物は能く生育する。

産業 拓殖の進歩と共に、農業が大いに

發達し、機械や家畜を用ひる大規模の農法が行

はれ、米麥類(主燕麥小豆類馬鈴薯玉蜀黍菜種亞麻蔬菜(葱等)等の産が多い。米作は最初半島部に限られたが、次第に作付面積を増し、今

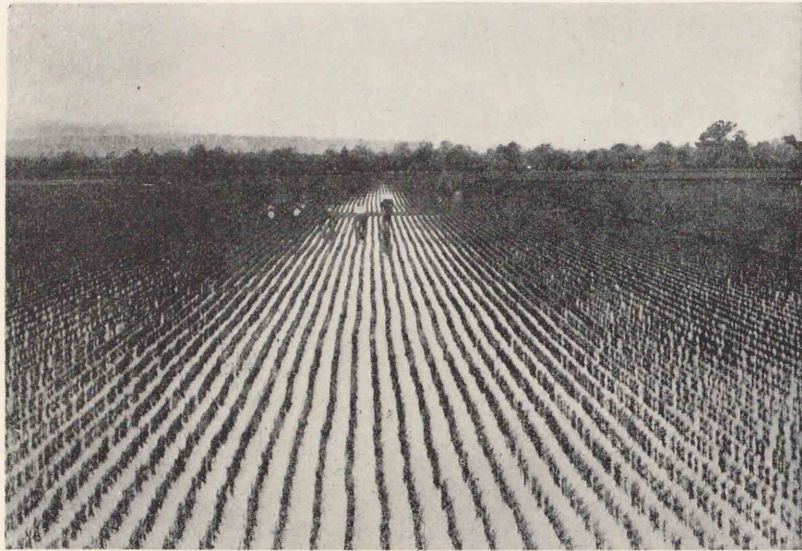


北海道 黍 石千五万四二約地内

北海道 玉蜀黍 石万五十六約地内

北海道 亞麻 貫万四十三二約地内

北海道 馬鈴薯 貫万千五二約地内



田水の道海北

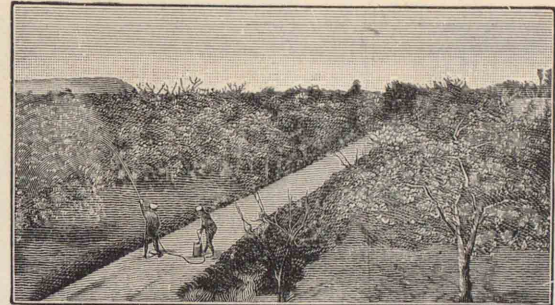
るゐてつ取を草雑で器草除が夫農に中の田水たしに植條正



搬運の材木

く行てせか曳に馬てせ載を材木に樞を上雪たつ積り降

主産地は余市郡で札幌
空知等の地方からも出
る園は著島麻除の爲業
を注いでゐる



毛は馬市で名高い。札幌附近には牛の牧養も頗る盛で、乳製品の産
額が多く、綿羊の飼養も試みられる。
山地には蝦夷松、榎松、落葉松、白楊、栓等の天然林があつて、其等は
盛に建築用材、鐵道枕木、バルブ原料等として伐採せられ、河岸、河口

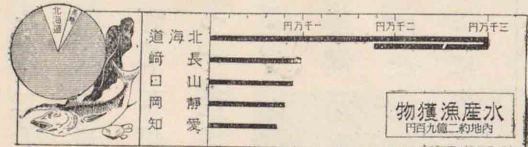
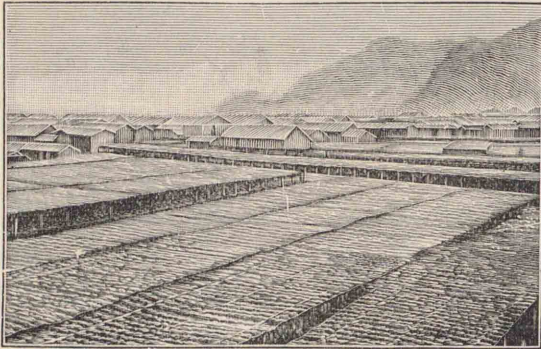
甜菜を植ゑて、砂糖の製造が行はれ、北見には薄
荷油の特産がある。
牧畜は馬を主とし、南斜面の原野はその主産
地で、新冠、白糠等には大規模の牧場があり、大樂

は上川盆地に最も
盛である。札幌及び
余市の附近には、苹
果、櫻桃等の美果を
出し、十勝平野には

集積 江別川の木材

江別川は石狩川の支流で水面が見えない程多くの木材が集まつてゐる

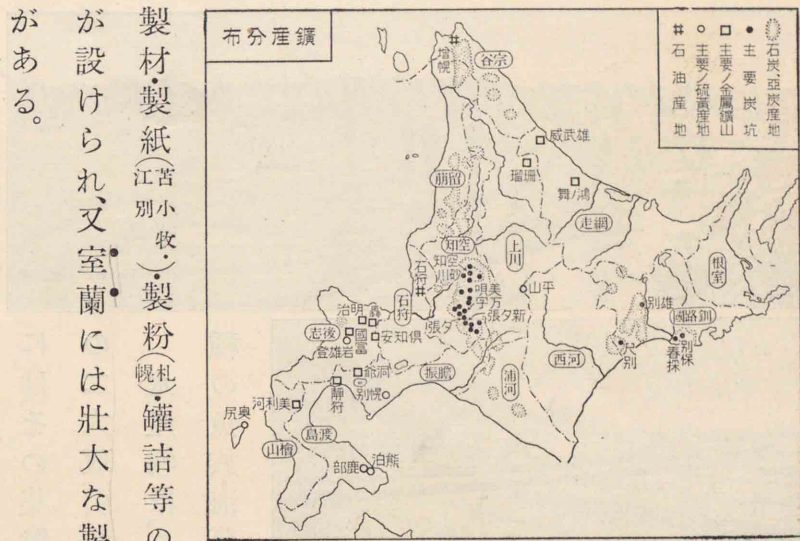
生鱈の鱗を去り開を出して二三日乾し更に三枚に下して二十日許り圖の如き棚で乾して作る



には、その集散地製材地が多く、小樽・釧路は木材の二大取引地である。

水産物は、この地を開発せしめた原動力で、各種の魚族・海藻に富み、沿岸到る處に漁港が發達してゐる。中でも

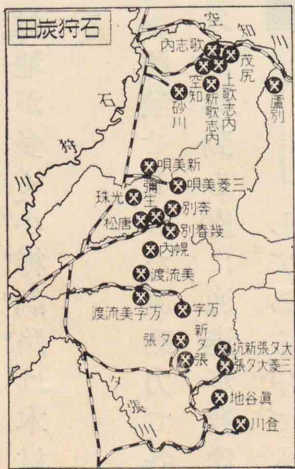
鯨・鱈・鮭・鱒・柔魚・帆立貝・昆布等は、最も主要なもので、その儘冷凍して移出する外、乾物・鹽漬・罐詰・燻製等として海外へも輸出し、函館と小



製材・製紙(江別・小樽)・製粉(札幌)・罐詰等の工場が設けられ、又室蘭には壯大な製鐵所がある。

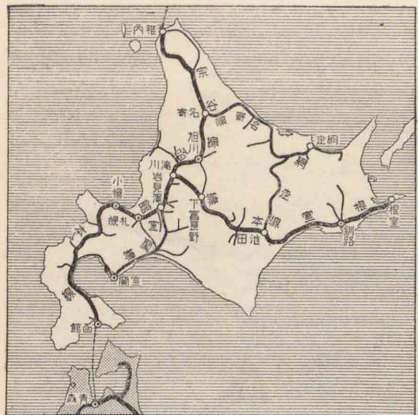
樽とはその二大集散地である。鑛産には石炭・硫黄・金・滿俺等がある。中でも石炭は、廣大な石狩炭田があつて、産額は九州に次ぎ、その積出港たる室蘭・小樽には、石炭棧橋の設備がある。

工業は農産林産等の加工を主とし、處々に麥酒(札幌)・酒精(旭川)等の醸



- 1 函館・旭川間
- 2 旭川・稚内間
- 3 瀧川・根室間
- 4 室蘭・岩見澤間
- 5 池田・網走間
- 6 名寄・野付牛間

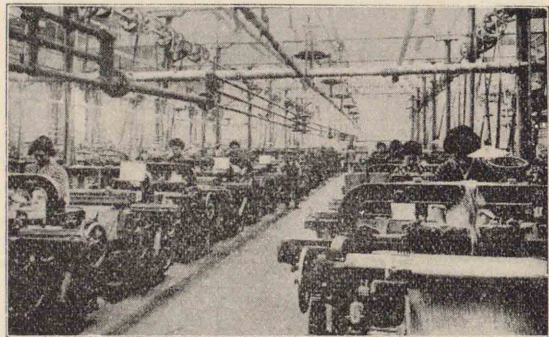
製麻工場
札幌にある帝國製麻會社の工場で麻製織の光景



原料品の産出が多いから、商業も次第に發達し、小樽・函館は内外取引の大中心で、この他室蘭・釧路・根室等の開港場がある。

交通 開拓の進むにつれ、鐵道も近年大いに發達し、函館線・宗谷線・根室線は、相連つて縦横の幹線となり、その他室蘭線・網走線・名寄線等の重要な線路が多い。汽船は、本州及び樺太との間に鐵道連絡船があり、又函館・小樽を中心として、遠近の要港と通じてゐるが、東部は氷結の爲に、航行の絶えることがある。

住民政治 住民の大部分は、他府縣か



支廳 アイヌ人とその住居
 男子の着てゐるのはアツシで女子の口邊に懸した襦も見える家屋は萱葺の掘立小屋である
 成年に達した女子は口邊に懸する習慣であつたが今は廳令によつて之を禁じた



らの移住民で、近年大いにその數を増したが、人口は尙極めて疎である。本島の土人をアイヌといひ、嘗ては本州までも擴つてゐたが、次第にその數を減じ、今は僅に一萬五六千人を残すに過ぎない。沙流川の流域から、内浦灣の附近に最も多く住み、平取にはその大部落がある。この地は北海道廳の下に十四の支廳

を設けて治めてゐるが、政治の實際は、殆ど他の府縣と變らない。

處誌

■ 半島部は最も早く開けた處である。函館市は、本州と連絡の衝に當り、内外商業の要地である。市内の五稜廓は、維新の戦史に名高

主要都邑 人口千人

札幌市	一四〇
函館市	一六四
旭川市	七二
室蘭市	五〇
釧路市	四二
夕張市	四九
岩見沢市	三三
網走市	二五

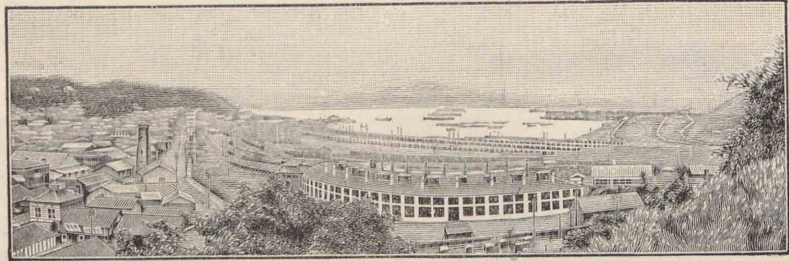
野付半町
 砂尻町
 帯廣町

室蘭港(上)
 海中に棚のやうに見えるのは石炭積み込みの高架橋である

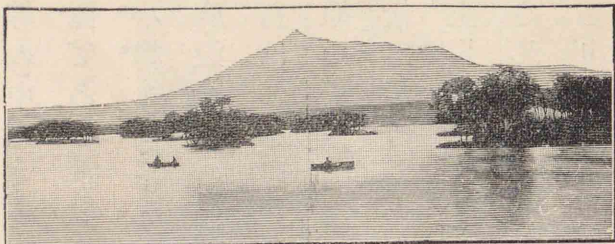
室蘭の製鋼會社は日英兩國人の共同經營である

函館港(中)
 北海の大門口で圖の右側の中央が連絡船棧橋

大沼公園(下)
 湖水の南岸から眺めた光景で前に峙つ駒岳は最近にも活動した



く、その外濠は製氷に利用される。駒岳の麓にある大沼公園は、勝景の爲に名高く、倶知安は農業地の一中心である。小樽市・室蘭市はこの地區にあるが、共に石狩平野の門戸として發達した港で、近く炭田を控へ、工業も盛である。



■ 胴部は石狩平野を要部とし、その他中央の山

札幌に北海道帝國大學がある

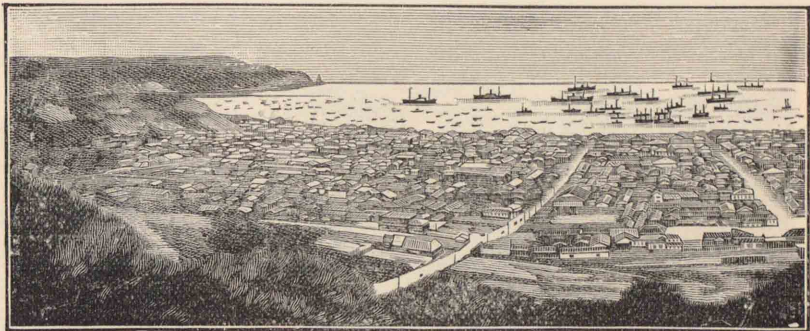
【圖】小樽港(上)

市の背後から港内を展望した光景で左方に高架橋の一部が見える

【圖】札幌の市街(下)

市街の一部を望樓から見た光景で整然たる有様が察せられる

旭川は本邦の最寒地の一であるが夏は気温が頗る高い



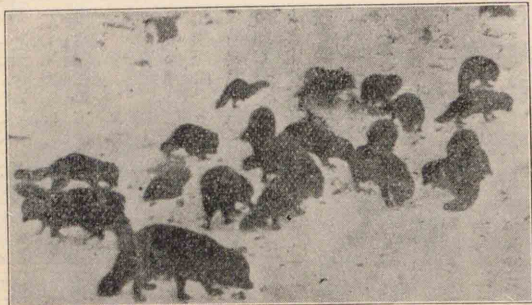
旭川市は、交通の要地に當り、商工業が盛

地及び盆地帯と、四周の斜面とに分れる。石狩平野の札幌市は、豊平川に沿ひ、政治學藝等の中心で、街區が頗る壯麗である。本道第一の商港小樽を門戸として、麥酒製麻製粉等の農産加工業が行はれる。岩見澤は鐵道交通の要地で、附近に多くの炭田があり、苦小

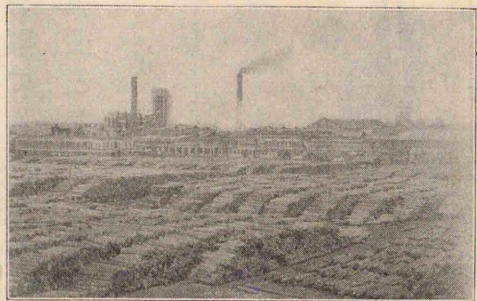
【圖】製紙工場
苫小牧にある王子製紙會社の工場で、近景に山積した材木は、總て製紙原料である

根室に近い西別川は、鮭鱒の養殖で名高い

【圖】狐の放牧
放牧してある青狐に餌を與へた處



である。十勝平野の帯廣池田は、共に農業の中心として興つた新市街で、釧路平野の釧路市は、海産物木材の取引が多く、厚岸の灣内には、牡蠣の養殖が行はれる。根室は罐詰の産が多く、冬は海面が凍るから、花咲を補助港としてある。網走はオホ



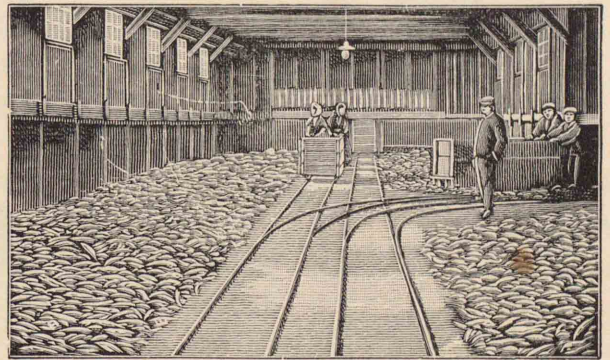
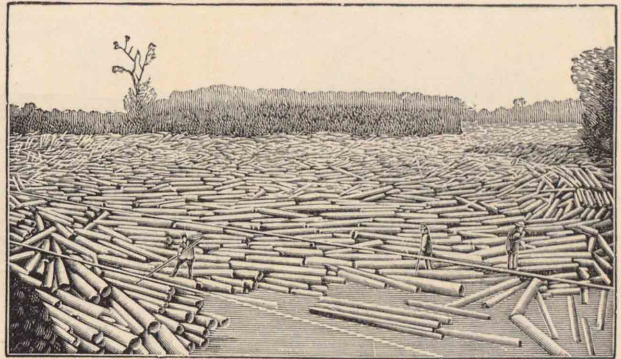
1ツク海岸の港市で、内部の野付牛と共に、地方の要地である。日本海斜面の稚内は、樺太との連絡の要地で、留萌増毛は共に主要の港である。

千島は三十餘の島々から成り、國後島擇捉島がその中の大きなものである。土地は耕作に適しないが、近海は水産が頗る多く、又近年養狐

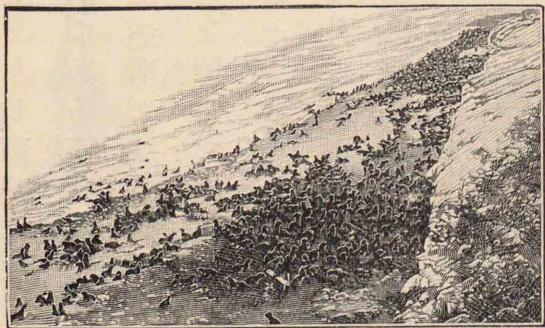
圖 樺皮原料の輸送
凍結した河中へ伐材を搬出した光景

圖 鯨の蓄積
鯨製油場の一部で手押車で鯨を運搬してゐる

圖 海豹島の鯨豚群
國際條約で海上捕獲を禁止してからその数が著しく殖え多数の鯨豚が海岸に游泳してゐる



の平野には、燕麥・馬鈴薯・野菜等の農業も稍行はれ、北部には狐貂等の毛皮獸が多く、海豹島には鯨豚群が群棲してゐる。石炭の埋藏も多

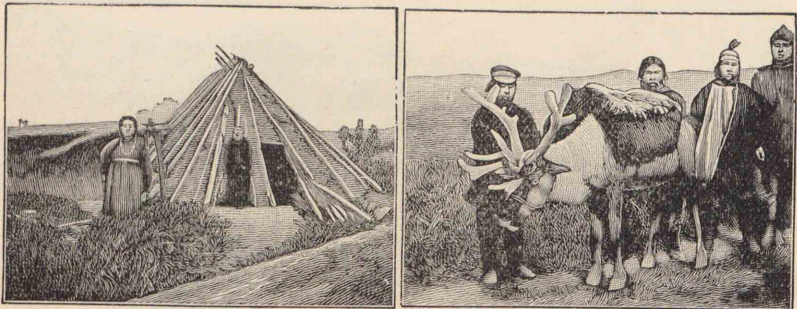


り、木材・パルプ等の産が多く、人口の多い町は、概ね製材製紙工場の所在地である。南部

圖 ギリヤク人
髪は辮髪とし魚皮・海豹皮で造つた靴をはいてゐる中央にゐるのは馴鹿である

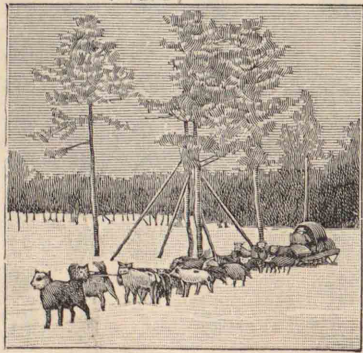
圖 オロチン人
圖に見る如き居所を構へ永久的の家屋を造らない。屋根は樹皮・獸皮等を用ひたものと布を用ひたものがある

圖 犬橋の光景
雪中數匹の犬に橋を引かせて行く光景で先頭の犬が案内者として衆犬を指揮しながら行くのである



いやうであるが、その採掘はまだ盛でない。水産業は製材・製紙に次ぐ主要な産業で、夏季は到る處の沿岸で、漁業が盛に行はれ、鯨・鱒・鮭・鱈・蟹等の漁獲が甚だ多く、昆布の採取も亦盛で、漁港が各地に散在してゐる。工業は前記の林産水産の加工の外、殆ど見るべきものはなく、従つて商業も未だ盛とならず、大泊・眞岡は開港であるが、商況は振はない。

住民政治 本島には、古くからアイヌ・オロチン・ギリヤク等の民族が住んでゐるが、その数は少く、大部分は内地からの移住民で、



大泊・榮濱間及び本斗・野田間等に廳營の鐵道を通じ落合・知取間に樺太鐵道を通じた

支廳
豐原・大泊・元泊
敷香・泊居・眞岡・本斗

主要都邑 人口(千人)
大泊 二二六
豐原 二二五

圖 豐原と眞岡
上圖は眞岡の海岸を示し、下圖は豐原の市街を示したものである



人口は極めて疎である。殊に北半の大部は、森林又は土人の遊牧地で、鐵道は南部と、東西兩海岸の一部とに、開通したに過ぎないから、冬は多く樺を利用してゐる。政治は樺太廳の下に、七支廳を置いて治めてゐる。

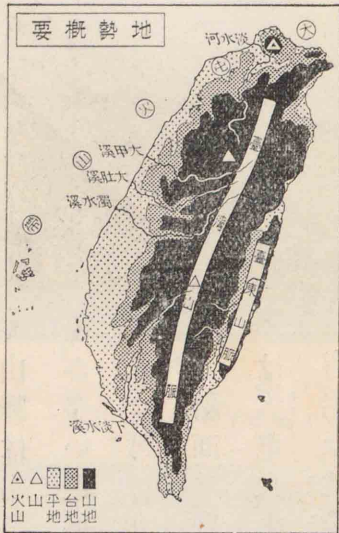
ハルゴ

處誌 亞庭灣に臨む大泊は、交通の要地に當り、水産・林産の集散が多く、豐原は樺太廳の所在地で、附近の平野は開拓が稍進み、西岸の眞岡は、本斗と共に不凍港で、漁業の大中心をなし、その發達が著しい。

面積 約三六〇〇〇平方里 (約一一三〇〇方里)

人口 約三九九萬人 (二方里一二人)

山脈・火山帶
臺灣山脈 米
新高山 三九五〇
次高山 三九三一
大屯火山帶
大屯山 一〇四五



北樺太 面積は南樺太と略等しい。氣候が一層寒く、人口の密度は極めて小である。近年我が國で一時占領した處で、アレキサンドロフスク等には、我が邦人も行つてゐる。海には水産が豊で、陸には森林・毛皮獸の外、鑛物の埋藏が多く、ドウエの石炭、オハの石油は、我が國で採掘權を得、已に事業を始めてゐる。

第十章 臺灣

通説

明治二十七八年戰役の結果、我が國の領土となつた處で、我が國の最南に位し、西は臺灣海峽を隔て、支那と向ひ、南はパシフィック海峽を挟んで米國領のフィリピン諸島に對してゐる。
地形 中央に廣い山地があつて、東西の兩斜面に分ける。臺灣⁽¹⁾



山 高 新

るゐてし瞰下を峯群の多數で山主高新が峰尖つ峙に部中



岸 東 の 灣 臺

るえ見にうやの絲く白が路通の條一に腹中の崖斷く續に里數

圖 淡水河
群 遙に見えるは大屯大山

濁水溪	淡水溪	大甲溪	大肚溪	秀姑巒溪	卑南大潭	日月潭
一六五	一五〇	一三〇	一一八	一一二	一八九	一八四
一六	一五	一〇	〇八	〇二	〇九	〇五
軒	軒	軒	軒	軒	軒	軒

日月潭には大發電所の工事が進められてゐる



山脈は、山勢が峻峻で、新高山、次高山等の高山が多い。東部は狭い臺東平野を隔て、臺東山脈に對し、或は急傾斜を以て、直に海に迫る。

(2) 西斜面は、廣い臺灣平野であるが、その北部には、大屯火山帯に屬する大屯山が聳え、山麓に有名な北投温泉がある。臺灣平野には、大河が多く流れてゐるが、屢、洪水を起し、下流に砂磧地を作るものが多く、淡水河、下淡水溪の外には、舟楫の便は殆どない。然し上流は發電に利用される。濁水溪の上流にある日月潭は、風景がよいので名高い。

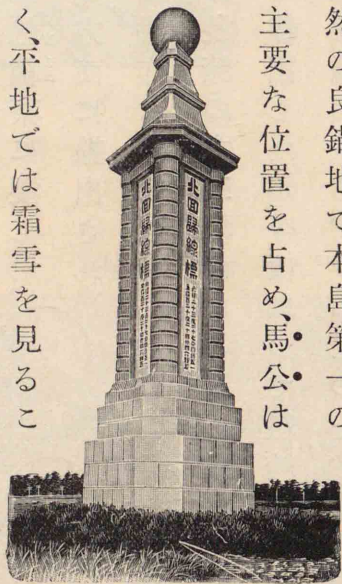
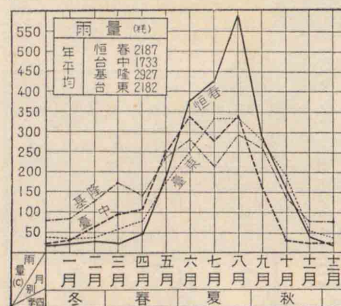
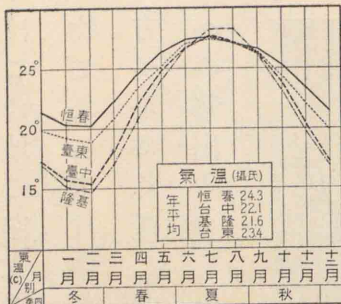
(3) 東斜面の河は、卑南大溪を始め、概ね急流で、平地も亦少い。海岸は極めて單調である。西海岸は低平な砂濱で、砂嘴や瀉が處處に發達し、東海岸は山地が海に迫つて、絶壁をなす處が多く、共に

屬島は澎湖諸島の
外に琉球嶼・紅頭
嶼・火烧嶼等があ
る
基隆灣附近及び澎
湖島は要塞地帯で
ある
圖 北回歸線標
嘉義驛と水上驛との中
間で鐵道線路の近傍に
ある

良港に乏しい。北部の基隆は、天然の良錨地で、本島第一の
商港となり、澎湖諸島は國防上主要な位置を占め、馬公は
海軍要港となつてゐる。

氣候 北回歸線が略中央を

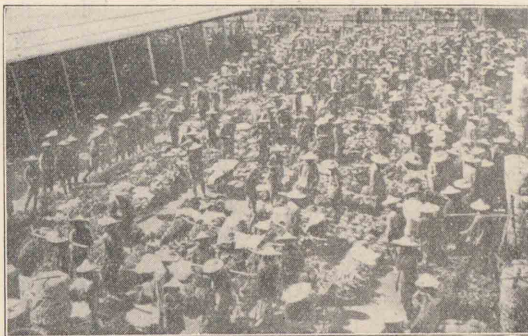
走り、島の殆ど半分は熱帯に屬してゐるから、氣温は概して高く、平地では霜雪を見るこ
とがない。雨量も一般に多く、基隆附近は全國最多雨の地といはれ



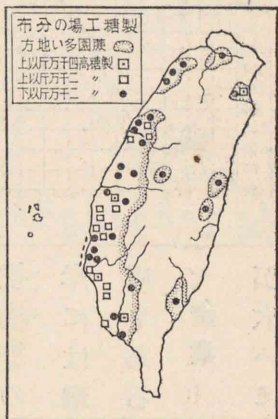
る。従つて、杉、檉、榕、樹、檳、榔、樹、林、
、投、樹、等、の、熱、帯、植、物、が、茂、り、海、
岸には珊瑚礁の出來てゐる
處もある。
産業 西部の平野は、農業
が大いに進み、米、茶、甘蔗、甘、藷

臺灣米は品質がよくなかつたが近年内地種を栽培して蓬萊米と呼び内地の聲價を博するやうになつた

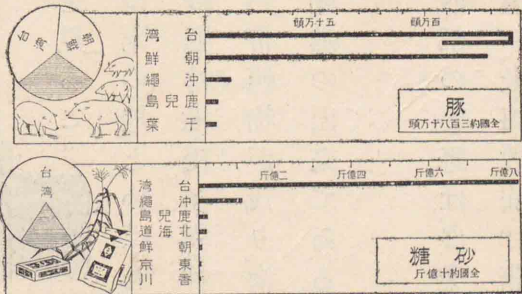
場 バナナの取引
バナナ市場の光景で内地の外朝鮮支那等への積出も多い



はこの地の四大農産物である。米は中部地方から多く産し、内地への移出も少くない。



茶は北部を主産地とし、臺北・桃園はその集散地で、烏龍茶又は包種茶に製して、米國・南洋方面に輸出される。甘蔗の耕作は中部以南に盛で、嘉義・屏東・鳳山等には、製糖の大工場がある。もとは多く粗糖の儘で移出したが、今は却つて粗糖を輸入して、精糖を輸出するやうになつた。甘藷は殆

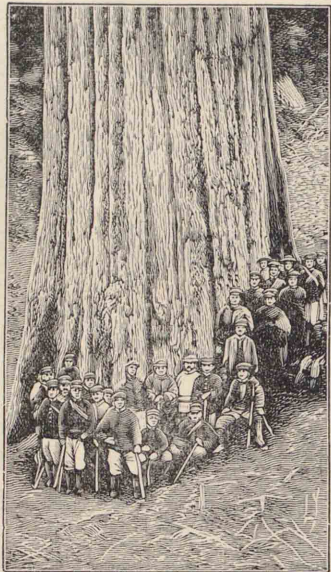
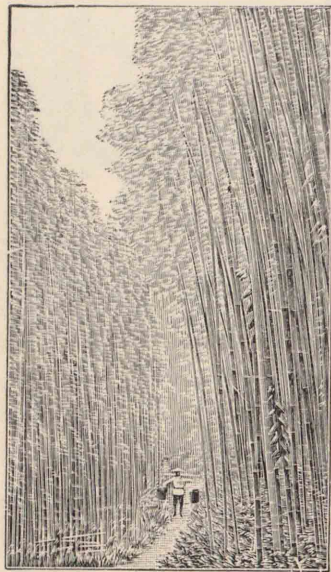


竹林(上左)
交力坪附近の竹林で高さ十米に及ぶものが十數科も續いてゐる

水牛・黄牛は農耕運搬に使役される

水牛(下)
性質が温順で粗食に堪へ水に浴することを好み多く水田のある地方で飼育する背後の植物は林投樹である

阿里山の巨木(上右)
阿里山中には樹齡二千年に達し周囲が二十米もある巨木がある



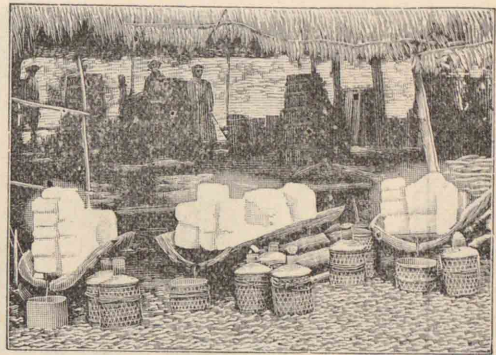
ど到る處に植ゑられて、島民の食糧となる。その他落花生を始め、バナナ・鳳梨・柑橘類・木瓜等の果實や、麻類煙草等を出し、バナナの内地輸送額は甚だ多い。牧畜も盛で、水牛・黄牛は多く耕作に用ひられ、豚は食用に供せられる。



山地には扁柏その他の美林が多く、阿里山・太平山・八仙山等では、伐材が盛に行はれ、嘉義に

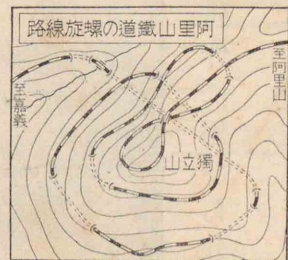
樟腦の製造
黒い圓筒形のは樟腦片を蒸す瓶、白い塊は結晶した樟腦、下の滴板から滴り落ちるは樟腦油である

樟腦・阿片・煙草・酒・鹽は總督府の專賣に屬してゐる

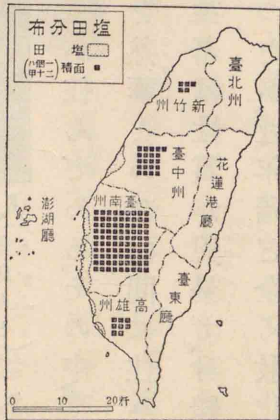
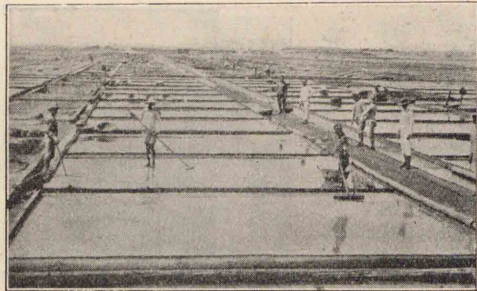


は製材所があつて、森林鐵道を通じ、又竹林も廣く、製紙器具の材料を供する。樟腦は、本島の特産で、世界需要の大半を供給し、臺北ではその精製が盛である。
水産は北部に、鰹・鮪・鯛等の漁利が多く、基隆はその中心で、盛に鰹節を製出し、又その海上には、紅珊瑚を産する處

がある。西海岸の瀉は、多く養魚に利用せられ、又天日製鹽が盛である。
鑛産は北部に金瓜石、瑞芳等の鑛山があつて、金、銅を出し、大屯山は硫黄を産し、基隆附近は石炭の産が多い。石油も有望

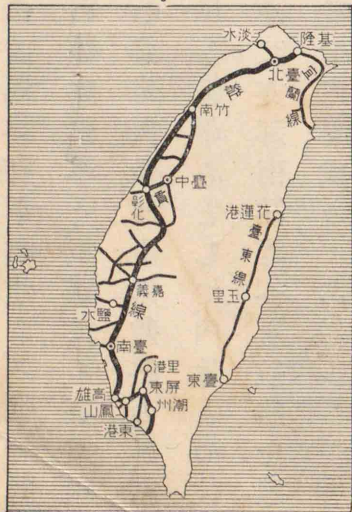


天日製鹽は海水を蒸發池に入れ、鹹度が濃くなると結晶池に移して作るもので、圖は蒸發池の海水をかまはしてゐる處である



であるが、現在採油されてゐるのは、苗栗附近の一部に過ぎない。
工業は農産加工と木工業との外は、小規模の手工に過ぎないが、豊富な資源を利用して、その將來は頗る有望である。

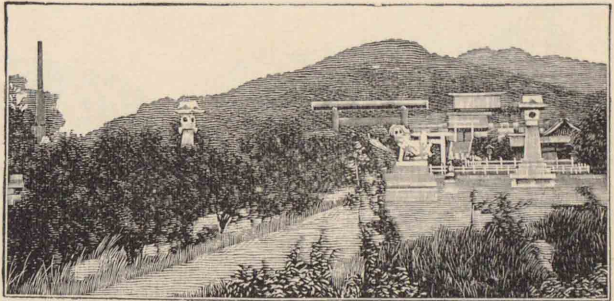
取引が最も盛であるが、外國貿易も次第に發達した。基隆、淡水、安平、高雄は開港場で、その他支那型船のみに取引を許す貿易港が六ヶ所ある。
交通 道路は整はないが、鐵道は



馬	淡	宜	南	豐
公	水	蘭	投	原
街	街	街	街	街
三	三	三	三	三
〇	一	三	三	三

圖 臺灣神社
臺北市の北部觀山麓にあつて大國魂命・大國主命・少彥名命及び北白川宮能久親王を奉祀してある

安平・鹿港・淡水はもと最も盛な商港であつた

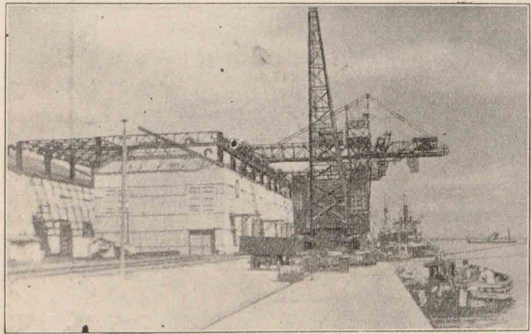


年市街を改造して全く舊觀を一新した。政治經濟學術等の機關が備はり、製茶とその集散が盛に行はれ、北方に臺灣神社がある。淡水は淡水河口に臨み、支那との取引が行はれる。縦貫線に沿ふ桃園は茶、新竹市は柑橘、苗栗は樟腦の集散地である。東部の宜蘭は、宜蘭平野の中心地で、その門戸をなす蘇澳は、漁業の根據地である。中部は米果實等を多く出し、臺中市と彰化とはその中心地である。大甲は蓆帽子等の特産を出し、海岸には鹿港その他の特別開港場がある。南部は甘蔗園の多いのを特色とする。嘉義市は阿里山を控へて製材が盛に行はれる。臺南市は本島第二の都會で、製糖業の重要な中心をなし、安平は市の一部で、港の浅い缺點はあるが、附近に鹽田や養

圖 臺南の市街
島内最古の都會で一時は全島の首府であつた

圖 高雄の埠頭
明治四十一年から改修され今は一萬噸の汽船十隻を繋ぐことが出来る

澎湖諸島は風が強く植物の發育が十分でない従て島内には喬木がない

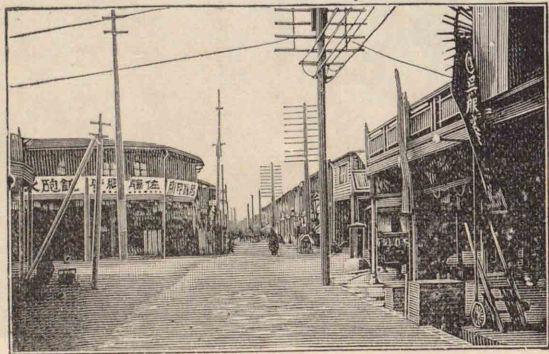


魚場が多い。高雄市は築港によつて、市況が著しく繁盛となり、鳳山屏東は共に農産の中心地で、前者は果實罐詰を多く出し、後者には製糖の大工場がある。恒春は日本最南の都會で、南岬に近い七星岩は、我が國の南端に當つてゐる。

臺東平野は、開拓の新しい處で、内地人や蕃人の農業に従事するものも多い。花蓮港と臺東とは、この地方の門戸である。

澎湖諸島は多くの島々から成り、その中

澎湖・白沙・漁翁の三大島は、相對して澎湖灣を





臺灣の濁水溪

古來屢に氾濫に苦むる今防工事の圖がやうに嚴にたつた



朝鮮の金剛山

奇峰怪岩で知られたる金剛山中特に絶勝の名ある萬物の一

山脈
長白山脈
白頭山 二七四四米
妙香山脈

面積
約三〇〇〇方軒
(約四二〇方里)
人口
約一九五二萬
(二方軒八八人)

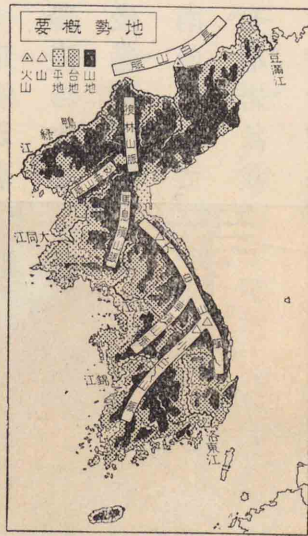
抱へてゐる。灣内の馬公は、國防上形勝の地點を占めてゐる。西南の花嶼は、我が版圖の最西端に當る。

第十一章 朝鮮

通説

日本海と黄海との間に突出する大半島で、北は滿洲及びシベリヤと境を接してゐる。我が國とは遠く神代の頃から已に往來があり、その後も彼我の關係が極めて密接であつたが、明治四十三年終に我が國に併合するに至つた。

地形 地形上、南北の二部に分れる。⁽¹⁾ 北部は山勝ちで、長白妙香



大白山脈
金剛山 一六三八
小白山脈

白頭山上の火口湖

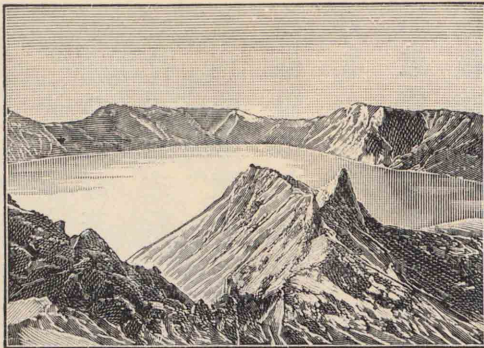
龍王潭又は天池湖と呼ばれ火口の周囲十一軒餘ある鮮人はその始祖降臨の地として神聖視してゐる

金剛山は朝鮮人も神聖なりとして崇拜する山である

鴨綠江(流長)

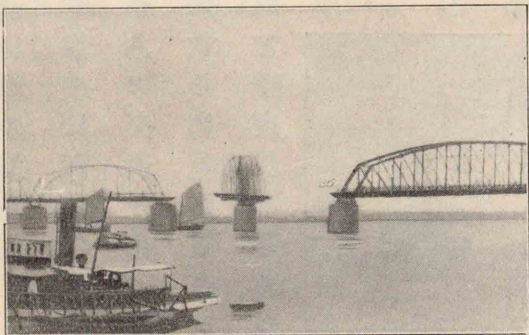
鴨綠江	七九〇
洛東江	五二五
豆溝江	五一四
漢江	四三九
大同江	四〇一
錦江	一九九
清川江	一一六

鴨綠江の眺望
鴨綠江の流域は鮮滿に互り灌溉・交通の便が多い。圖中の橋は鐵道鐵橋で中央の一部は廻轉式となつてゐる



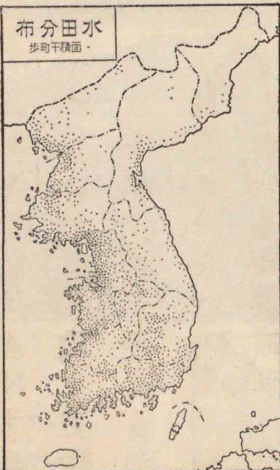
等の山脈が殆ど東西に連り、廣い蓋馬高臺を挟んでゐる。長白山脈中に噴起した白頭山は、朝鮮第一の高山で、頂上に火口湖がある。南部には南北に走る大白山脈があつて、小白山脈が之から分れ、一般に丘陵が多い。大白山脈中の金剛山は、岩石の奇景で名高い。

北部の鴨綠江は、半島第一の大河で、豆滿江と共に國境を流れ、南部は分水嶺が東に偏してゐるから、平野は西斜面に廣く、大同江、漢江、錦江等が此處を流れて、南斜面の洛東江と共に、舟運の便が多い。



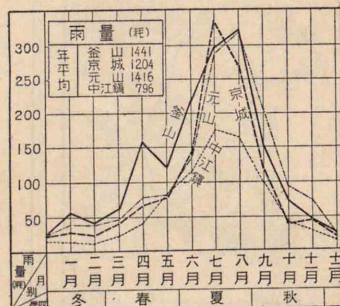
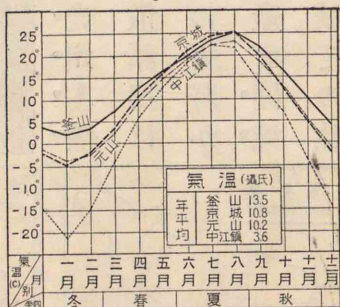
元山の高極は三十度六分中江鎮の低極は零下四十一度六分で落合に次いでゐる

米の積出 税關支署附近に於ける米積出の光景で臥の山積は悉く米左の水田は錦江である



暑の差が烈しい。即ち南部は北九州と大差はないが、北部の河は冬季に悉く凍つて、車も馬もその上を通つてゐる。一般に雨量は少いが、夏秋の候には、往々大雨の降ることがある。

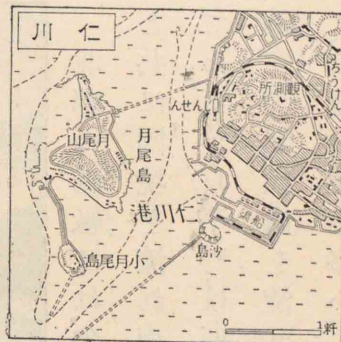
産業 産業は未だ十分に發達しないが、農業や牧畜は廣く行はれ、殊に農業は、内地人の移住と共に著しく改善された。米は西南部の平野に



鎮海灣・永興灣附近は要塞地である

元山の干満の差は約〇・五米に過ぎない

氷上の釣魚 凍つた河面に坐して穴を穿ち魚を釣つてゐる光景



干満の差が著しく、船の出入に不便だから、仁川では閘門式船渠を設けて、その缺點を補つてゐる。朝鮮海峡は日本海の關門に當り、國防上重要な位置にあるから、鎮海は海軍の要港となつてゐる。氣候 南北に長いから、氣候は處により著しく違つてゐるが、概して大陸的で、内地よりも寒

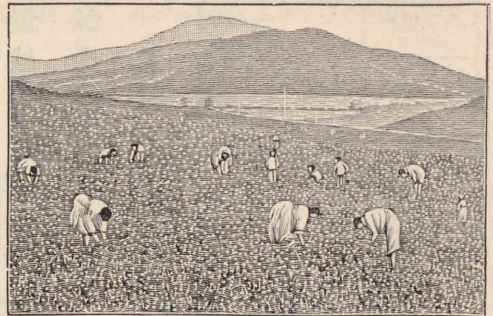
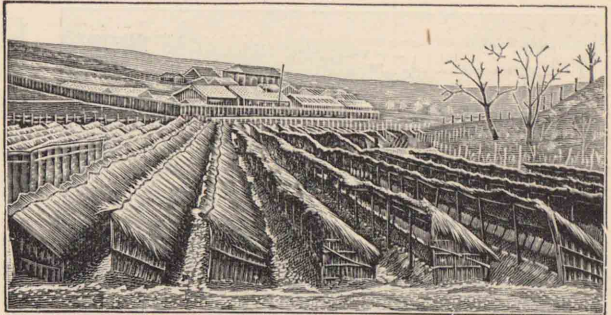
日本海岸には、永興灣・迎日灣の外、出入は極めて少いが、黄海及び朝鮮海峡に面する方面には、西朝鮮灣・江華灣等があり、又海上には濟州島・巨濟島を始め、大小無数の島々が散在して、その一部は朝鮮多島海と呼ばれる。黄海の沿岸は、海底が遠浅で、潮汐



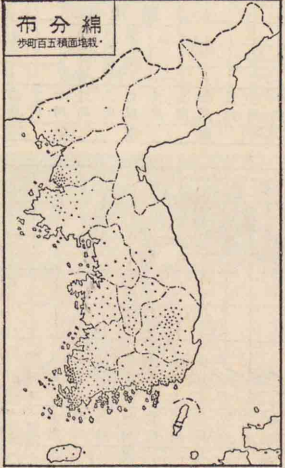
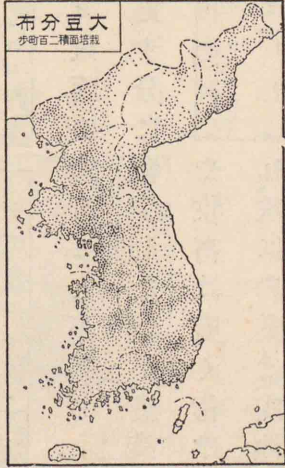
圖 綿の摘採
近年は米圃を栽培し
その成績が頗る良好で
ある

圖 人蔘の栽培
人蔘は強い日光も風雨
も厭ふから圃の如き日
覆を作つて保護を加へ
るのである

る所
綿の摘採
新羅人蔘
傾斜の土地
水はけがよい



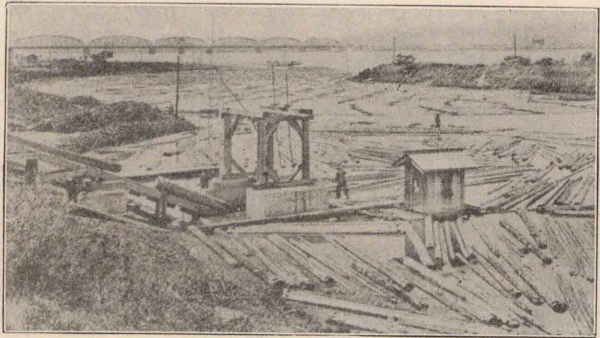
多く、大邱、全州等は
その集散地である。釜山、
蔚山、木浦等から内地へ
も送られる。綿もこの地



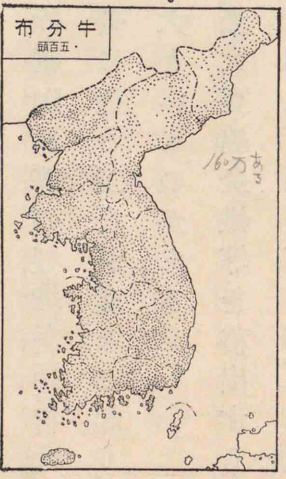
當り、麥、粟、大豆は殆ど
到る處の平野から産する。
又人蔘は古來の名産で、開
城は殊に名高い。近年洛東
江流域その他方に多く、光
州、木浦がその集散積出に
當る。

北部は毎戸一頭乃至四十頭の牛を養ふといふ

圖 新義州の積材
王子製紙會社工場の際木場及び木材引込線である



に果樹の栽培も行はれ、大邱附近は優良な苹果を出す。牧畜は古から牛の飼養が行はれて、牛皮の産が多く、又肉用馬として内地に送られるものも少なくない。



林野は廣いが、多年濫伐の爲に、南部では殆ど森林を見ない程であつたが、植林に心をを用ひて、今は次第に挽回に向ひ、北部には松、樅等の大森林があつて、伐採が盛に行はれ、新義州はその集散地で、營林署製紙工場等がある。水産は南部、西部の石首魚、鯛、鱈、鰹、日本海の明太魚、鰾等が殊に多く、釜山、蔚山、元山、濟州島

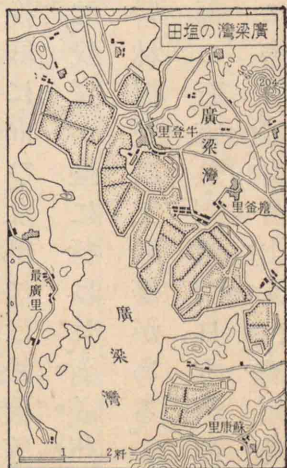
雲山の採金は遂安と共に米人の經營に屬してゐる
金は我が金貨の地金となる

等は漁業の主なる中心である。又西部では天日製鹽が行はれ、廣梁灣は最も名高い。

鑛産は頗る豊富で、雲山・遂安・稷山の金・載寧・殷栗の鐵平壤附近の石炭等は殊に名高く、その他銅・黑鉛等を出す。鐵鑛は多く八幡製鐵所の原料となり、兼二浦及び鎮南浦にも製鐵所が設けられてゐる。

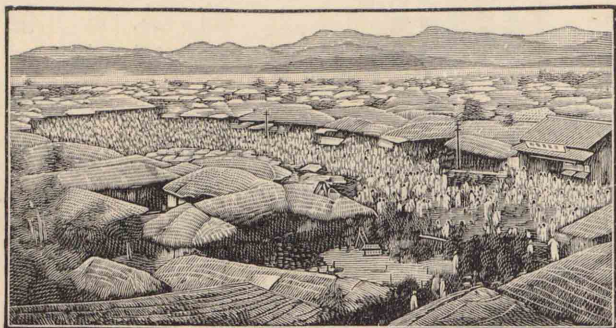
古は美術工藝に長じてゐたが、今は鮮人の事業として見るべき工業は殆どなく、僅に古から産する織物・紙・陶器等の製造が、稍行はれるに過ぎない。然し近年内地人の經營に係る工場が處々に起り、製鐵・製紙・製革・紡績等には、規模の頗る大きいものがある。

貿易は、内地から加工品を移入して、米・大豆・綿金・鐵等を移出する外、支那との取引が行はれ、釜山・仁川はその二大門戸である。その他

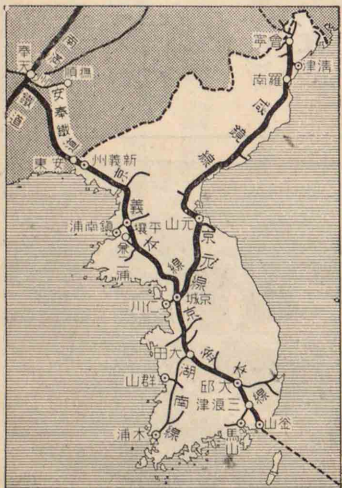


大邱の市場
定期市の光景で、路に白く見えるは白衣の群衆が群衆してゐるのである

- 1 釜山・京城間
- 2 京城・安東間
- 3 三浪津・馬山間
- 4 大田・木浦間
- 5 永登浦・仁川間
- 6 平壤・鎮南浦間
- 7 京城・元山間
- 8 元山・會寧間



線平南線・京元線・咸鏡線等がある。西部南部の地方は、鐵道が發達してゐる上に、良港も多いから、水陸共に交

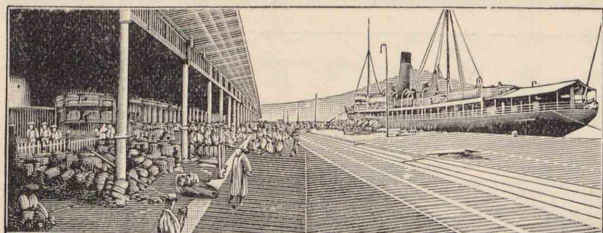
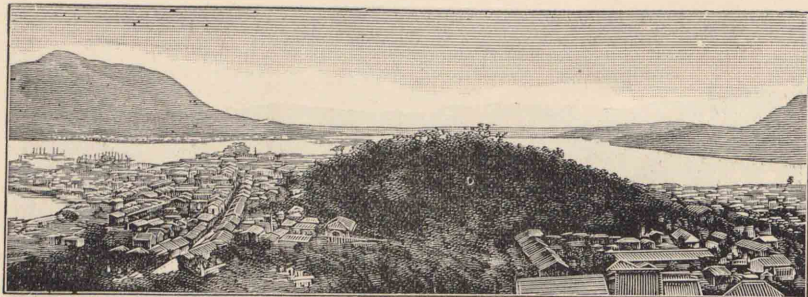


雄・基・清・津・元・山・木・浦・群・山・鎮・南・浦・新・義・州・龍・岩・浦等の開港場がある。内地商業は、定期市の開かれるのが特色で、大邱の大市は殊に名高い。

交通 往時は道路が一般に整つてゐなかつたから、専ら馬や轎で往來したが、今では鐵道が多く敷設された。京釜・京義の二線は、連つて半島を南北に貫き、更に開閉橋で滿洲の鐵道と續いてゐる。その他馬山線・湖南線・京仁線等がある。西部南部の地方は、鐵道が發達してゐる上に、良港も多いから、水陸共に交

釜山の展望
中央の森は龍頭山公園
で左方に見える遠景の
山は絶影島である
下圖は釜山の第一大橋
横付けに釜山連絡船が
の列車が待つてゐる

京	平	大	仁	元	鎮	木	新	群	清	開	咸	光	全	晉
城	邱	邱	川	山	南	浦	州	山	州	州	州	州	州	州
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府
人口(千人)	三二四	一〇六	七九	七六	五七	三七	二七	二六	二二	二二	四一	三三	二二	二〇



朝鮮は表朝鮮、裏朝鮮にも分けられ、又南北中の三部にも分けられる。

南朝鮮は南部六道(慶尙南道、全羅南道、全羅北道、忠清南道、忠清北道、京畿道)の地で、その要部は洛東江流域と湖南平野とである。(1)釜山は絶影島の陰に位し、下關と鐵道連絡船を通じて内地と交通の衝に當り、港灣の設備も能く整ひ、貿易の盛なことは半島第一である。馬山は海峽の要地を占め、鎮海灣は日本海海戦の際、我が艦隊の根據地

處 誌

庶民の家屋
下流社會の家には圓の如き、矮小な草屋が多い。前の小溝では婦人が洗濯をしてゐる。

諺文
子音と母音とを組合して一種の發音をなすもので、その例を左に示す

PU = ㅍ
TU = ㅌ
SA = ㅅ
AN = ㅏ
SAN = ㅑ

内地人の在住は四十萬を超えてゐる

京	清	公	全	光	大	釜
畿	州	州	州	州	邱	山
道	道	道	道	道	道	道

平	咸	咸	黃
安	鏡	鏡	海
北	南	南	道
道	道	道	道

通は極めて便利であるが、日本海方面は之に比べると著しく不便である。

住民政治 住民の大部分は朝鮮族で、以前には稍遊惰の傾もあつたが、次第に改められ、殊に女子は頗る勤勞の風がある。文化の程度が稍低く、庶民は概ね藁葺の小屋に住み、文字は諺文を用ひるものが多かつたが、近年各種の學校が設けられ、教育も次第に進歩した。政治は朝鮮總督府があつて政務を統轄し、地方は十三道に分れて、各道に知事がある。

子音 フレコロ日人
音 ス○ろフニス互
母 トトイヨト止下
音 ㅍ ㅌ ㅅ ㅏ ㅑ

綴 早 釜 (釜山)
音 한 장 (漢江)



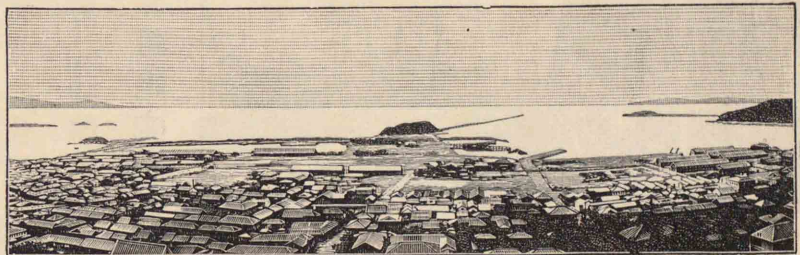
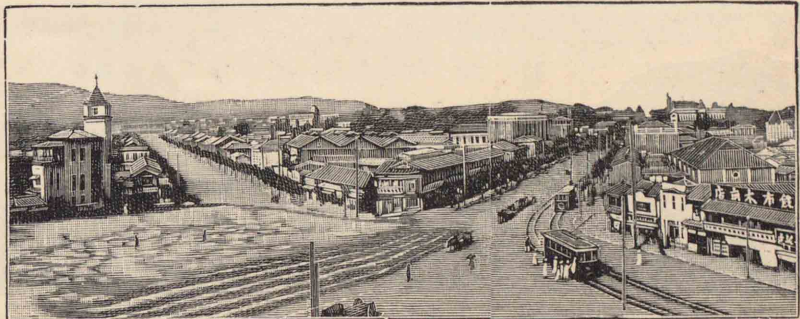
蔚山は加藤清正の籠城で名高い公州は百濟の都であつた

蔚山は加藤清正の籠城で名高い公州は百濟の都であつた

蔚山は加藤清正の籠城で名高い公州は百濟の都であつた

蔚山は加藤清正の籠城で名高い公州は百濟の都であつた

蔚山は加藤清正の籠城で名高い公州は百濟の都であつた

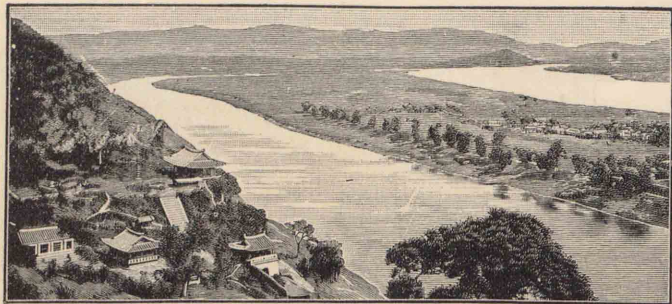


となつた處である。大邱は定期の大市で名高く、慶州は新羅の舊都で、名高い古蹟が多い。湖南平野は米・綿等の農産に富み、大田は此處に興つた新市街で、公州・全州・光州等と共に、農産物の集散が多く、群山・木浦は、この地方の門戸である。

中朝鮮は中部の三道(京畿、江原)を含み、主として漢江の流域である。京城は半島第一の大都會で、政治上、經濟上總て半島の大中心である。もと四周に城壁

龍山に第二十師團司令部がある

平壤の牡丹臺市の西北にある小丘で眺望がよい臺下に浮翠樓といふ古い建物がある。圖中の近く手前に見えるのがそれである



を繞らしたが、今は一部を残して之を除き、市區を改修して全く舊觀を一變した。その一部の龍山は、軍事交通の要地である。仁川は京城の門戸に當り、築港も已に完成して、半島第二の商港である。水原は、農事改良の中心地で、勸業模範場が設けられ、開城は高麗の舊都で、附近に人蔘の名産がある。大同江に臨む兼二浦は、水陸交通の要地を占めてゐる。

北朝鮮は北部四道(平安南北)の地で、更に西部東部に分れる。平壤は大同江に臨んで形勝の地點を占め、昔から屢、戰場となつた處であるが、今は北朝鮮の中心市で、貨物の集散が盛に行は

れ、鎮南浦はその外港で、舟車の連絡がある。鴨綠江の沿岸には、義州・新義州等の都邑がある。新義

新義州
我が領土の尖端に當る町で歩行者は内地人朝鮮人支那人が混じてゐる橋は鴨綠江の鐵橋

羅南に第十九師團司令部がある

清津の埠頭
北鮮地方の重要な門戸で圖に示すやうに貨物の集散が盛であるが又漁業の中心でもある

面積 約三四五〇方軒
(約二四方里)
人口 約七十六萬
(内地人約十萬)



地、雄基は國境に近い開港場である。

第十二章 關東州・南洋諸島

關東州は遼東半島の一部で、我が國が支那か

州は江を挟んで支那の安東と對し、その間を連絡する鐵道には、開閉橋があつて、半島の北門に當り、鴨綠江材の大集散地である。

東海岸の元山は、裏朝鮮

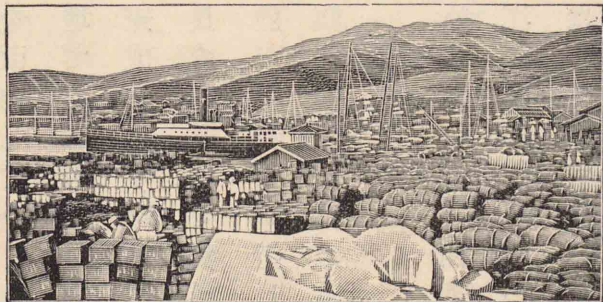
に於ける重要な市場で、清

津は、會寧を経て支那の間

島に入る要地に當り、將來

北滿に對する一關門たら

んとし、羅南は軍事上の要

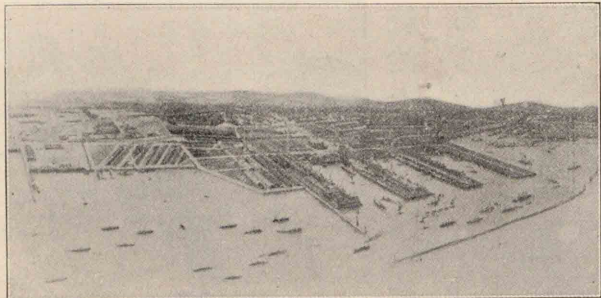


主要都邑 人口(千人)
大連 二二〇〇
旅順 三三〇
旅順に工科大学がある

大連港
海上から見た埠頭の光景

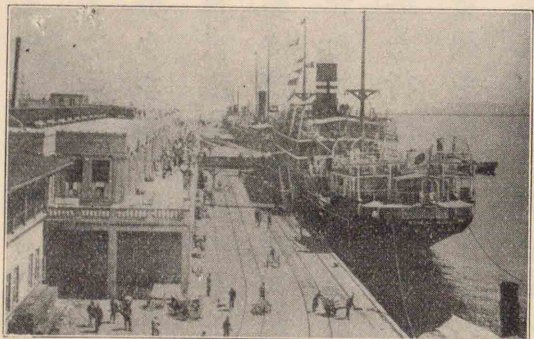
大連の埠頭
船車連絡の設備がよく整つてゐる

面積 約二一四九軒
(約百三十九方里)
人口 約五萬六千
(内地人約八千四百)

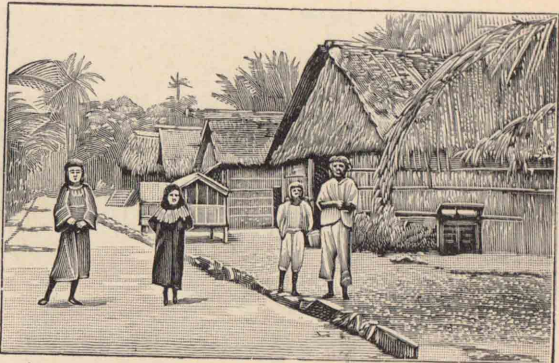


ら租借してゐる處である、面積は狭く山勝ちで、産物は少いが、廣い滿洲平野の門戸に當つてゐるので、極めて重要な處である。我が國は旅順に關東廳を置き、この地方を治めてゐる。旅順市は日清日露の激戰地で、附近に名高い戰蹟が多い。大連市は我が南滿洲鐵道の起點で世界交通の要地に當り、大豆豆粕等の積出が盛である。

南洋諸島は小笠原諸島の南方に散在してゐる數多の島嶼で、もとドイツの領土であつたが、世界大戰の後、我が國にその統治を委任



南洋土人の風俗
マニラ諸島中のヤ
ルト島にある村落を
示したのである



統治を委任されて、太平洋上に権力を振ふなど、國威が廣く輝いて
ある。

された。マリヤナ・カロリン・マニラ・パラオの
四諸島に分れ、パラオ諸島のコロールは、南洋
廳の所在地である。アンガウル島は燐礦を多
く出すので名高く、ヤップ島は海底電線の要地
である。全體に椰子樹が多く茂り、その果實か
ら採るコブラは、燐礦と共にこの地の重要な
産物となり、又甘蔗の栽培も行はれる。

斯く我が國は、近く關東州を租借して、滿洲
方面にも各種の事業を營み、遠く南洋諸島の

後篇 總說

第一章 地形

山系火山帶

日本列島を造る主要な山脈は、北彎と南彎との二
山系に分れる。北彎山系は、東北部の地帯を造るもの
で、樺太から南に延び、北海道本島・奥羽を経て、本州の
中部に達し、南彎山系は、西南部の地體を造るもので、
二列に分れ、一は臺灣琉球から九州の南部を経て、四
國・近畿の南部を過ぎ、一は九州の北部、中國・近畿の北
部を過ぎて、共に本州の中部に達してゐる。

富士火山帶は、南北兩彎の相會する弱線を通じ、列島を北日本と
南日本とに分ける。富士火山帶から北には、那須・千島・島海等の火山

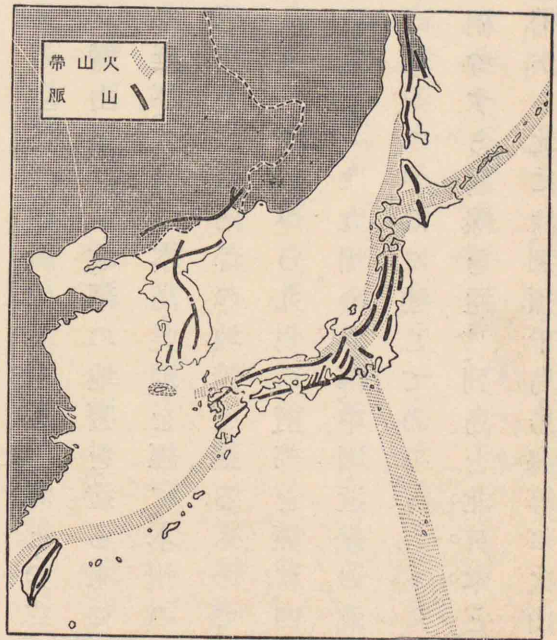


北嶺山系の連る地
域を北日本、南嶺
山系の連る地域を
南日本と呼ぶ、又
彎形の外側を表日
本、内側を裏日本
と呼ぶことがある

帯があり、南には阿蘇霧島白
山・大屯等の火山帯がある。こ
の他、處々から噴出してゐる
火山も少くない。

朝鮮半島では、北部の山脈
は殆ど東西に連つて、高い高
地を挟んでゐるが、南部の山
脈は、概ね南北に連つて丘陵
性である。火山は少く、活火山
は全くない。

平野河川 我が國は土地が狭く、廣い平野は少い。その中で重要
なのは關東・越後・濃尾・大阪・筑紫・石狩等の諸平野で、臺灣の西部や朝
鮮の西南部にも相應に廣い平野がある。朝鮮半島には、鴨綠江・豆滿

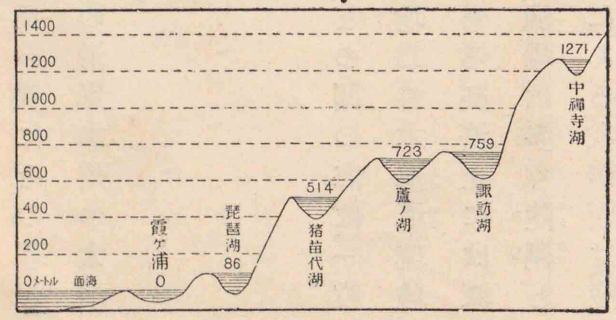


太平洋斜面	(斜)	北上川	利根川	天龍川
オホーツク海斜面	(斜)	木曾川	熊野川	
日本海斜面	(斜)	石狩川	最上川	信濃川
朝鮮海峽斜面	(斜)	洛東江	豆滿江	
黃海斜面	(斜)	鴨綠江	大同江	漢江
東支那海面	(斜)	筑後川	球磨川	川内川
臺灣海峽斜面	(斜)	淡水河	濁水溪	下淡水溪
瀬戸内海斜面	(斜)	淀川	旭川	大田川

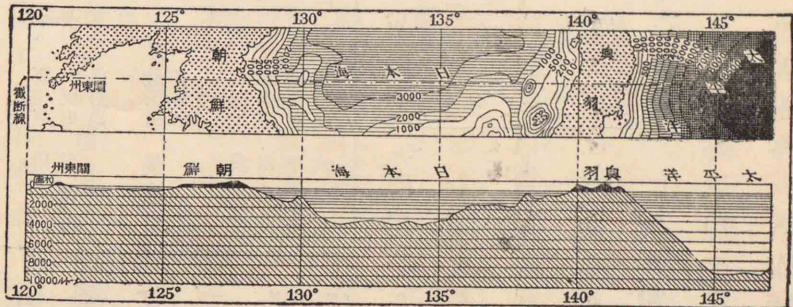
琵琶湖	(湖名)	約三三三	約六〇
霞浦湖	(湖名)	約一三三	約三八
八郎湖	(湖名)	約二二二	約三三
猿瀧湖	(湖名)	約七二二	約二二
印旛湖	(湖名)	約七二〇	約二〇
風連湖	(湖名)	約七二〇	約二〇
猪苗代湖	(湖名)	約七二〇	約二〇

江等の大河が少くないが、日本列島の河は、數多の
斜面に分れ、概ね短く且急で、舟運の便は少く、割合
に水量の多い石狩・利根・信濃・木曾・淀・筑後等の諸川
でも、僅に下流に小汽船を浮べ
るに過ぎない。然し上流は發電
に利用せられ、下流は廣く灌漑
に用ひられる。

湖水も大きなのは少いが、灌漑・養魚・
發電等に利用せられ、又風景がよい爲
に、遊覽地として名高いものもある。
海岸線 海岸はその國の門戸であ
るから、海岸線の良否は、文化の發達を左右する
ことが多い。我が國の周圍は、屈曲に富む上に、島



圖説日本の近海とその断面
 日本海淵の最深部は伊豆諸島の東方にあつて九千四百三十五米に達し又東北の一部にはタスカロラ海淵と呼ばれる八千五百十四等の深處がある
 海面は三哩以内をその國の領海とするのも原則である



嶼が多いから、海岸線が甚だ長い。殊にその著しい處は、九州の西岸、瀬戸内海の沿岸、本州の太平洋岸、朝鮮の西南岸等である。

第二章 海洋

近海 列島とアジヤ大陸との間の海は、一般に浅いが、外側は急に深度を増し、日本海溝、琉球海溝等は、世界的深海の一である。經濟上には深海よりも寧ろ浅海が大切で、漁場は多く、陸棚と呼ばれる二百米以内の浅海にある。我が國は、陸棚の面積が甚だ廣く、水産業を盛大ならしめる原因となつてゐる。

潮汐 潮汐の干満は、地形によつて大いに違

つてゐる。朝鮮の西岸では、干満の差が十米に近い處もあるが、日本海岸は一般に少く、佐渡では一米の三分の一に過ぎない。狭い海峡では、潮汐の干満につれて、激しい潮流を起すことがある。瀬戸内海の入口では、その現象が殊に著しい。

海流 我が國の近海には、寒暖二種の海流がある。暖流の重なるのは日本海流で、日本列島の外側に沿つて流れ、對馬海流はそれから分れる。寒流の最も著しいのは、千島近海から奥羽近海に來る千島海流で、その他樺太海流、リマン海流等がある。何れも氣候・産業等に影響を及ぼすことが著しい。

第三章 氣候・生物

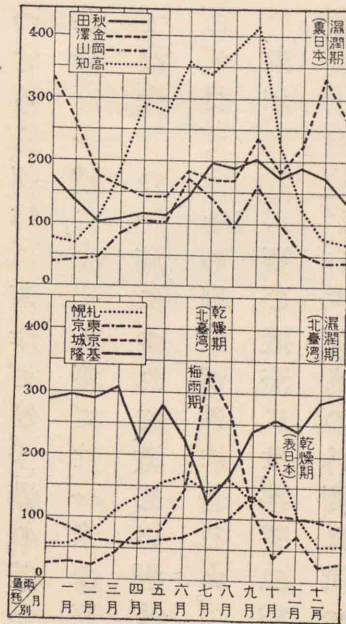
氣溫 我が國の大部は温帶にあるから、概ね温和であるが、土地が南北に長く、且地勢・海流・季節風等の影響を受ける爲、氣候は處に

鳴門の潮流は一時間二十秒に及ぶ
 日本海流の一部を黒潮ともいひ千島海流は一に親潮ともいふ

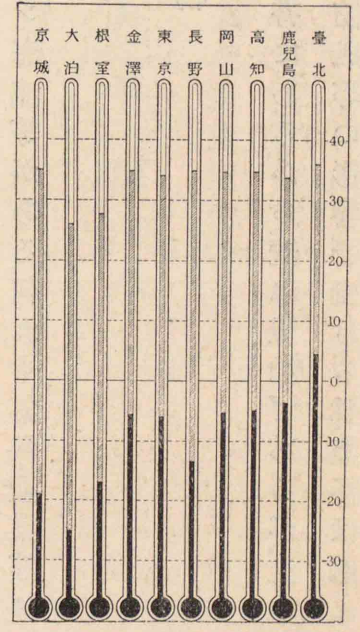
圖 各地の最高最低气温
斜線を加へたのは最高
気温で黒きは最低気温
である

年平均気温	度
恒春	二四・三
敷香	(一)〇・二
氣温の高極	四〇・二
元和島	三九・六
氣温の低極	(一)四一・六
落合	(一)四五・六
中江鎮	(一)四一・六

圖 季節による各地の雨量
夏秋の交我が國に襲來する颱風は多
くマリヤナ諸島附
近から來る低氣壓
に初め西北の方
に進み臺灣の東
方に向つて進
むものごとく進行
するもの頃荒
れ時として一般に
警戒する



よつて大差がある。臺灣は常夏
の地といはれる程で、夏季
が長くて冬が短く、且冬の氣
温は樺太の夏と著しく違は
ない。北海道樺太朝鮮等では、
冬季に河海の凍る處もあり、
北部では冬が長くて夏は短く、
春秋といふ季節は殆どない。



風雨 我が國の夏は、東南
季節風が吹いて、太平洋上の
濕氣を運ぶから、本州・四國・九
州等の太平洋面では雨が多
く、冬は西北季節風が日本海
上の濕氣を運んで、北陸・山陰

圖 熱地と寒地の植物景

上圖は臺灣恒春附近の
檳榔樹林で下圖は冬季
に於ける樺太の森林

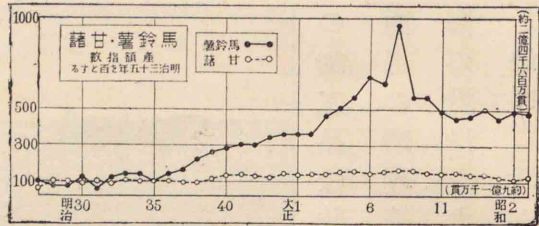
植物分布は同一の
地でも土地の高低
によつて違ひ臺灣
の高山では麓から
頂上に行くにつれ
て熱温寒の各帯に
特有な植物を認め
ることが出来る

等の地方には雪が多く降る。夏秋の交には、南洋に起る颱風が襲來
して、我が國の南部に暴風雨を齎し、又夏の初には、全國の大部に互
り、梅雨といふ霖雨期があつて、陰鬱な天氣が續く。

生物 氣候の關係で植物の種類が著しく違ひ、九州の南部から
臺灣にかけては、種々の熱帶植物も茂るが、北
部には針葉樹のみで、常緑濶葉樹を見ない。動
物は、植物の如き著しい變化はないが、臺灣に
は水牛、北海道に
は羆、樺太には馴
鹿、朝鮮には虎等
の特殊のものが
ある。海棲動物も
南部には海龜、珊

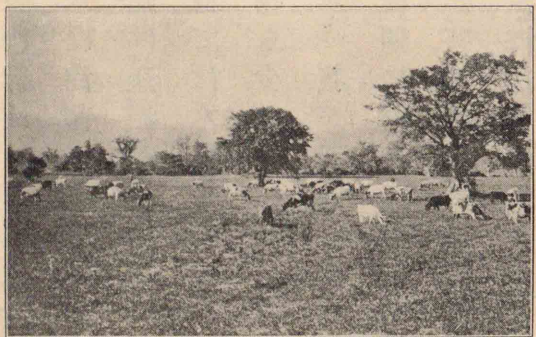
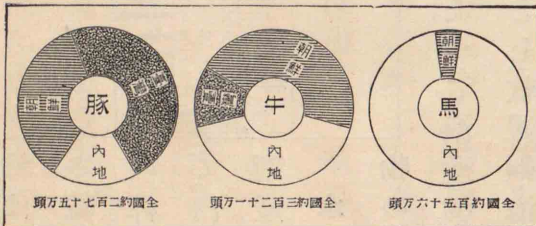


【圖】北海道の牧場
北海道は氣候・地形が
牧畜に適するので、断業
が盛である。圖は牧牛の
光景を示したものである。



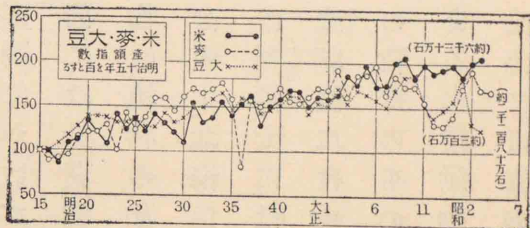
林業 我が國には、津輕・秋田・木曾・熊野等を始め、立派な森林が多く、北海道・樺太・朝鮮・臺灣等には天然の大森林があつて、伐

豆・煙草・甘蔗・甘藷・馬鈴薯等の産出も甚だ多い。養蠶は概ね農家の副業であるが、近年益々盛となつた。牧畜 近年生活状態の變化と、軍馬改良の必要等から、公私の牧場が處々に設けられ、牛・馬・豚等の飼養が盛となり、その方法も大いに改善された。養鶏は概ね農家の副業として行はれる。



清酒の原料となる米のみで六百萬石以上に及ぶことがある。

茶の栽培は近年九州方面でも次第に盛になつて行く。

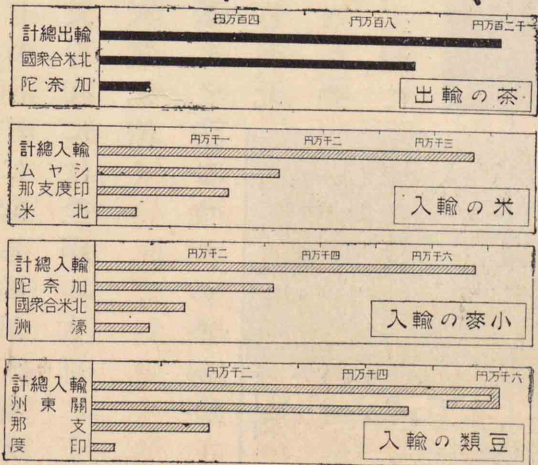


占め、殆ど到る處の平野に耕作せられ、麥は米に次ぐ主要な食糧で、その産額も亦多い。茶は世界屈指の多産地で、主要輸出品の一となつてゐる。その他、大

第四章 産業・産物

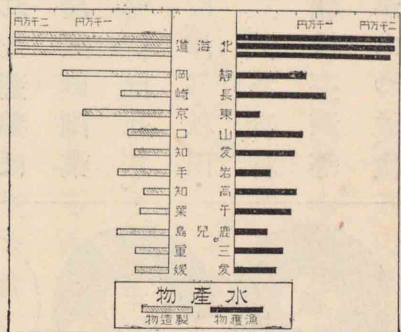
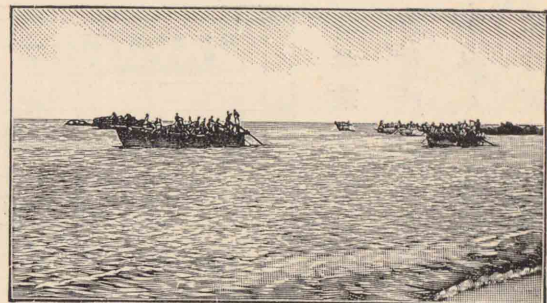
瑚等が生育し、北部には臘虎・膾肭獸等が棲み、又海流等の關係で、魚族も處によつて種類が異なる。

農業 我が國は、古來農本位の國であるから、國民の多數は農業を營んでゐる。米は國民の常食で、農産中の第一位を



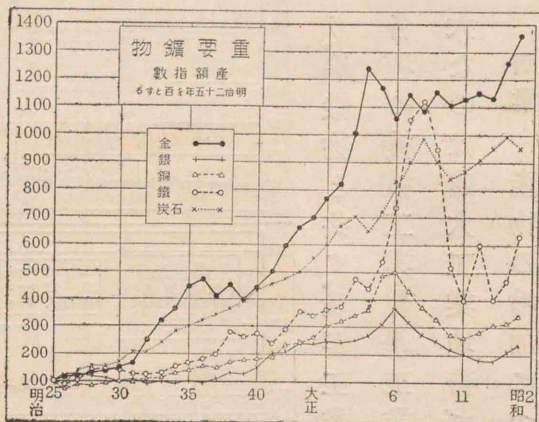
近時滿洲・シベリヤ等の沿岸へも漁區を擴め遙に赤道を越えて南洋に出漁するものもある

房總半島沖に於ける漁獲を得て歸港する漁船を示したものである



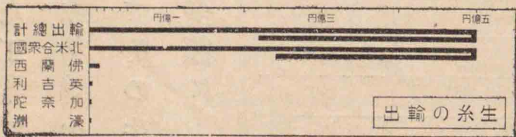
漁業も盛となつて、漁獲物が甚だ多い。漁獲物は魚類を第一とし、軟體類、海獸、海藻等があり、其等の加工品は輸出も少くない。特殊の産物としては、志摩半島の眞珠、南部の珊瑚等も世界的に名を知られてゐる。この他食鹽は、瀬戸内海の沿岸を主産地とし、臺灣、朝鮮にも廣い鹽田がある。

我が國は鑛物の種類が多く、近年採鑛の方法も頗る進歩



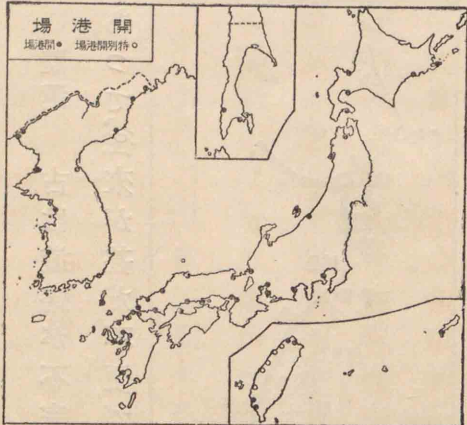
した。鑛産の最も重要なものは、石炭と銅とで、中でも石炭は、全鑛産價額の約七割を占め、輸出も少くないが、又殆ど之と等しい輸入もある。銅は世界屈指の産地であるが、今は殆ど自給の程度である。その他金、銀、鐵、硫黃、石油等も重要な産物であるが、石油鐵の需用は、尙多く輸入に仰がねばならぬ遺憾がある。

工業 我が國民は、古から手工に長じてゐるが、近年大規模の工場が處々に起り、生産額が益増加した。生絲は産額が世界の諸國に卓越して、輸出品中の第一位を占め、之を原料とする絹織物の産出も、甚だ多い。綿絲紡績は、近年

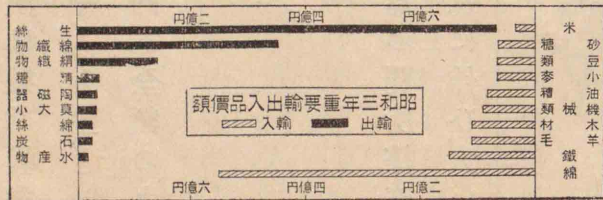
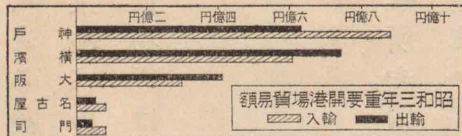
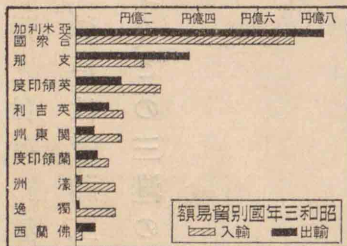


貿易港

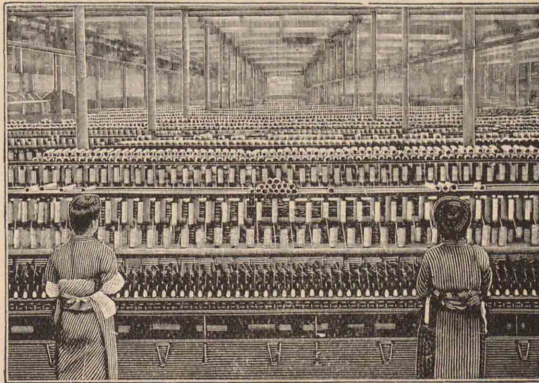
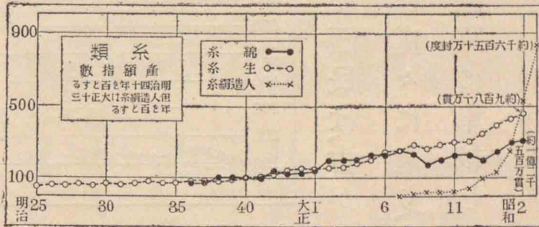
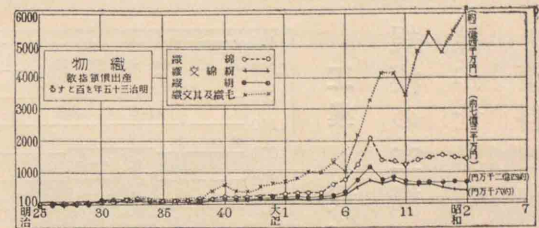
横濱	尾道	宮津	函館	門司	三池	淡路	釜山	元山
清水	徳島	七尾	小樽	若松	三角	安平	木浦	城津
武豊	徳島	伏木	室蘭	博多	那覇	高雄	高松	清津
名古屋	下関	新湊	根室	唐津	鹿児島	特別港	仁川	雄基
四日市	萩	北九州	根室	長崎	鹿児島	特別港	仁川	雄基
大阪	濱田	青森	大泊	口之津	今治	新義州	龍岩浦	
神戸	境	青森	住ノ江	基隆				



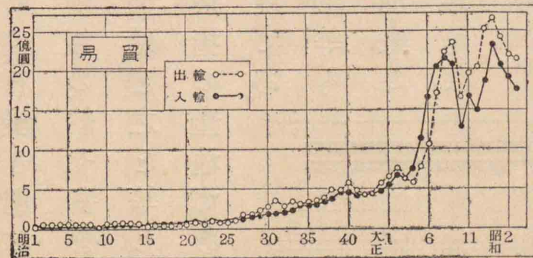
東京と大阪とは東西の二大中心で、その中間の名古屋も、商圏が頗る廣い。その他各地方には大小の範圍内に夫々中心地がある。外國貿易は近年著しく發展し、内容も大いに改善された。全國には大小五十餘



大阪にある紡績工場
内部を示したもの



り、綿織物と共に、我が工業界の巨星である。その他各種の機械工業・化學工業等も發達し、その最も盛大なのは四大工業地帯である。
商業 産物の増加につれて、商業も益々盛となり、



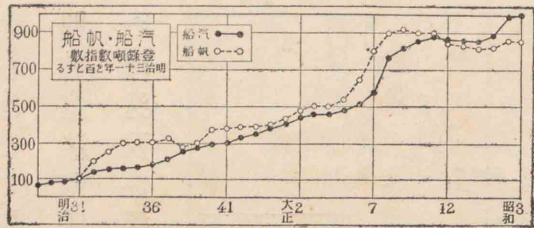
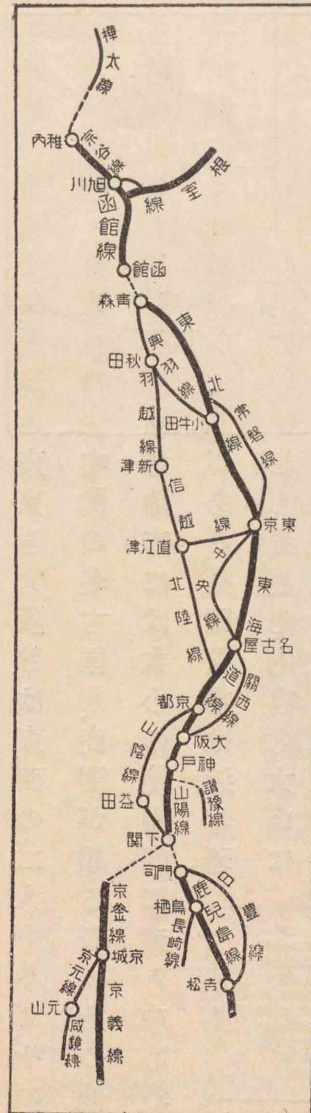
發達した工業であるが、原料綿を輸入して、その生産額は多額に上

東京の日本橋は國道に於ける全國距離の起點である

の貿易港があるが、横濱と神戸とは殊に盛である。横濱は製絲機業地を背景とする輸出が多く、神戸は、阪神工業地への輸入を主とし、大阪は、夫に對する輸出が多く、この三港の貿易額は、内地全額の九割餘を占める。

第五章 交通

陸運 古は道路が不完全な上に、天然の難所や、人為の關所等があつて、往來が甚だ不便であつたが、近年自動車の普及に伴ひ、大い

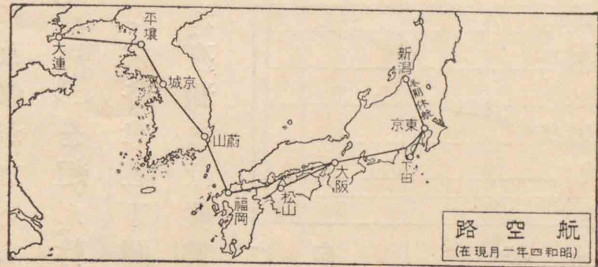


に改修が加へられた。鐵道は、著しく發達して、その延長一萬五千哩(植民地)を超え、幹線は樺太・北海道から九州の南部に達して、その間の宗谷・津輕・下關の三海峡を始め、四國・朝鮮等へも連絡船が設けられ、臺灣には縦貫線がある。鐵道が遠距離の交通に便利であると共

に、主要の都市や、その附近には電車軌道が發達して、自動車と共に近距離の交通を助けてゐる。

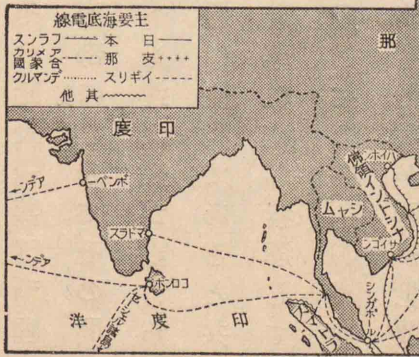
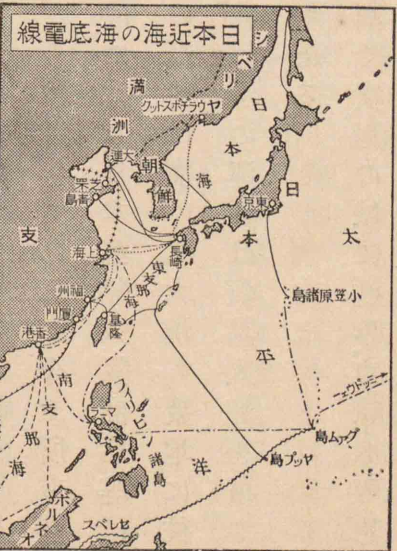
海運 海運は近年急速に進歩した。我が國が世界の海運界に参加したのは近年であるが、今や所有商船數は世界の第三位に當り、日本郵船・大阪商船等は主要な大會社で、その汽船は、廣く六大洲の要地に往復し、斯くて外國貨物輸送の運賃は、貿易入超を償ふ最大の財源となつてゐる。

航空 飛行機も漸く實用の域に進み、東京・大阪を



中心として、朝鮮・關東州の間に定期航空路が開かれ、主として旅客の輸送及び通信に當り、支那との間（海間上）にも、最近に航空路が開かれることになつてゐる。

通信 古は、専ら飛脚で通信をしたが、今は郵便及び電信の制度が殆ど完備してゐる。海底電線は、主要な島々を連ねる外、支那・シベリヤ等と通じ、又小笠原島で、米國の電



航空機は通信のみならず運輸の上にも重要である

線に續いてゐる。この他陸上の要地や、重な船舶には、無線電信局が設けられて、通信上極めて便利となつた。電話も殆ど全國到る處に架設せられ、長距離通話の區域も益、廣くなり、無線電話も全く實用の域に達し、大都市ではラヂオ放送が盛である。

第六章 住 民

國民 我が國民の大部分は日本族で、朝鮮族・臺灣人（漢族等）が之に次ぐ。この他北部にはアイヌ・オロチン・ギリヤク等の民族が住み、臺灣には蕃人（マレー族）もあるが、何れもその數は多くない。是等の各民族は、言語・風習等に多少の差異はあるが、何れも日本民族を範として、その同化が甚だ速である。

人口 國民の總數は、約八千三百萬餘で、その稠密なことは世界に稀である。各地方の中で、面積の割合に人口の多いのは、關東と近

高等女學校は官公
私立合せて約九百
校ある

畿とて、少いのは樺太・北海道である。内地人の外國に住むものも七
十萬を超え、中でも支那・ハワイ(哇)・アメリカ合衆國・南アメリカ等に
は、その數が殊に多い。

教育

教育は近年大いに進み、小學校・中學校・高等學校・高等女學
校等は年々著しくその
數が増して、普通教育の
設備が益々整ふと共に、農
工商等の補習學校があ
つて、實業上の智識を授
け、専門教育の爲には、大
學を始め、軍事教育・商業
工業・技藝等に關する多
くの學校が完備して、文

主 要 官 立 學 校 一 覽

大學	東京 (東京)	京都 (京都)	福 岡 (九州)	仙 臺 (東北)	札 幌 (北海道)	京 城 (京城)	臺 北 (臺北)
大單 學科	東 京 (文理科)	廣 島 (文理科)	大 阪 (文理科)	神 戶 (文理科)	名 古屋 (文理科)	京 都 (文理科)	新 潟 (文理科)
高等 學 校	東 京 (第二)	山 口 (山口)	仙 臺 (第一)	京 都 (第三)	金 澤 (金澤)	熊 本 (熊本)	岡 山 (岡山)
高等 工 業 學 校	東 京 (工務)	京 都 (工務)	神 戶 (工務)	長 崎 (長崎)	山 口 (山口)	小 樽 (小樽)	名 古屋 (名古屋)
高等 農 林 學 校	盛 岡 (盛岡)	鹿 兒 島 (鹿兒島)	鳥 取 (鳥取)	津 三 (津)	宇 都 宮 (宇都宮)	岐 阜 (岐阜)	宮 崎 (宮崎)
其 他	高等師範學校 (東京・廣島・奈良)	外國語學校 (東京)	美術學校 (東京)	音樂學校 (東京)	商船學校 (東京)	鐵山專門學校 (秋田)	高等蠶業學校 (京都)
	蠶絲專門學校 (東京)	蠶絲專門學校 (上巴)	藥學專門學校 (富山)				

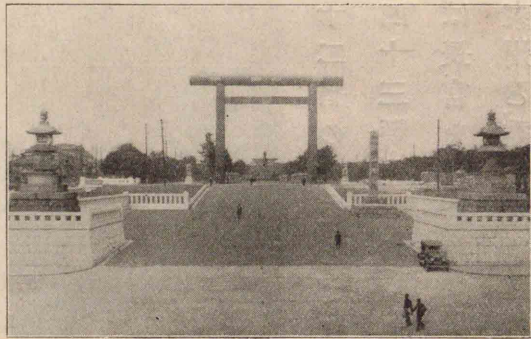
圖 靖 國 神 社
東京九段坂上にある靖
國神社の正面で屹立せ
るは大村益次郎の銅像

佛教は數多の宗派
に分れ眞言宗・眞
宗・禪宗・淨土宗・日
蓮宗・天台宗等は
その重なるものであ
る

運が著しく進み、東洋文化の中心となつて
る。又朝鮮・臺灣には、別に特殊の學校が設けら
れてゐる。

神社 日本民族は、皇祖皇宗を始め、氏族の
祖先や、勳功のあつた人を神と崇め、之を祭る
美風があるから、神社の數が甚だ多い。神社の
中、神宮は國家の大廟で、上下の尊崇が最も厚
い。その他の神社には、官幣社・別格官幣社・國幣
社・府縣社・郷社・村社等の社格がある。

宗教 國民は信教の自由を許されてゐるが、最も信徒の多いの
は佛教で、その他敬神の思想を基として起つた神道や、歐洲から傳
つた基督教も、一部に行はれる。



臺灣・樺太・朝鮮等は我が領土となつてから日がまだ浅い爲その住民は参政権を有しない

帝國國會議事堂
新築中の國會議事堂

貴族院は皇族・華族・勅選議員・多額納税議員等から成り衆議院は民選議員から成る

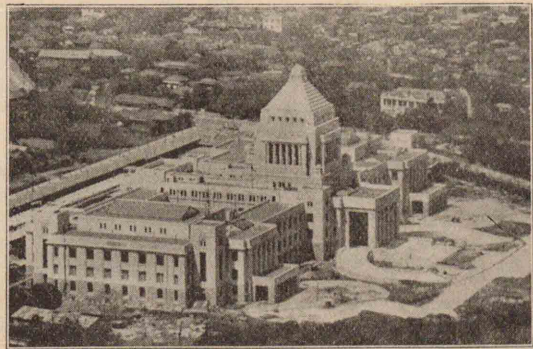
三大政治機關の外宮内省・樞密院・會計検査院がある宮内省は皇室の事務を掌り兼て華族を監督し樞密院は諮詢に奉答し會計検査院は政府の會計を検査する

第七章 政治

我が國は、上に萬世一系の皇統を戴いて、國體の尊嚴なことは、世界に比ひのない帝國である。

政體 明治二十三年以來立憲國となり、政治の機關は、立法・行政・司法の三部に分れる。

立法部は帝國議會で、貴族院・衆議院に分れ法律の協賛・豫算の議決等をする。行政部は政府で、その主腦の内閣は、内閣總理大臣と他の十二省の大臣とで組織され、重要な政務を執つてゐる。地方は三府・四十三縣・北海道・樺太・臺灣・朝鮮に分れ、府縣には知事、北海道樺太には長官を置き、朝鮮と臺灣とは、總督を置いて治め、又租借地の關東州と、委任統治地の臺灣とには、總督を置いて治め、又租借地の關東州と、委任統治地の



エジプト・ニカラグア・グアテマラ・ペネズエラ等の國々とも新條約締結の交渉中である

名師團	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	(海軍區) (鎮守府)	第一	第二	第三
司令部	東京	東京	仙臺	名古屋	大阪	廣島	熊本	旭川	弘前	(軍港)	横須賀	吳	佐世保
名師團	第九	第十	第十一	第十二	第十四	第十六	第十九	第二十		(要港)	大湊	舞鶴	馬公
司令部	金澤	姫路	善通寺	久留米	宇都宮	京都	龍南	龍山			大湊	舞鶴	馬公

へてゐる。

南洋諸島には、長官が駐在してゐる。司法は裁判所の掌る處で、大審院・控訴院・地方裁判所・區裁判所の四階級がある。朝鮮と臺灣とは、稍、その制度が違つてゐる。

國防 陸軍は、内地に十四箇師團の兵を配り、別に近衛師團があつて、宮闕を守護してゐる。朝鮮には二箇の師團が設けられ、臺灣と南滿洲とは守備兵を置き、又重要な地には要塞が設けてある。

海軍は、全國の海岸海面を三海軍區に分け、各區に軍港を定め、鎮守府を置き、又要害の地には海軍要港を設け、防禦に備

右表中の太字は大
使を交換してゐる
國を示す

條 約	
支那	支那
ベトナム	ベトナム
トルコ	トルコ
ベルギー	ベルギー
デンマーク	デンマーク
ポロランド	ポロランド
フィンランド	フィンランド
ソビエト連邦	ソビエト連邦
アメリカ合衆國	アメリカ合衆國
ブラジル	ブラジル
エクアドル	エクアドル
イタリヤ	イタリヤ
オーストリア	オーストリア
ブルガリヤ	ブルガリヤ
スエーデン	スエーデン
オランダ	オランダ
グンチヒ	グンチヒ
ルーマニヤ	ルーマニヤ
ラトビヤ	ラトビヤ
リトビヤ	リトビヤ
チリ	チリ
ペルー	ペルー
コロンビヤ	コロンビヤ
パラグアイ	パラグアイ
アフガニスタン	アフガニスタン
フランシス	フランシス
ハンガリー	ハンガリー
スペイン	スペイン
スイス	スイス
ノルウェー	ノルウェー
ギリシヤ	ギリシヤ
ユーゴスラビヤ	ユーゴスラビヤ
チェコスロバキヤ	チェコスロバキヤ
ルクセンブルグ	ルクセンブルグ
メキシコ	メキシコ
アルゼンチン	アルゼンチン
ウルグワイ	ウルグワイ

外交 我が國は、世界の主要國と概ね條約を結んで、通商航海をしてゐる。我が國の條約國は現に四十餘に及び、概ね大使或は公使を派遣して、外交上のことを掌らせ、又通商上の要地には領事官を置いて、通商貿易の事務や在外邦人保護の任に當らせてゐる。我が國は、明治維新以後長足の進歩をして、今では世界五大雄邦の一に數へられてゐるが、富力の程度も、産業の發達も他の歐米諸國に比べると、未だ劣る所が少くない。吾等は女子の本分に應じて、力を國運發展の爲に盡し、奉公の實を擧げなければならぬ。

女子最近日本地理終



不許
子女教育
最近日本地理
定價一圓六錢

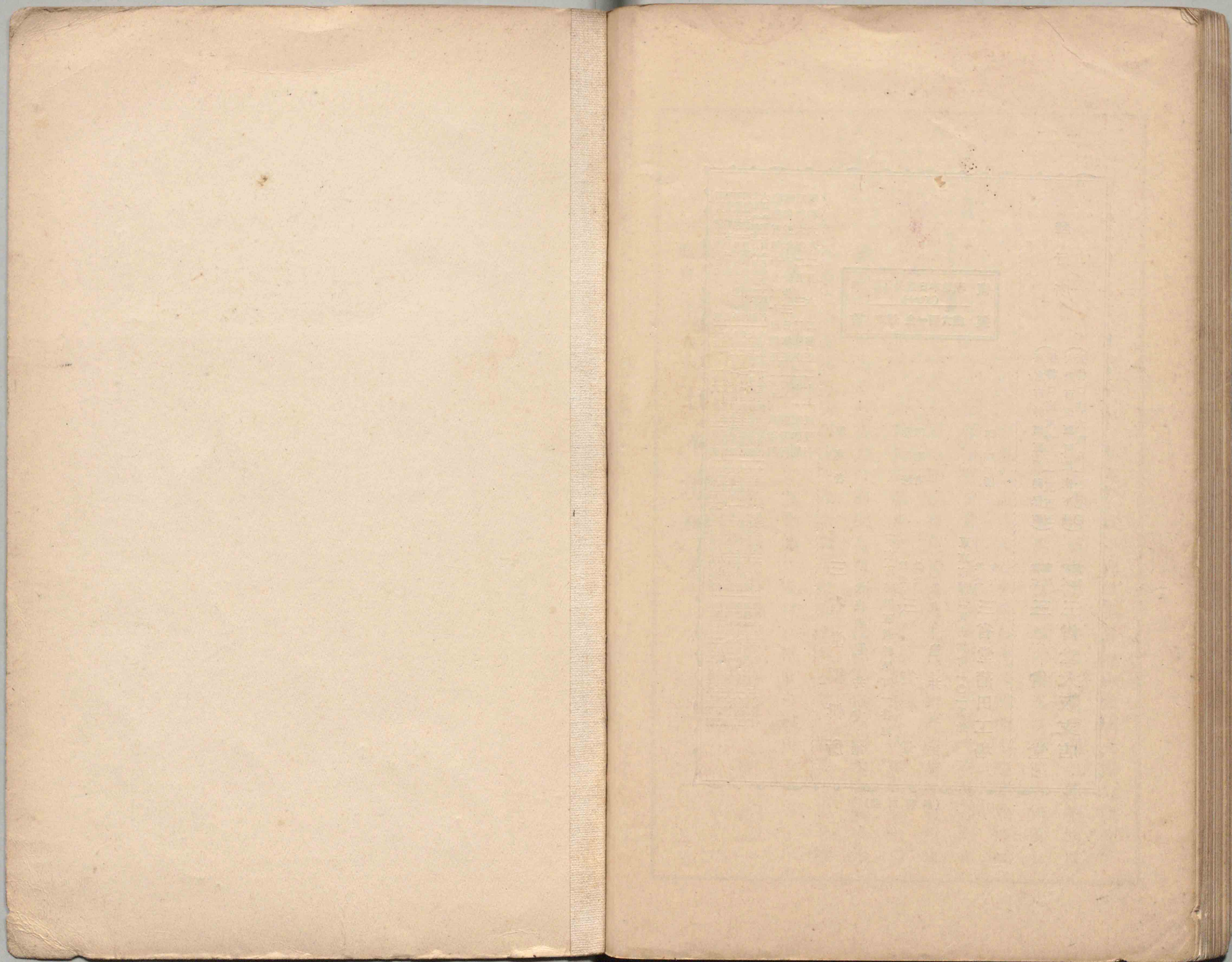
明治四年十一月二十日發行
明治五年二月二十日發行
明治六年三月二十日發行
明治七年四月二十日發行
明治八年五月二十日發行
明治九年六月二十日發行
明治十年七月二十日發行
明治十一年八月二十日發行
明治十二年九月二十日發行
明治十三年十月二十日發行
明治十四年十一月二十日發行
明治十五年十二月二十日發行
明治十六年一月二十日發行
明治十七年二月二十日發行
明治十八年三月二十日發行
明治十九年四月二十日發行
明治二十年五月二十日發行
明治二十一年六月二十日發行
明治二十二年七月二十日發行
明治二十三年八月二十日發行
明治二十四年九月二十日發行
明治二十五年十月二十日發行
明治二十六年十一月二十日發行
明治二十七年十二月二十日發行
明治二十八年一月二十日發行
明治二十九年二月二十日發行
明治三十年三月二十日發行
明治三十一年四月二十日發行
明治三十二年五月二十日發行
明治三十三年六月二十日發行
明治三十四年七月二十日發行
明治三十五年八月二十日發行
明治三十六年九月二十日發行
明治三十七年十月二十日發行
明治三十八年十一月二十日發行
明治三十九年十二月二十日發行
明治四十年一月二十日發行
明治四十一年二月二十日發行
明治四十二年三月二十日發行
明治四十三年四月二十日發行
明治四十四年五月二十日發行
明治四十五年六月二十日發行
明治四十六年七月二十日發行
明治四十七年八月二十日發行
明治四十八年九月二十日發行
明治四十九年十月二十日發行
明治五十年十一月二十日發行
明治五十一年十二月二十日發行
明治五十二年一月二十日發行
明治五十三年二月二十日發行
明治五十四年三月二十日發行
明治五十五年四月二十日發行
明治五十六年五月二十日發行
明治五十七年六月二十日發行
明治五十八年七月二十日發行
明治五十九年八月二十日發行
明治六十年九月二十日發行
明治六十一年十月二十日發行
明治六十二年十一月二十日發行
明治六十三年十二月二十日發行
明治六十四年一月二十日發行
明治六十五年二月二十日發行
明治六十六年三月二十日發行
明治六十七年四月二十日發行
明治六十八年五月二十日發行
明治六十九年六月二十日發行
明治七十年七月二十日發行
明治七十一年八月二十日發行
明治七十二年九月二十日發行
明治七十三年十月二十日發行
明治七十四年十一月二十日發行
明治七十五年十二月二十日發行
明治七十六年一月二十日發行
明治七十七年二月二十日發行
明治七十八年三月二十日發行
明治七十九年四月二十日發行
明治八十年五月二十日發行
明治八十一年六月二十日發行
明治八十二年七月二十日發行
明治八十三年八月二十日發行
明治八十四年九月二十日發行
明治八十五年十月二十日發行
明治八十六年十一月二十日發行
明治八十七年十二月二十日發行
明治八十八年一月二十日發行
明治八十九年二月二十日發行
明治九十年三月二十日發行
明治九十一年四月二十日發行
明治九十二年五月二十日發行
明治九十三年六月二十日發行
明治九十四年七月二十日發行
明治九十五年八月二十日發行
明治九十六年九月二十日發行
明治九十七年十月二十日發行
明治九十八年十一月二十日發行
明治九十九年十二月二十日發行
昭和元年一月二十日發行
昭和二年二月二十日發行
昭和三年三月二十日發行
昭和四年四月二十日發行
昭和五年五月二十日發行
昭和六年六月二十日發行
昭和七年七月二十日發行
昭和八年八月二十日發行
昭和九年九月二十日發行
昭和十年十月二十日發行
昭和十一年十一月二十日發行
昭和十二年十二月二十日發行
昭和十三年一月二十日發行
昭和十四年二月二十日發行
昭和十五年三月二十日發行
昭和十六年四月二十日發行
昭和十七年五月二十日發行
昭和十八年六月二十日發行
昭和十九年七月二十日發行
昭和二十年八月二十日發行
昭和二十一年九月二十日發行
昭和二十二年十月二十日發行
昭和二十三年十一月二十日發行
昭和二十四年十二月二十日發行
昭和二十五年一月二十日發行
昭和二十六年二月二十日發行
昭和二十七年三月二十日發行
昭和二十八年四月二十日發行
昭和二十九年五月二十日發行
昭和三十年六月二十日發行
昭和三十一年七月二十日發行
昭和三十二年八月二十日發行
昭和三十三年九月二十日發行
昭和三十四年十月二十日發行
昭和三十五年十一月二十日發行
昭和三十六年十二月二十日發行
昭和三十七年一月二十日發行
昭和三十八年二月二十日發行
昭和三十九年三月二十日發行
昭和四十年四月二十日發行
昭和四十一年五月二十日發行
昭和四十二年六月二十日發行
昭和四十三年七月二十日發行
昭和四十四年八月二十日發行
昭和四十五年九月二十日發行
昭和四十六年十月二十日發行
昭和四十七年十一月二十日發行
昭和四十八年十二月二十日發行
昭和四十九年一月二十日發行
昭和五十年二月二十日發行
昭和五十一年三月二十日發行
昭和五十二年四月二十日發行
昭和五十三年五月二十日發行
昭和五十四年六月二十日發行
昭和五十五年七月二十日發行
昭和五十六年八月二十日發行
昭和五十七年九月二十日發行
昭和五十八年十月二十日發行
昭和五十九年十一月二十日發行
昭和六十年十二月二十日發行
昭和六十一年一月二十日發行
昭和六十二年二月二十日發行
昭和六十三年三月二十日發行
昭和六十四年四月二十日發行
昭和六十五年五月二十日發行
昭和六十六年六月二十日發行
昭和六十七年七月二十日發行
昭和六十八年八月二十日發行
昭和六十九年九月二十日發行
昭和七十年十月二十日發行
昭和七十一年十一月二十日發行
昭和七十二年十二月二十日發行
昭和七十二年十月二十日發行
昭和七十二年十一月二十日發行
昭和七十二年十二月二十日發行

發行所

東京市神田區通神保町
三省堂
大阪市西區阿波座下通
三省堂大阪支店

編纂者 三省堂編輯所
代表者 龜井寅雄
發行所 三省堂編輯所
代表者 龜井寅雄
印刷所 三省堂蒲田工場
代表者 龜井寅雄

(本製田蒲)





山
車
研

箱

31

95

広島大学図書

2000039095

